

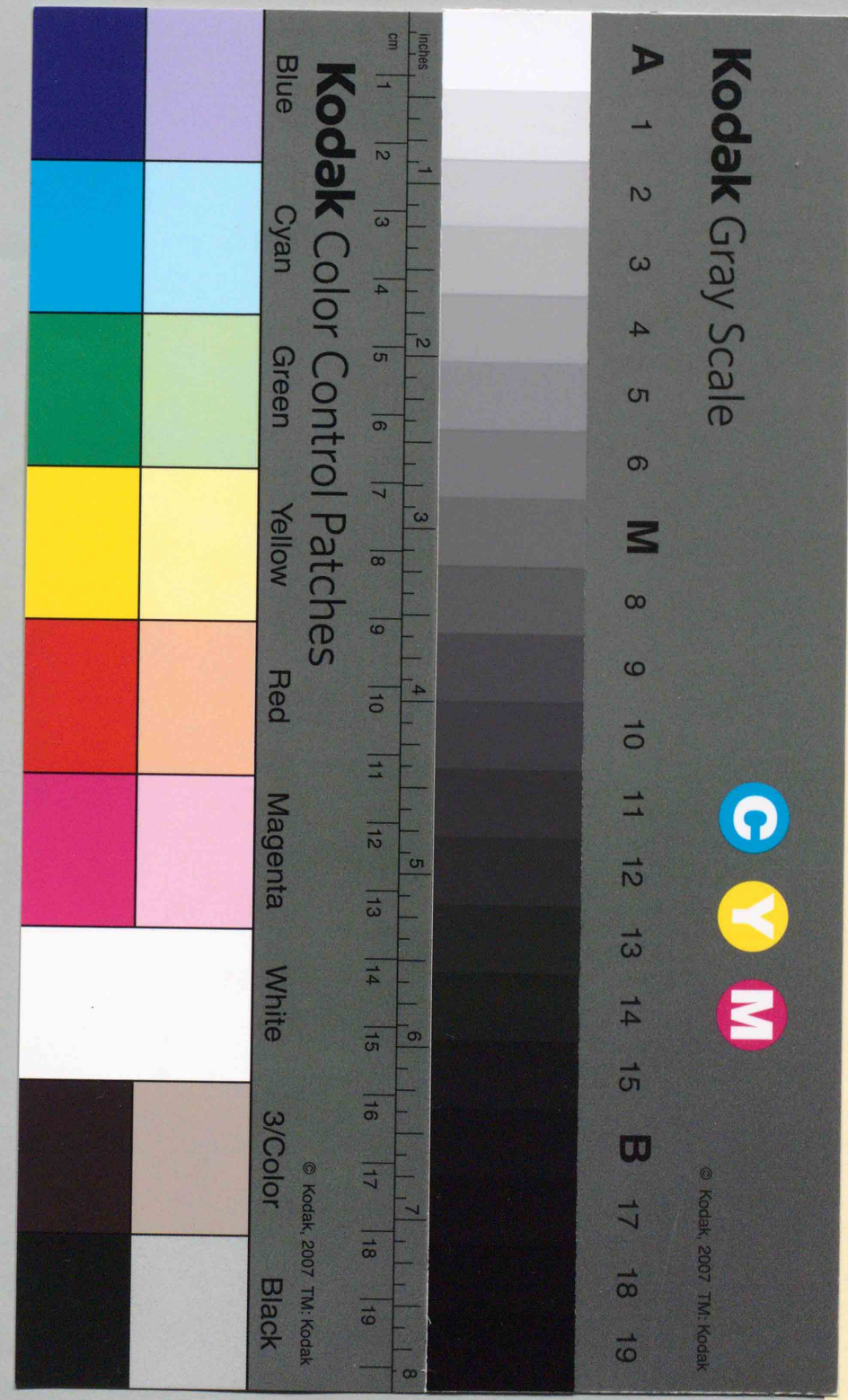
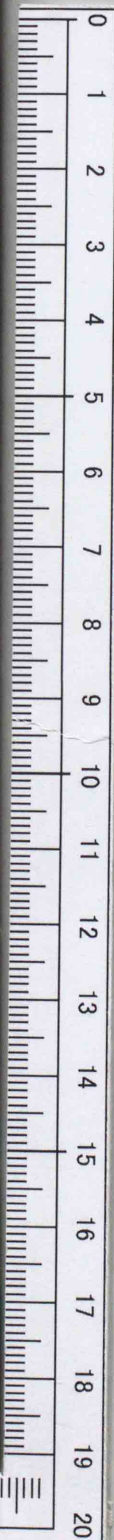
文部省検定済

守屋荒美雄著
經濟學士
守屋美智雄 補訂
新令準據

地理新選
日本篇
修正版

株式會社 帝國書院

教
44-
2000



43054

教科書文庫

4
290
44-1941
20000
41340





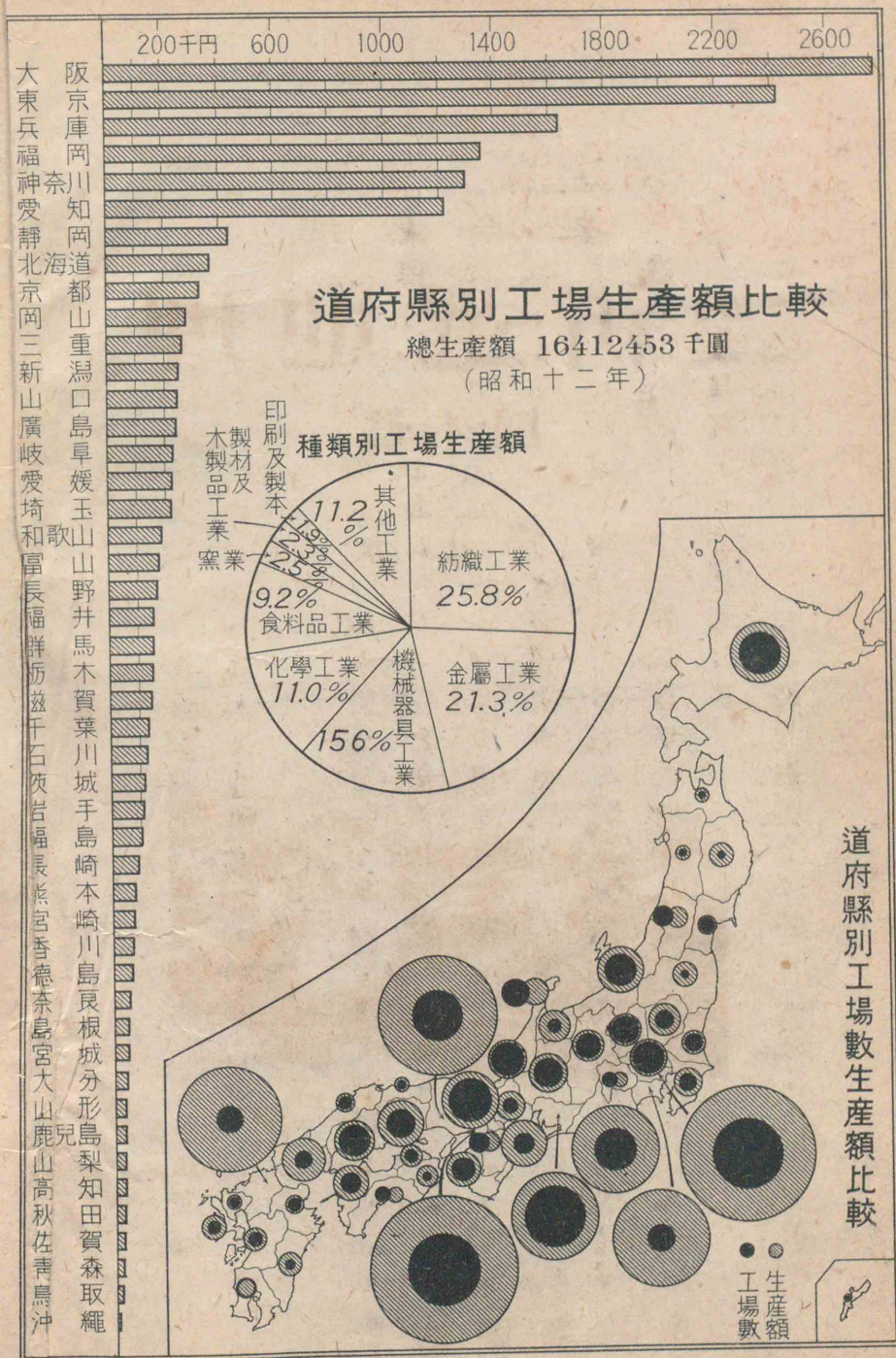
本書は昭和十二年三月改正された實業學校地理科教授要目に準據し
て編纂したもので、別に著した實業新選地理外國篇同概説篇と姉妹篇
をなすものである。

我々日本地理教育の目的は、我が優秀な國民が、其の國土を利用開發し
て、日本獨特の文化を形成した所以を知らしめ、我が國の現状を理解せ
しめて、國民精神を涵養し、更に國家の興隆と民族の發展とに貢獻する
知性を陶冶するにある。實業學校の地理教育に於ては、特に國民の經
濟活動が直ちに國家の繁榮に影響する點を指摘し、積極的の自然利用
と商工業的活動とによつて、我が日本の世界的地位を高揚しなければ
ならない點を強調する必要がある。

本書はこの要望に副はんことを期し、編纂上に於ては特に次の諸項に
留意した。

例言

例言





- 一、初等教育と密接な連繫を保ち、其の基礎的知識を培養育成して、これを組織化し、綜合化することに努めた。
- 二、各地域は其の自然と住民との交互的接觸によつて、文化景觀にも各特色がある。故に各小地理區の特性を明らかにし、これを綜合して各地方の特性を知り、更に國家にこれを纏めて、我が國の特性を十分に認識せしめるやう説述した。
- 三、近時我が國の産業の勃興は實に躍進的で、世界の驚異となつてゐる。實業地理に於ては特に此の方面を正しく把握し、將來活動の基盤とする必要があるので、自然に關する記述はこれを簡略にして、産業の事項を詳述した。又産業に就いては深く研究と調査とを遂げ、一定の規準を立てて、これに該當するもののみを掲げ、從來の教科書に見られない新興産業の説述に努めた。
- 四、説述に當つては羅列的記載を避けて、勉て景觀的記述法を採り、地

域性の把握に便ならしめ、文章も能ふ限り平易を旨とし、而も直截簡明にし、景觀的挿畫の挿入と併せて、學習能率を高めることに留意した。

五、地理的用語は可及的にこれを整理して、實業教育に必要な最少限度に止め、其の提示は學習者の發達段階に即應するやうにし、又適切な讀圖材料を多く採入れて、地理的觀察眼を養ひ、種々の地理的作業に便ならしめた。

本書の編纂に關して多大の援助を賜はつた陸地測量部各新聞社、國勢社、中等學校教官諸賢に對して深甚なる謝意を表す。

昭和十五年十月

補訂者識

目次

第一編 緒論……………一

第二編 地方誌……………三

第一章 關東地方……………三

第二章 奧羽地方……………一九

第三章 中部地方……………三三

第四章 近畿地方……………三五

第五章 中國地方……………六九

第六章 四國地方……………八

第七章 九州地方……………六九

第八章 臺灣地方附新南群島……………一〇七

第九章 南洋群島地方……………一二九

第十章 北海道地方……………一三三

第十一章 樺太地方……………一三五

第十二章 朝鮮地方……………一四一

第十三章 關東州地方……………一五三

第三編 總括……………一五七

第一章 自然的條件……………一五七

第二章 人文的特性……………一五九

第四編 結論……………一六五

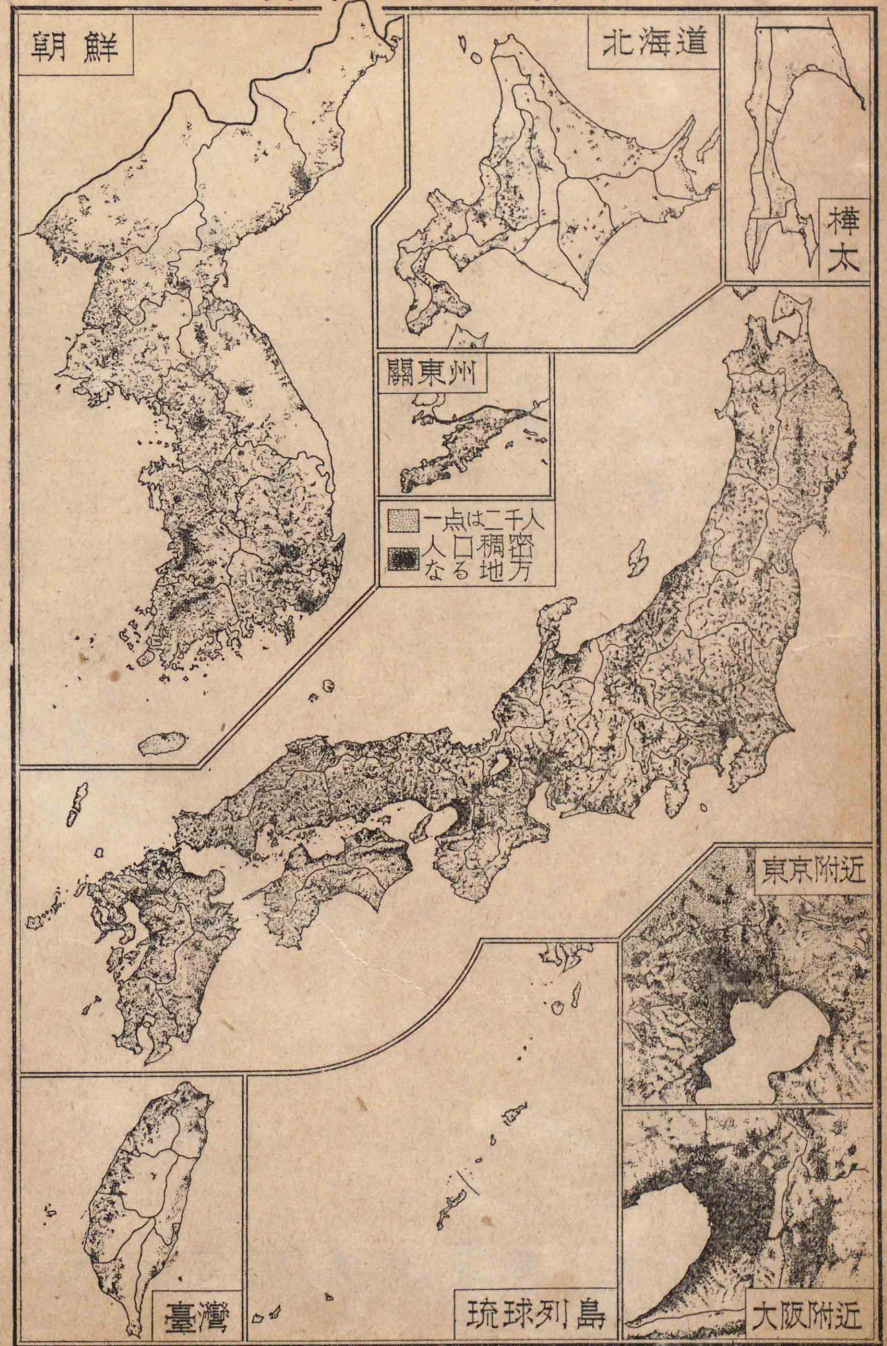
郷土地理の研究……………一七四

日本地理統計表……………一七八

富士の麗容を仰ぎつゝ、身體の錬磨に勤む小國民



日本の人口分布





新令 準據 實業 新選地理 日本篇 修正版

第一編 緒論

境域 我が國は、アジア大陸の東の日本列島と、朝鮮半島と、關東州と、南洋群島及び新南群島とから成つてゐる。

特殊國家 國民は優秀な大和民族からなり、萬世一系の皇室を戴いて、古くから世界に比べものない美しい國を建ててゐる。

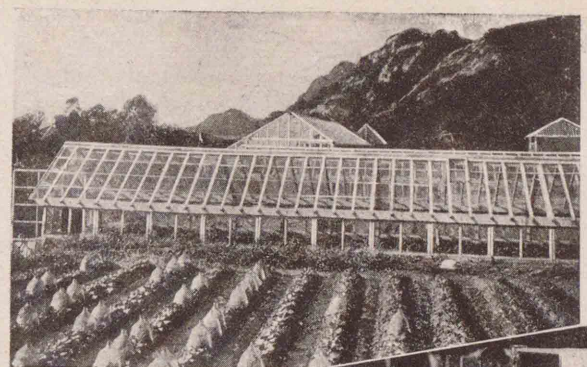
無窮發展 其の上大陸に對するよい位置を占め、皇祖の御神勅其の儘に國勢は無窮に發展して、領土も次第に増し、



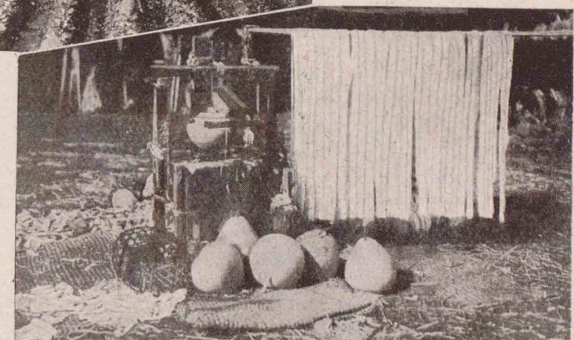
内地(本土)
北海道本

緒論

房總半島の促成栽培



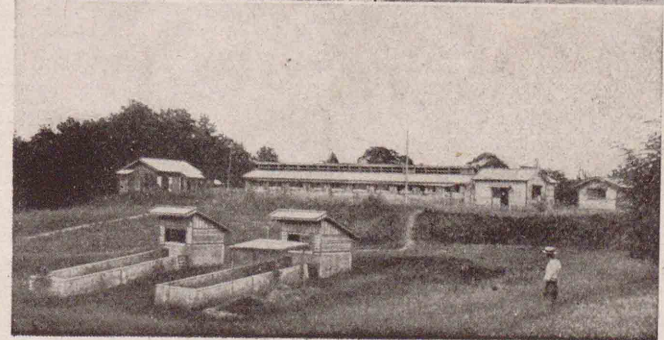
栃木縣の干瓢製造



東京灣に於ける淺草海苔の採取



收繭



千葉縣の養豚

第二編 地方誌

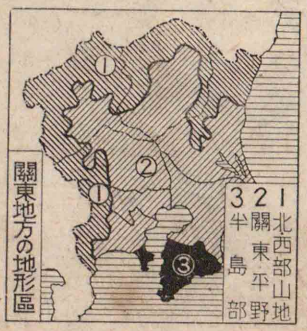
第一章 關東地方

面積三、三六方粁
人口一、五七萬人
人口密度四四一人(一方粁)

一 自然

(一) 位置 我が本土のほぼ中央部に當り、政治の上からも、産業の上からも、軍事の上からも、中心となるべきよい位置を占める。

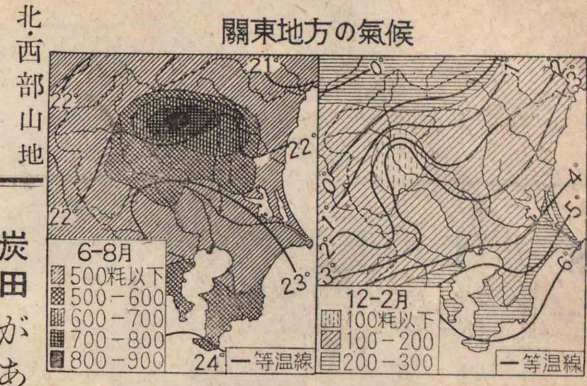
(二) 地形 (1) 北部に阿武隈・帝釋・三國の三山脈が、那須火山脈と共に連なり、西部に關東山脈と、富士火山脈とが走つてゐる。
(2) 南部には房總・三浦の兩丘陵が連なり、
(3) 山地と丘陵との間には廣い關東平野が開けてゐる。か



關東地方の地形區

關東地方

關東地方の氣候



く、圖のやうな三地形區に分けることが出来る。
 (三) 氣候 近海には日本海流が流れ、ために半島部は極めて暖く、避寒に適する。一般に夏季は南東季節風が吹いて雨量が多く、冬季は北西季節風が吹いて潤風が多い。日光、赤城、榛名等の山地は冷涼な山地氣候で、避暑に適する。

二 原始産業

(一) 北西部山地 阿武隈山脈の一部に常磐炭田があつて、茨城、高萩等の炭坑が連なり、炭質はよくないが、兩毛、長野の機業地及び京濱の工業地に送られる。其の南部の日立からは、銅、金、銀、鑛を産し、太田では大理石、筑波山附近では花崗岩を産する。足



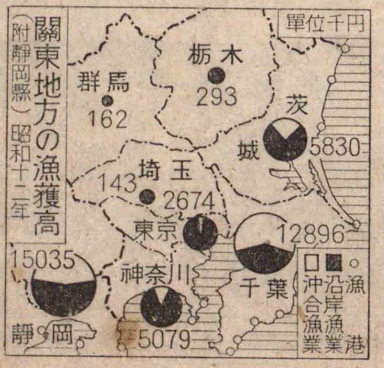
九十九里濱の沿岸漁業

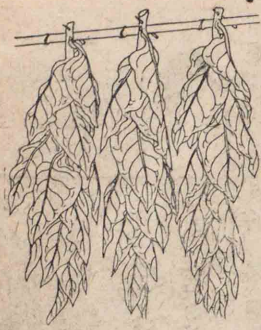
尾山塊では銅、金、銀、鑛が採掘され、大谷から採掘する凝灰岩はこの地方の土木建築材として賞用せられる。尙青梅では石灰石、根府川では火山岩の石材を産する。

日立は各地から買入れる鑛石をも併せて精鍊するので、金、銀は内地第一の産額がある。足尾は慶長年間に始つた銅山で、其の銅は江戸城の築造にも用ひられ、今は別子と共に我が國の二大銅山である。

(二) 半島部 近海は魚族に富

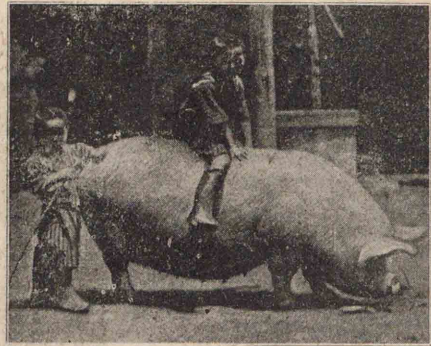
んでゐる。上京濱の大需要地を控へてゐるから、漁業の發達を促し、九十九里濱の沿岸漁業は衰へたが、銚子及び半島部の漁港を根據とする。沖合漁業で、鰹、鮪、鰯を漁獲し、鰹節、鰯の煮干、搾粕等が





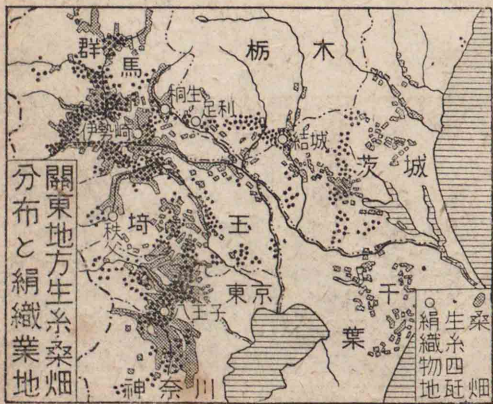
葉煙草の乾燥

關東地方



神奈川県 養豚

茨城縣に大豆、千葉、神奈川兩縣に落花生、武藏野常
總兩臺地に甘藷、狹山附近に茶畑の多いのは、共に
臺地の特殊景觀で、京濱工業聚落の周りに、野菜栽
培、温室栽培、養禽、養豚が盛なのは、都市附近の共通
景觀である。常總臺地の南部には三里塚の牧場
があり、又雑木林が廣く連
なつて、京濱に薪炭を送る。
北西部の山麓帯は畑が廣
く、茂木、烏山、太田、秦野一帯
は煙草を作る。栃木縣は
大麻の畑が多く、西部の山
麓地方は桑畑が連なり、主
な養蠶地帯である。浅い

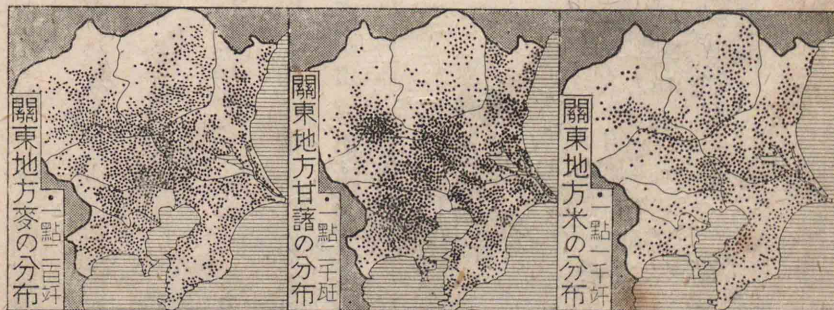


七

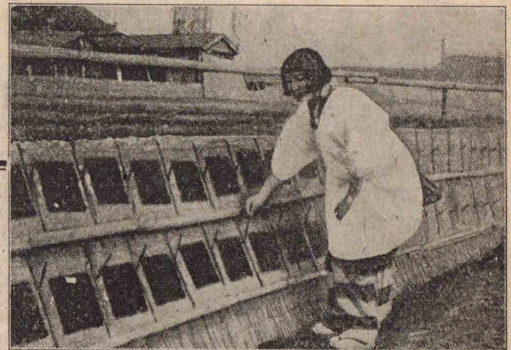


關東平野

作られる。又岩石海岸は、鯛や貝類のよ
い繁殖場となつてゐる。温暖な氣候を
利用して、野菜の促成栽培を行ひ、早期の
野菜を京濱地方に送る。又枇杷の産が
多く、京濱の果物店を飾る。乳
牛は半島南部に多く、乳製品を
東京に供給してゐる。
三 關東平野 那珂利根多摩相
模等の川筋の灌漑のよい低地
には米田が連なり、臺地には火
山灰に被はれた畑地が廣く連
なつて、盛に麥作が行はれ、大麥
小麥の産が多い。



六



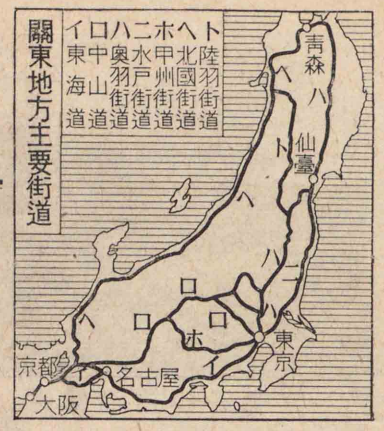
乾燥の海苔草

東京灣の北部では、海苔や貝類を養殖してゐる。淺草海苔は、塵芥汚水の注ぐ淡水まじりの東京灣の淺海が養殖に適し、土産物産業としては全國最大である。又國民の好みに合ひ、遊覽客の多い東京の特産であるため賣行を高め、今は全國から原料を移入してゐる。

- 農業(米・大麥・小麥・甘藷・大豆・落花生・茶・煙草・大麻野)
- 菜花・卉・栽・桑・養蠶)
- 牧畜(乳牛・豚・鶏)
- 林業(薪炭)
- 水産業(鱈・鮪・鯉・海苔・貝類)
- 鑛業(銅・金・銀・石炭・石材)

二 交通

陸運 (一) 陸運 古來東海道は箱根、中山道は碓氷、陸羽街道は白河、甲州街道は小佛、濱街道は勿來等、それぞれ周圍の要地を通過して東京に集つてゐた。



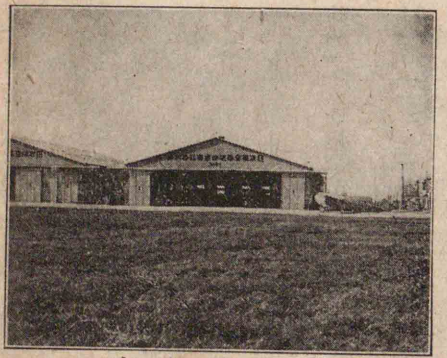
今も、東海道・中央・信越・高崎・上越・東北常磐の諸線は、清水・丹那等の大トンネルや、碓氷峠のアプト式軌道等によつて、東京に集る。尚、總武房總成田・水戸・兩毛・八高等の鐵道も完備してゐる。

(二) 水運 横濱を中心として内外の諸港に通じ、帝都には、東京港がある。利根川・江戸川・霞浦北

水運 浦は、特に重要な内陸水路である。

空運 (三) 空運 定期航空路も亦、東京(羽田)を中心として、大阪・新潟・富山・札幌方面に通じてゐる。

其他 (四) 其他 鎌倉から敷設した海底電線は小笠原諸島の父島で、米國線と接続する。東京無線電信局は、送



東京飛行場

信所を栃木縣の小山及び千葉縣の檢見川に、受信所を埼玉縣の福岡・岩槻に置く對米對歐の大無線電信局である。

三 工業 商業

工業

(一) 工業 前に記した通り關東平野は大生産地である上、水力電氣に恵まれ、又常磐炭田を控へ、交通にも恵まれてゐるから、其の中心は京濱工業地帯となり、綿絲・綿織

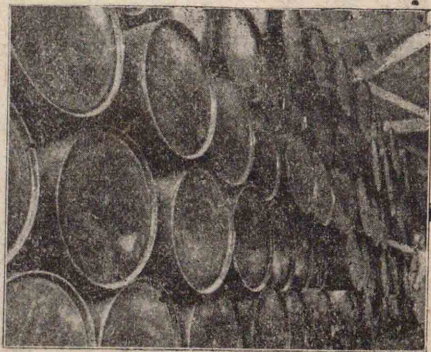


銚子の醤油輸送

物・機械・金屬・肥料・洋紙・麥酒・セメント・藥劑・印刷物・軍需品等の大工場が連なつてゐる。延いて附近にも市川の洋紙・モスリン、船橋の小麥粉、川口の鑄物・麥酒、大宮の鐵道等の工業が起つてゐる。水質がよく原料の豊富な利根川・江戸川の河畔の野田・銚子・市川・流山・石岡地方は、釀造地帯とな

商業

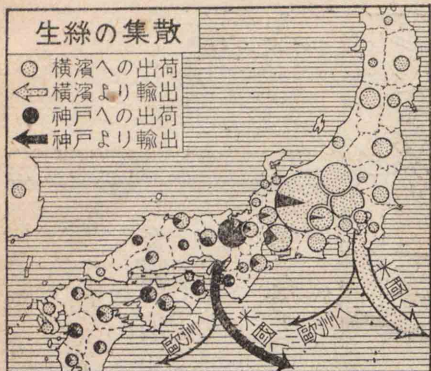
つた。北部の炭田地方の高萩に人絹、人織、日立に機械工業が起り、北西山麓の養蠶地帯には、機業製絲地の足利・桐生・伊勢崎・富岡・秩父・本庄・深谷・熊谷・八王子等が並び、千葉縣の茂原一帯には、天然ガス利用の硝子・電球等の工業、甘藷



千葉の酒精工場

の多い千葉には酒精釀造が起り、尙太田の飛行機、鹿沼の麻製品、高崎の板紙・セロファン、忍の足袋の製造も著れる。

(二) 商業 東京は産業の發達、交通機關の整備によつて、商業が榮え、大阪に對して、内地の東半を商圏とする。横濱は生絲・絹織物の大輸出港で、神戸・大阪と共に、我が國の三大貿易港である。



生絲の集散



千葉縣
五、〇六三方糶
一五五萬人
三〇五人

埼玉縣
三、八〇三方糶
一五五萬人
四〇三人

群馬縣
六、三三三方糶
一四四萬人
一八八人

西部山地

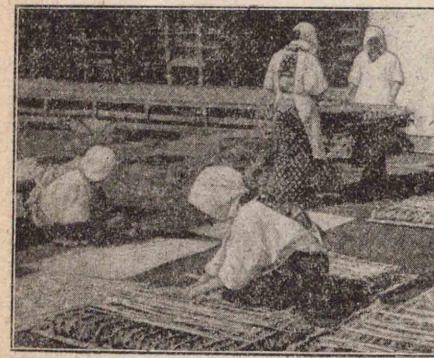
避暑遊覽地の國立公園箱根がある。
賀市の軍事地、浦賀の造船地等がある外、一帯は漁業區となつてゐる。
半島部 横須

千葉縣

平野部 臺地は軍用地に利用され、千葉市市川市船橋市は東京市と關係が深い。河畔部の佐原野田銚子市流山等は、醸造地帯を代表してゐる。
半島部 木更津館山市は、漁業・休養區を代表する。

埼玉縣

平野部 川口市浦和市大宮市の一帯は、京濱工業地帯の續きで、川越市熊谷市本庄忍秩父は、山麓の養蠶機業地を代表する。
群馬縣 平野部 高崎市前橋市伊勢崎市



養蠶の地帯麓山

桐生市は山麓の養蠶機業地帯を代表す

る。北部山地 火山や温泉(伊香保草津四萬)が多く、避暑遊覽地である。

栃木縣 六、四七方籽

二〇萬人

一八六人

栃木縣 平野部 山麓地帯の養蠶機業地域には足利市佐野栃木市鹿沼があり、小山は交通の要地、宇都宮市附近に干瓢の産がある。

北部山地

国立公園の日光

や、鹽原那須の温泉

泉地、足尾の鑛業地が開けてゐる。

茨城縣 平野部 結城は紬産地、土浦市

石岡は醸造地である。利根下流霞浦北

浦の水郷地方は低地で、水郷の特殊景觀

を呈し、霞浦に公魚、白魚の産がある。

水戸市は濱街道の城下町で、太田と共に



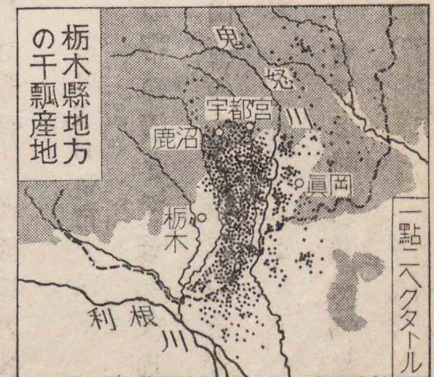
郷水

茨城縣

六〇九方籽

一五萬人

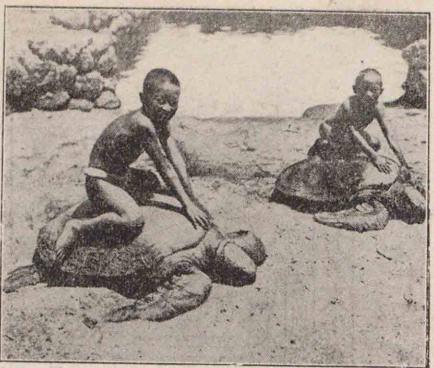
二五五人



栃木縣地方の干瓢産地

一點ハクタトル

南方諸島



甲の龜及び海島の諸島原は1.5米小笠原長

煙草を産する。

北部山地

常磐炭田の南部で、鑛業區をなし、日

立市高萩は工業地である。

南方諸島

伊豆小笠原の諸島硫黄列島南鳥島等の總稱で東京府に屬し、高温多雨の亞熱帶海洋性氣候である。

伊豆諸島 大島には活火山の三原山があつて、氣候も

よく、遊覽地となつてゐる。其の裾野で牧牛が行は

れ、バターを産する。八丈島は養蠶、牧牛が盛で、八丈

絹、椿油を産する。

小笠原諸島 甘蔗、甘藷、バナナ、パイナップルを産し、又珍

しい海龜、信天翁、大蝙蝠がある。冬期に蔬菜類を東

京に送る。大村は、海底電線の伸繼所で、奥村に歸化人がゐる。

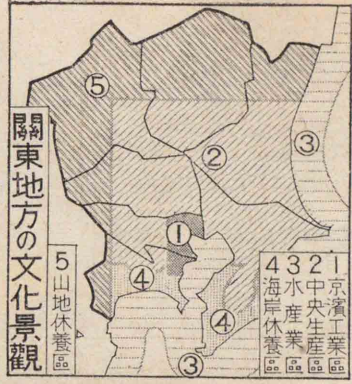
硫黄列島は三つの火山島からなつて、甘蔗が作られ、南鳥島は珊

瑚島で、鳥毛の採取が行はれる。



信天翁

五 生活 特性

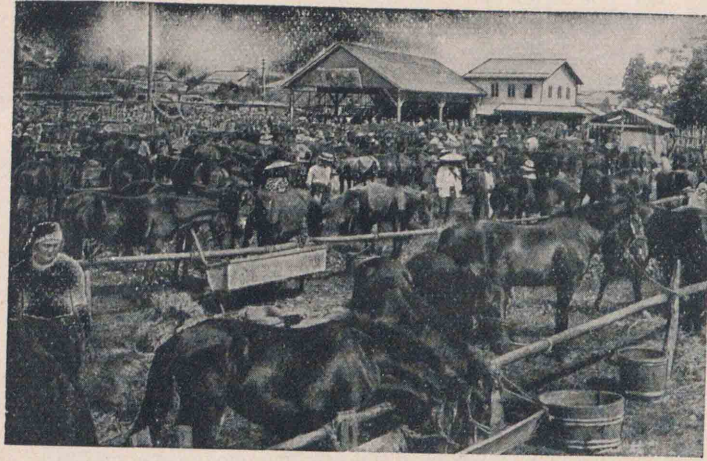


(一) 人口密度は我が國最大で、尙他の地方から、人口を吸収しつゝ、

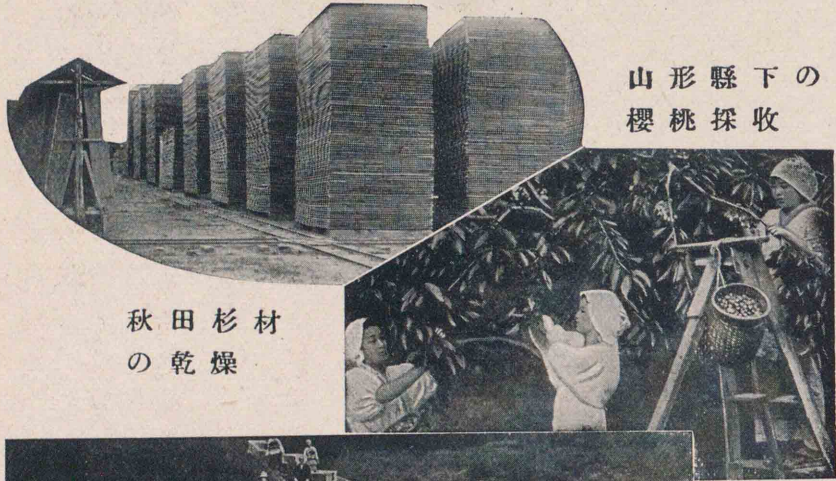
ある。其の中心は京濱工業地域で、これを遠ざかるにつれて疎となるが、山麓の養蠶絹織業地は、又密である。

(二) 東京の周圍には、野菜栽培の聚落、其の次に米麥栽培の聚落があり、海岸に漁村、山麓に機業聚落があつて、共に大生産地區をなしてゐる。又房總湘南及び火山地方は、京濱人士の休養地帯週末旅行地となり、大東京を中心として、互に深い關係を保つてゐる。

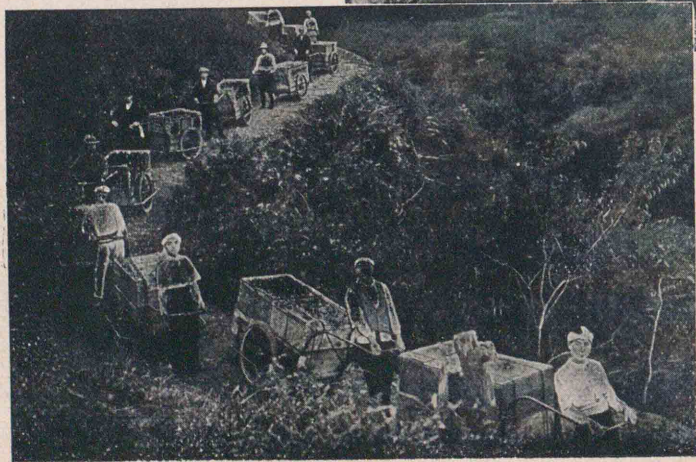
盛岡の馬市



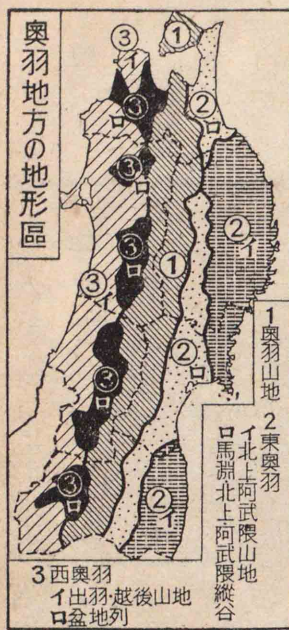
山形縣下の櫻桃採收



秋田杉材の乾燥



青森苹果の運搬



奥羽地方

位置
地形

第二章 奥羽地方

突、九二万軒「二〇八人
六九萬人」

一 自然

(一) 位置 本州の北東部を占め、昔の陸奥・出羽の地である。
 (二) 地形 ① 中央に奥羽山脈が走り、那須火山脈を伴なつて岩手・磐梯等の大きな火山が聳え、この地方を東奥羽・西奥羽に分ける。② 東奥羽には阿武隈・北上・馬淵河谷や、仙臺平野

を連ねる低地を挟んで、北上・阿武隈山脈があり、③ 西奥羽には、盆地的性質を帯びた津軽平野や、横手・新庄山形・米澤・會津等の盆地列を距てて、出羽・越後山地がある。これによつて



岩手山と南部馬

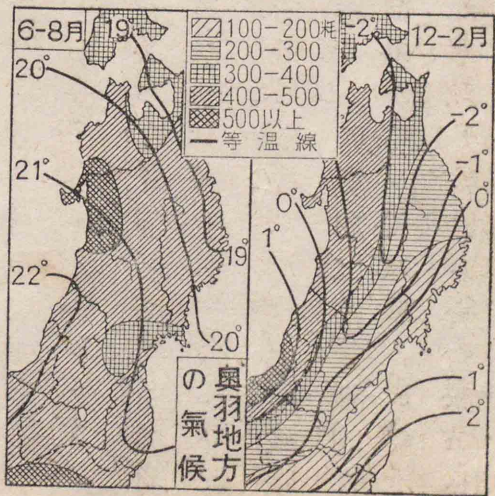


岩木山と苹果園

圖のやうな五地形區に分けられる。

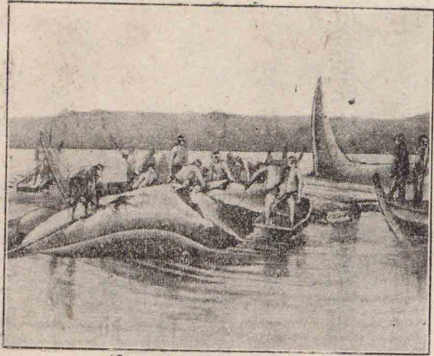
(三) 氣候 ① 太平洋方面は千島海流が北から南下し、日本海流は南から来て、東に外れる。従つて東奥羽の北部は、南東季節風の吹く夏には濃霧が起つて氣温が下り、作物の生育を妨げる。② 日本海方面は、冬季は北西季節風のために深雪地帯となるが、晩春から急に暖くなつて、梅・櫻・桃李が一時に花を開き、盆地内は夏はかなり高温となる。

二 原始産業



(一) 奥羽山地 北部には、小坂・尾去澤・花岡等の銅・金・銀産地が連なつて、鑛業地帯が開け、松尾沼尻には硫黄の産が多い。湖には鱒が飼はれる。

松尾沼尻の硫黄は、共に火山の爆烈火口内に出来たもので、松尾は又全國第一の硫化鐵鑛山である。

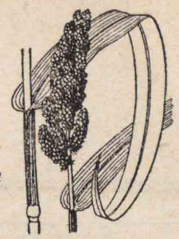


岩手縣の捕鯨

(二) 東奥羽 北上山地には鐵山の釜石含銅硫化鐵鑛山の田老があり、岩手縣の砂鐵は近時利用されるに至つた。阿武隈山地には石灰岩を出し、南東に常磐炭田がある。岩手縣東部の灣内にはよい漁港があつて、鱈・烏賊・鮪・鰹を産し、又鰹節・搾粕・竹輪・蒲鉾等の製造も行はれる。鮎川は、捕鯨の根據地である。

奥羽地方

漁業 奥羽地方の太平洋岸は全
國有数の漁場で、漁期には表日本
各地の漁船が出漁する。近年、八
戸宮古釜石氣仙沼女川右巻
鹽釜小名濱等は、各、巨費を投
じて、設備を整へたので、この
方面の漁業は益、有望となつた。

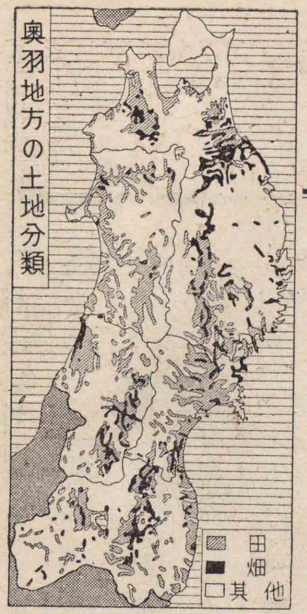


移

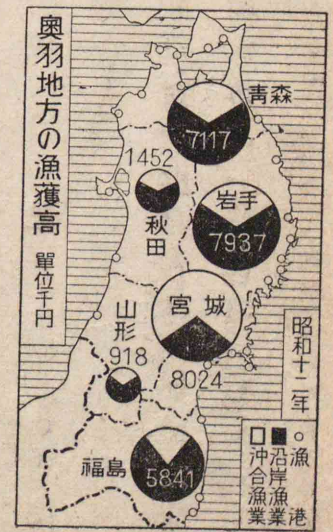
低地には米田が連なり、岩手縣では、**移大豆**等の雜穀が作ら
れる。低地の兩側の斜面や三本木原は、**牧馬**に利用せられ、
古來南部馬・三春駒の名が高く、主要な
軍馬供給地である。

牧馬 奥羽地方の東部は、雨量が少くて原野
が廣く、よい牧草に富み、且古くから産馬の改
良に苦心したので、我が國有数の馬の産地と

なり、産馬は軍用としても優秀なことは、支那事變
に於ても立證せられた。

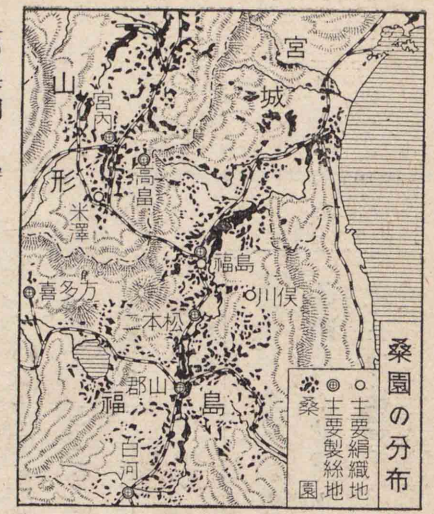


奥羽地方の土地分類



昭和十一年

西奥羽



桑園の分布

阿武隈河谷は**養蠶**地帯で、又煙草畑が開け
てゐる。

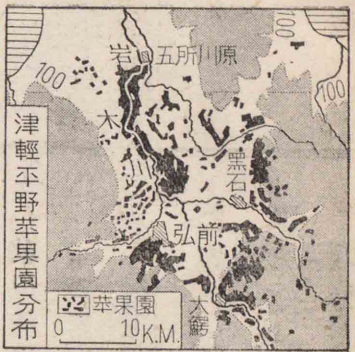
西奥羽 荒川發盛阿仁には銅銀金の産
が多く、秋田地方に**油田**があり、土崎港で製
油する。

秋田油田の採油は、明治六年に始つた。其の産額は常に新潟縣に劣つ
てゐたが、近年八橋が俄に産出量を増したので、忽ち新潟縣の産額を遠
く凌ぎ、近時は小國院内も活氣を呈してゐる。

海岸の平野には米田が連なり、津輕半島に羅漢柏、米代流域
に杉の美林があり、能代市で盛に製材して、各地に送る。

八郎湯には鮒せいごぼらはぜえびを産し、佃煮の原料として東京に送

奥羽地方



る。尙秋田の近海には雷魚の特産がある。

各盆地・平野は米産が多く、この地方の需要を充たして、尙餘米は京濱・北海道・樺太に移出される。津軽平野には蘋果、山形盆地には櫻桃、會津盆地には柿の産が多く、米澤・會津兩盆地は、養蠶地帯である。

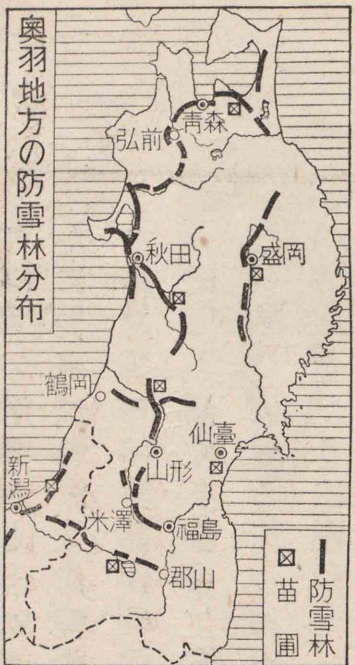
青森縣の苹果 明治七年、米國人がもたらして植ゑたのが初で、急に發展し、明治二十年代には立派な産物となつた。後、フランスの宣教師からフランス流の剪定法を學び、ために一樹から數十圓の良果を擧げるやうになつた。今は和歌山縣の柑橘の栽培にならひ、山地に栽培してよい結果を得てゐる。

農業米・麥・稗馬鈴薯・櫻桃・苹果・烟草・栽桑・養蠶
 牧畜(馬) 林業(杉・羅漢柏) 水産業(鰻・烏賊・鮪・鯨) 鑛業(金・銀・銅・鐵石・炭・石油・硫黃)

三 交通

陸運

(一) 陸運 街道は勿來・白河・念珠等の關門を抜けてこの地方に入り、早くから縦谷・海岸に並行して設けられた。



鐵道には南北の低地を走る縦貫線に、東北・奥羽・常磐・羽越の諸線があり、北海道に、青函・青室・連絡船を通じてゐる。磐越・仙山・陸羽・横黒・花輪・米坂等の横斷線は、多く河谷を利用して、東奥羽・西奥羽を連絡してゐる。西奥羽を走る諸線は、防雪林・防雪トンネル等によつて、各冬季の雪害を防いでゐる。

水運

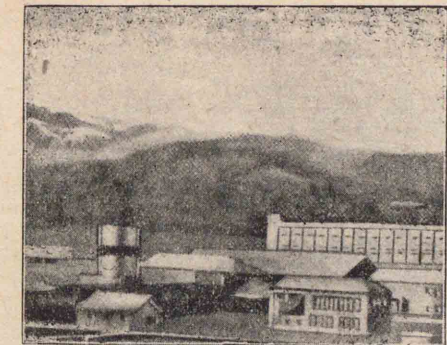
(三) 水運 良港が乏しく、且太平洋方面の夏の濃霧、日本海方

面の冬の吹雪や風浪に妨げられて、餘り振はない。

四 工業 商業

工業

(一) 工業 地形氣候等の關係から、近代工業は發達が後れ、僅かに従來は、會津塗・津輕塗・相馬燒・弘前の木通細工・仙臺の埋木細工等の手藝品が、家内工業的に行はれた。しかし近時漸く各種の工業が起り、特に東北振興の必要が叫ばれるやうになり、新しい工業も各地に見られるやうになつた。



郡山附近の人織工場

北上山地の鑛産地域には、釜石・宮古に精鍊事業が起り、大湊には砂鐵を原料とする精鍊事業を見るに至つた。猪苗代發電地帯には、若松の東北に亞鉛精鍊、化學藥品製造、福島郡山附近には人絹・人織

商業

工業が起り、常磐炭田地域には、平に耐火煉瓦、四倉にセメント、小名濱に硫安、錦に人織の工業が行はれる。又阿武隈川最上川流域の養蠶地帯を背景として、郡山・二本松・宮内に製絲、川俣・鶴岡・山形・米澤に絹織業が起つてゐる。その他、セメント・酒精・アルミニウム工業地としての八戸、パルプその他の工業地としての土崎港・秋田・酒田の一帶は、新興の工業地帯である。

(二) 商業 東京の商圏内にあるが、羽越線の開通で、大阪の勢力も侵入した。青森は東京・大阪兩市の商品を、北海道樺太に伸繼し、船川港・釜石・鹽釜と共に開港場である。

五 處 誌

福島縣
一五、六二方
一五萬人
二五人

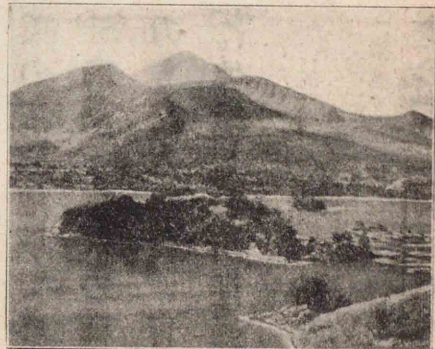
福島縣

阿武隈縱谷

白河須賀川三春郡山市二本松川俣福島市等

奥羽地方

二二 一九〇九 五五 一〇九 四八 二七



山梯磬と湖代苗猪

は、共に養蠶牧馬地帯の代表聚落である。

阿武隈山地帯 平市内郷四倉小名濱等は

常磐炭田に立脚した鑛工業聚落である。

西部低地 猪苗代湖水を利用した工業

が起り、若松市は其の中心地である。

宮城縣 阿武隈流域は養蠶地帯で、白

石製絲が中心、仙臺平野の仙臺市は、東

北地方の學術軍事の中心をなし、袴地理木細工鑄びない刃物の

名産がある。外港鹽釜は漁港を兼ね、松島には牡蠣が養殖せら

れる。石巻市は今は漁港で、水産製造物の産が多い。北上山地

海岸は漁業地帯となり、氣仙沼女川鮎川等の漁港が多い。中央山

地 鍛冶屋澤は牧馬の中心地、鬼首鳴子は温泉地である。

岩手縣 北上縦谷 南門の一、關黒澤尻花巻は交通の要地で、盛

宮城縣

七、二五方秆

一三萬人

一七人

岩手縣

一五、二五方秆

一〇五萬人

六九人

は、共に養蠶牧馬地帯の代表聚落である。

阿武隈山地帯 平市内郷四倉小名濱等は

常磐炭田に立脚した鑛工業聚落である。

西部低地 猪苗代湖水を利用した工業

が起り、若松市は其の中心地である。

宮城縣 阿武隈流域は養蠶地帯で、白

石製絲が中心、仙臺平野の仙臺市は、東

北地方の學術軍事の中心をなし、袴地理木細工鑄びない刃物の

名産がある。外港鹽釜は漁港を兼ね、松島には牡蠣が養殖せら

れる。石巻市は今は漁港で、水産製造物の産が多い。北上山地

海岸は漁業地帯となり、氣仙沼女川鮎川等の漁港が多い。中央山

地 鍛冶屋澤は牧馬の中心地、鬼首鳴子は温泉地である。

岩手縣 北上縦谷 南門の一、關黒澤尻花巻は交通の要地で、盛

岡市は牧馬地帯の代表聚落で、盛な馬市

が立つ。北上山地 大船渡宮古は漁業

地帯を代表し、釜石市は宮古と共に精鍊

地である。釜石鑛山 將軍徳川家慶の頃土地の一獵

師が發見したといはれる。鑛床は延長六

秆幅一秆厚さ二十米内外で、内地最大の鐵

山といはれる。



宮古灣の漁業

青森縣

九、六三方秆

九萬人

一〇人



奥羽北部森林牧場分布

奥羽地方

青森縣 東部低地 八戸市は新興工業地

漁港で、三本木七戸を中心とする一帯は牧

場大湊は海軍の要港である。西部低地

青森市には青函青室連絡船が發著し、鮭鱒

の罐詰製材が盛である。津輕平野の弘前

の罐詰製材が盛である。津輕平野の弘前

秋田縣
一、六〇四、方
一〇四、萬人
八、九人

山形縣
九、三三六、方
二二、萬人
一三〇人

奥羽地方

市は、苹果産地の中心をなし、又清酒を産する。

秋田縣 中央山地 鹿角盆地は鑛業地區で、小坂尾去澤が知ら

れてゐる。盆地帯 大館

盆地は林業地で、中心に大

館があり、米作地の横手盆

地には横手がある。



二二



鶴岡の絹織物工場

出羽丘陵地帯 發盛荒川・阿仁は鑛業地
で、海岸の平地には、能代市製材、秋田市土
崎港(製油製材)等がある。開港の 船川港
は、秋田の外港となつてゐる。

山形縣 出羽越後山地 庄内平野には

米田が連なり、酒田市鶴岡市は、平野の代

表的都市である。盆地帯 米田・桑園が



山形縣の櫻桃

廣く、山形米澤の地方には櫻桃園が多い。

新庄盆地の中心は新庄、山形盆地の中心は山形市、米澤

盆地の中心米澤市は、絹織物で名高い。

櫻桃 明治五年に政府が支那から輸入して、全國に苗を配

布したのが、特にこの地方と北海道とに好成绩を挙げ、明治

二十一年頃から立派な産物となつた。産額は老樹の多い

山形縣に多いが、樹數は福島縣が多いから、福島縣の産額が

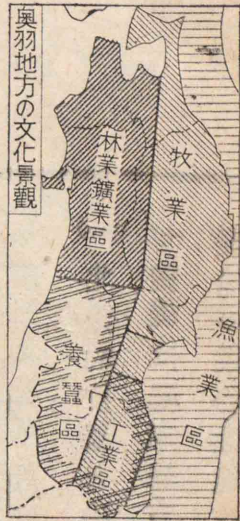
増す傾向にある。樹は扇狀地に適し、近年山梨縣や長野縣にも栽培さ

れてゐる。

六 生活 特性

(一) 北邊的位置と冷涼氣候とのため、産業が十分振はない。従つ
て面積は關東地方の二倍あるが、人口は二分、一に過ぎない。生
産地の縦谷盆地は、稍人口が稠密であるが、概して東半よりも西

奥羽地方



半に、産業が起つてゐる。都市は昔ながらの城下町が主で、新興都市としては、僅かに郡山、釜石、小坂等の工業都市があるに過ぎない。

(一) 一般に經濟生活が困難で、福島、山形地方では、東京方面に出稼し、青森、秋田地方では、定期漁民として北海道や樺太の方面に出稼し、尙北海道、樺太、滿洲國への移植民が多い。

(二) 政府ではこの地方の振興に力を盡し、各種工業の作興、水力發電、港灣の修築、原始産業の改良等を圖つてゐるが、尙廣い森林の利用、鑛物資源の開発、水力電氣による各種工業の施設等、なすべき事柄は頗る多い。

静岡縣の茶摘み



山梨縣の葡萄園



焼津の鯉魚





中部地方

この地方は西南日本の山系と、東北日本の山系との出會ふ處で、こゝに富士火山脈が噴出し、天城富士・八岳・妙高等の火山や、熱海・修善寺・諏訪等の温泉がある。故に本州中幅が最も廣く、三國關東・赤石・木曾・飛驒等の山脈は斜に並び、且高く、乗鞍・白山・那須等の火山脈も噴出して、焼淺間・白山等の巨大な火山が聳える。この地形により、圖

位置

地形

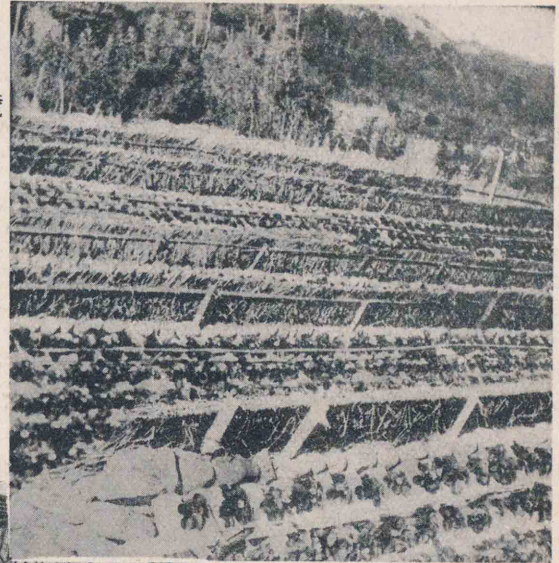
(一) 位置 本州の中央部に位し、西南日本と東北日本との續く部分である。

(二) 地形 この地方は西南日本の山系と、東北日本の山系と

第三章 中部地方

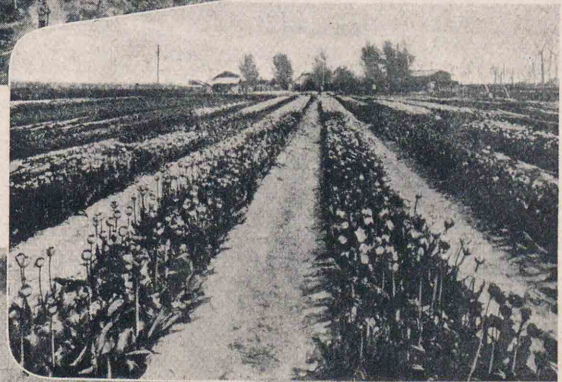
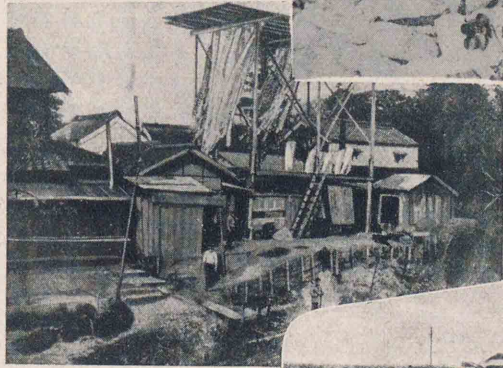
突、吉方軒
一、云〇萬人「一八九人

一 自然



麓南山能久
の莓栽培

有松絞の乾燥



越後平野の
チウリップ栽培

湖名濱
の養鰻



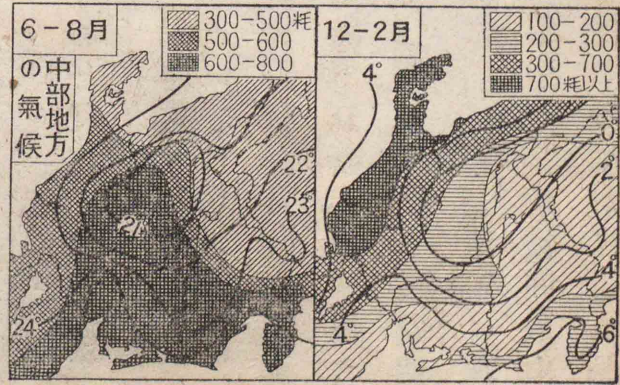
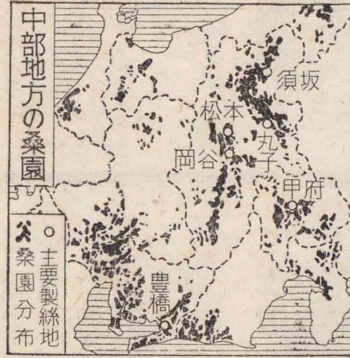
氣候

中部地方

のやうな三地形區に分けられる。
 ③ 氣候 ① 中央高地は概して雨量が少く、寒暑の差が甚だしい。② 東海地方は氣候は一般に溫和で、南東季節風の吹く夏季に雨量が多い。③ 北陸地方は、北西季節風の吹く冬は特に深雪で知られる。

二 原始産業

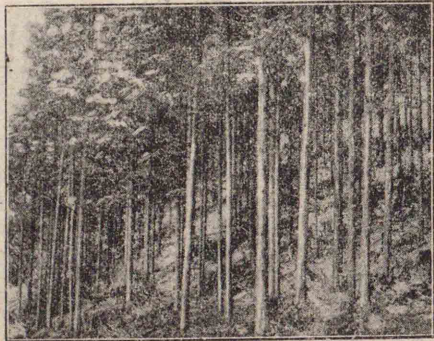
(一) 中央山地 鑛産は少く、神岡の亞鉛、鉛、久根、尾小屋の銅、木曾山脈南端の陶土が著れてゐるに過ぎない。桑園が多く、養蠶が盛んで、善光寺平は苹果を産し、甲府盆地の扇狀地は葡



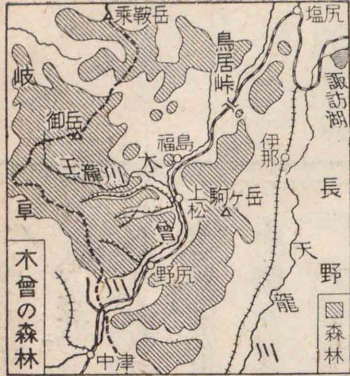
中央山地

葡萄を産する。

甲州葡萄 約七百年前發見して栽培を始め改良して來たもので、徳川時代からこの地の名産として知られた。小石まじりの排水のよい扇狀地に適し、今は西洋種も作られる。西洋種は在來種より甘い、貯藏にたへぬ缺點がある。近來は葡萄酒の醸造も起つて來てゐる。



木曾の森林



山地は森林に富み、木曾、天龍の上流は檜、飛驒山脈は榧、花柏、太平洋斜面は柵を産し、林業を以て生活するものが多い、山葵畑も多い。

木曾の森林 總面積は約十萬町歩で、御料林となつてゐる。徳川時代からよく保護せられたため、美林となり、五木檜、榧、羅漢柏、金杉が名高い。

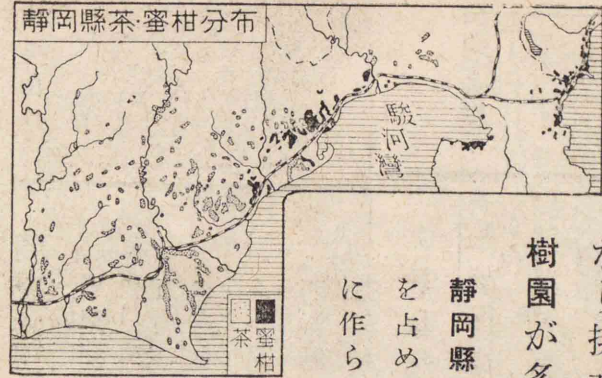
中部地方

二 東海地方 伊豆半島には金産があり、天城山には杉の美林、山葵畑が多い。各平野は、夏は米田、冬は麥畑が遠く連なり、排水のよい臺地や丘陵に、茶園果樹園が多い。

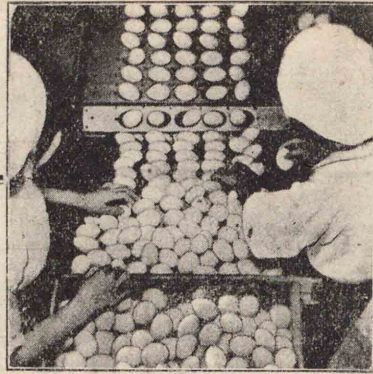
静岡縣の茶 静岡縣の茶の産額は内地の半を占める。これ等は排水、日射のよい丘陵地に作られる。輸出向の茶は清水に集り、再製して外見を揃へ、美麗にした上嚴重に濕氣を防いで積出される。



静岡縣の蜜柑園



三角洲に梨園が開け、久能山の南斜面では石垣苺、濱名湖畔では藺を栽培してゐる。富士の裾野や美濃の山地は、三椏楮を栽培し、濃尾三河兩平野の周圍には、桑園が開け、養蠶地帯とな

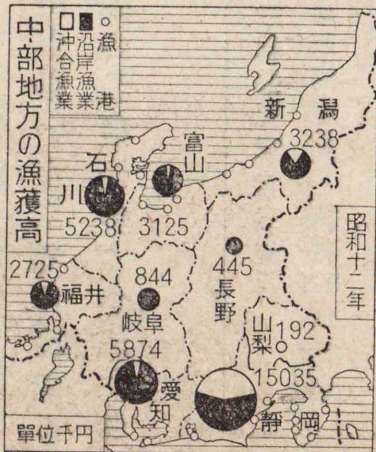


鶏卵の検査 愛知縣

つてゐる。濱名湖を始めとして、静岡・愛知二縣では、養魚が盛に行はれる。名古屋附近には進歩した野菜畑が多く、大きい養鶏場が見られ、三河卵の名が高い。沿岸には鰹・鮪・鱈の漁獲が多く、焼津は全國第一の鰹遠洋漁業の根據地で、鰹節の製造が盛である。

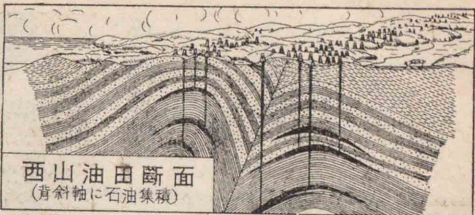
三 北陸地方 東山・西山の兩丘陵には油田があり、佐渡の相川は古くから知られた金産地である。

越後油田の石油 燃ゆる土水と稱し、既に奈良時代から知られ、江戸時代には營利的に採掘された。從來我が國第一の産額があつたが、今は秋田油田に首位を奪はれた。



越後平野の砂丘列や河畔には梨園が多く、信濃川下流には輸出向花卉の球根が作られ、富山・石川・福井の山麓地方には桑園が多い。

越後富山・加賀・福井の諸平野は、米田が多いが、二毛作は餘り行はれない。日本海方面には烏賊の漁獲が多く、魚津に送つて鰯とする。



農業(米・麥・茶・梨・蜜柑・葡萄・苹果・苺・野菜・花卉・栽桑・養蠶・楮・三極)
牧畜(鶏) 林業(檜・樺・梅) 水産業(鯉・鮪・鱈・烏賊・鰯・鯉節) 鑛業(鉛・亜鉛・銅・石油・陶土)

三 交通

(一) 陸運 街道に東海道・中山道・北陸道があり、東海道・中央・北陸の主要鐵道は、これに沿つて開通し、關西・信越・篠井・高山小

陸運
水運



上越線の除雪車

濱上越・羽越の補助線がある。深雪地帯の鐵道には、スノーセット除雪車が備はつてゐる。

(二) 水運 名古屋・清水の兩開港は、航路を海外にも通じ、敦賀は、ウラ・デ・ウ・ストック及び北鮮諸港との連絡港として、重要である。

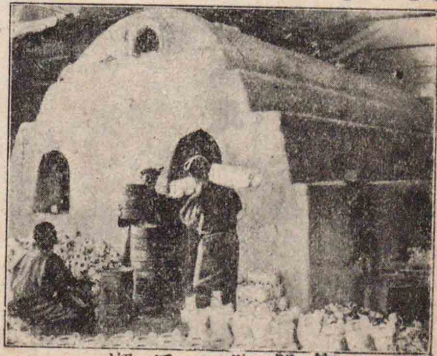
(三) 空運 航空路は、東京・名古屋・大阪・東京・新潟・東京・富山・金澤・大阪間に通じてゐる。

四 工業

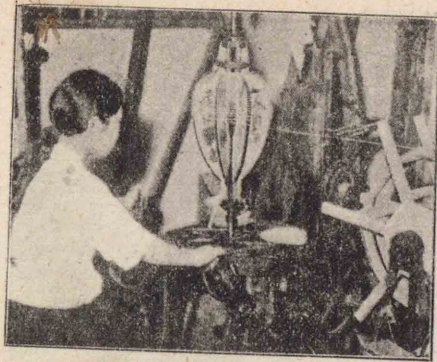
(一) 工業 交通の便利な東海地方は、中央高地から水力電氣の供給を受けて、工業が發達し、特に名古屋及び其の附近は一大工業地域をなし、綿工業では名古屋・濱松・岡崎が著れ、毛絲・毛織物は、一宮・岐阜・大垣が盛である。其の他名古屋の飛

空運
工業

行機・時計・陶磁器、有松・鳴海の絞木綿、濱松の樂器帽子、豊川の兵器も産額が多い。木曾山脈の南端は、良質の陶土を産し、古來、燒物業が瀬戸・多治見に起り、又常滑に土管を産する。富士の裾野の大宮を中心として洋紙・和紙が製造

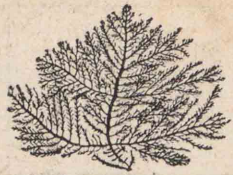


瀬戸の陶器竈



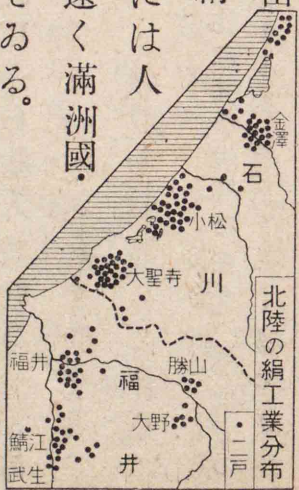
製造の燈提

岐阜には漆器、岐阜には傘・提燈・團扇の産が多い。中央山地の養蠶地域は、岡谷・須坂・松代・松本・上田等に製絲が盛で、山梨縣に甲斐絹・郡内織を産する。諏訪盆地には其の寒冷な氣候を利用して、伊豆の石花菜を原料とし、寒天を製する。北陸地方は、深雪の農閑期を利用する必要から、各地に機織業が



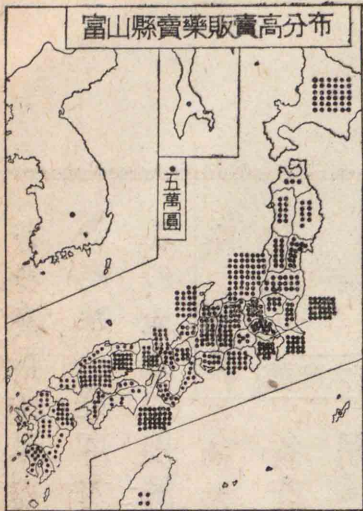
石花菜

起り、延いて福井・石川・富山の輸出。向羽二重・人絹織物等の、盛大な絹織業にまで發展した。又敦賀には人絹製造が起り、富山縣の賣藥は、遠く滿洲國・支那・南洋にまで勢力を伸ばしてゐる。



富山の賣藥 將軍徳川綱吉の頃から始つた業で、冬季農閑期の餘つた人力を以て、この業に従事したのが發達の根本原因である。今は年賣

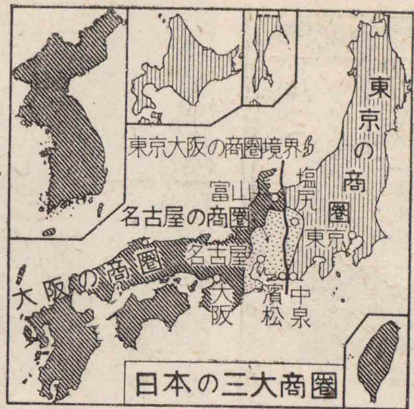
上高三千萬圓に及ばんとし、販路は滿洲國・支那・インド支那タイ國・インド南洋に及んでゐる。



水力電氣の開發と共に、近時各地に近代工業が起り、特に新潟は製油・製紙・紡績、富山は絹織・紡績機械の一大工業市となつた。陶土に恵まれた石川縣では、九谷焼を産し、輪

商業

島の漆器、高岡の銅器、高岡伏木の曹達も産額が多い。
二商業 東京・大阪の兩商圏は、東西の交通機關を利用してこの地方で接觸し、名古屋も亦漸次兩者の間に勢力を展べ



つゝある。
名古屋・清水・武豊・敦賀・七尾伏木・新潟・兩津・夷等の開港があるが、外國貿易は、尚横濱・神戸の後背地で、中央山地の生絲、北陸の羽二重・富士絹・人絹織物は、横濱・神戸から世界各地に送られ、棉鐵材等の工業材料は、多く神戸から輸入される。

五 處 誌

以下述べる處は東海地方で、静岡・愛知・岐阜・豊田の南部に互り、中部地方の要部である。

静岡縣

七、七〇方
一、五〇萬人
三五〇人

静岡縣

富士火山脈地帯 熱海市・伊東・修善寺等の温泉地が多く、湘南に續く京濱人士の休養地帯で、又金産地が多い。富士の裾野地帯には、小山・大宮・沼津市等の工業市が興つてゐる。
駿河灣岸 清水市は豆粕・豆油・罐詰

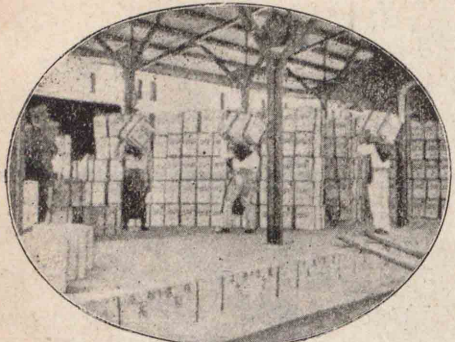
富士火山脈地帯

熱海市・伊東・修善寺

駿河灣岸

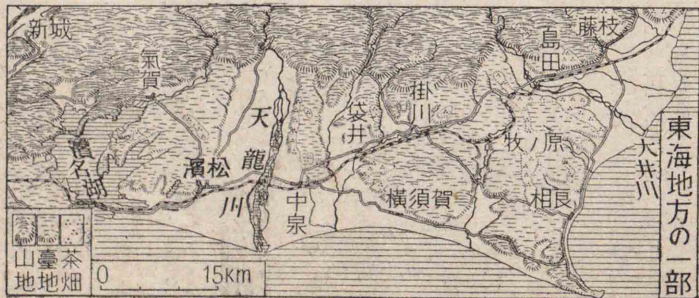
清水市は豆粕・豆油・罐詰

製材の工業が行はれ、茶の輸出が多い。静岡市は茶を精製し、又綿絲綿織物・漆器等を産する。



富士梨の出荷

静岡縣の園藝 蜜柑は三百年前に、九州又は紀州から移植したもので、大消費地を控へてゐるのと、米國への輸出増加とによつて急に發展した。梨は富士川の三角洲に多く、早く東京其の他の市場に出されるのが長所



である。枇杷は沿海の丘陵に植ゑられてゐる。苺は久能山の南斜面を利用して植ゑられ、冬季に成熟し、農家の冬の副業として大きな利益を上げてゐる。これ等の原料によつて、附近の地域に罐詰業が起つてゐるのは、農村工業化の一例として注意すべきである。

島田・金谷^{カナヤ}は、元は渡頭^{ワタヘ}町^{マチ}として発生したが、今は島田は製材、金谷^{三三}は茶の集散で若返つた。遠州灘方面 濱松市は工業市で、紡績綿布、樂器帽子、ベニヤ板、フィルム^{三三}の産が多い。

愛知縣

五、〇二万方
三六萬人
五三三人



名古屋市の位置

愛知縣 三河平野 豊川流域の豊橋市は製絲、矢作川流域の岡崎市は紡績、製絲、綿布、人絹等を産し、中京工業地帯の續きとしての景觀が濃い。中京工業地帯 名古屋市は、東京大阪に次いで新しく經濟の一中心地^{一〇八三}

となり、又纖維機械、化學等、諸種の大工業が行はれて活況を呈してゐる。附近の一宮市、瀬戸市、半田市、常滑等は、一大工業地區を形成してゐる。

岐阜縣

一〇、四五万方
二三萬人
二七人

岐阜縣 平野部 西部は農業が盛で、中京工業地帯の續きをなし、岐阜市、大垣市等の工業市が連なつてゐる。東部の丘陵地帯には、多治見市、中津の工業地がある。

以下述べる處は中央高地で岐阜縣の北部及び山梨、長野諸縣に互つてゐる。



瀬戸の製陶産分布

山梨縣

四、四六万方
壹萬人
一五五人

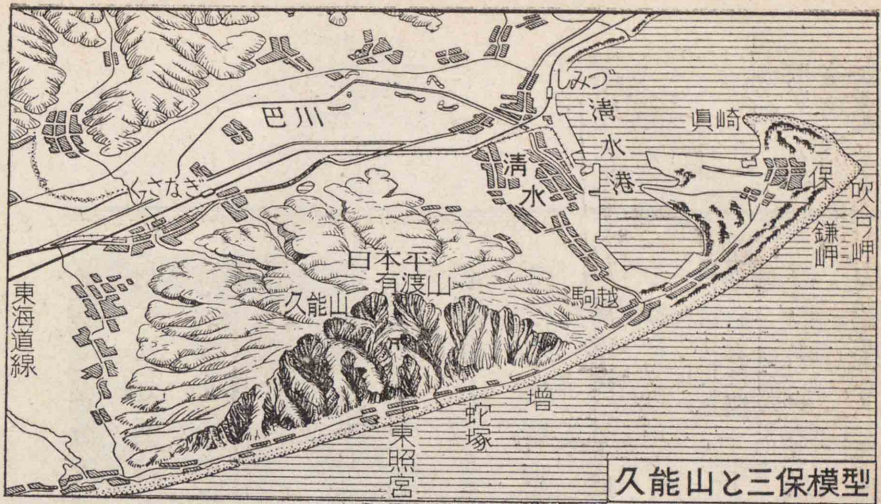
飛驒高原 中央盆地の中心高山市は、生絲、一位細工を産し、小京都の名がある。

山梨縣

郡内地方

絹織地で、谷村^{ヤムラ}が中心となつてゐる。

甲府



久能山と三保模型



甲府盆地の部
0 1 Km

盆地 笛吹釜無諸川の流した土砂が堆積して出来た平野で、東部の葡萄栽培地の中心に勝沼がある。一般に桑園が多く、中心の甲府市は、生絲・水晶細工を産する。

水晶細工 水晶は元奥御嶽で採掘したが、今は紫水晶は朝鮮、其の他の透明水晶はブラジルから輸入する。水晶加工術は元京都から傳へたものであるが、今は電力機械を用ひ、其の技術は世界に名高い。

長野縣 諏訪盆地 上諏訪下諏訪は温泉

町、岡谷市は、諏訪湖の出口に發達した大

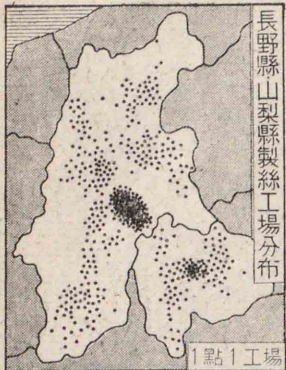
製絲業地である。伊那谷 天

龍川の兩側には桑園が開け、飯

田市は其の中心である。木曾

谷 福島は木曾林業の中心

で、附近に寢覺床の奇勝がある。



長野縣山梨縣製絲工場分佈

長野縣

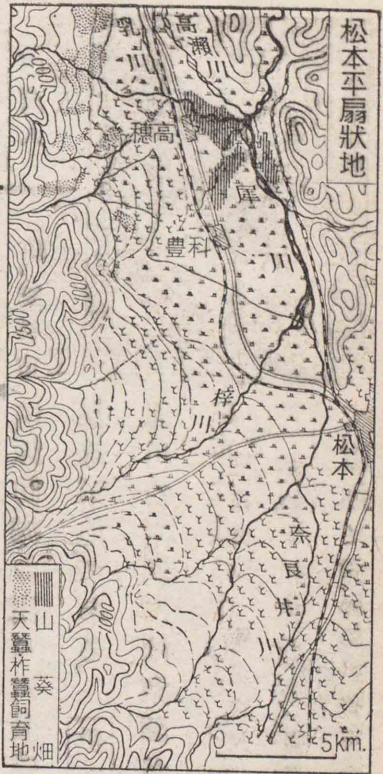
一三、六六方紬

一七萬人

一七人



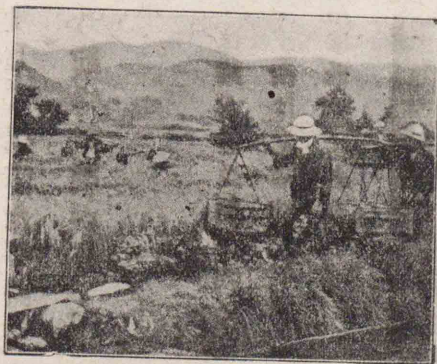
寢覺床



松本平 桑園が廣く、山葵も作られ、中心の松本市は生絲の産が多く、大町にはアルミニウム工場がある。佐久平 輕井澤は別荘地、小諸は製絲地で、附近に稻田養鯉が行はれる。

稻田養鯉 海魚を得るに困難なこの地方では、養鯉は既に徳川時代の初期から試みられた。しかし明治に入り、稻田に飼ひ、蠶の蛹を飼料とするに至り、急に發展した。秋から冬にかけては池で養ひ、二年で四十糶以上に育てる。

上田盆地 養蠶・製絲が盛に行はれ、上田市は其の中心聚落である。



佐久平の稻田養鯉

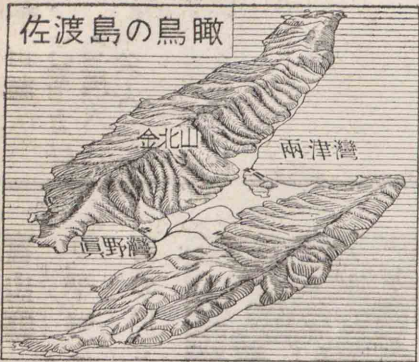
善光寺平 長野市は善光寺の門前町で、生絲の産が多い。千曲川の東は桑園が多く、須坂松代は製絲の中心である。以下述べる處は北陸地方で、新潟富山石川福井諸縣に互り、裏日本の代表地帯である。

新潟縣
一、五七方
二〇〇萬人
一五九人

新潟縣 上越 高田市は、赤倉と共にスキー場で著れ、直江津は交通の要地である。下越 米作油田地帯の中心に、長岡市柏崎

市・新津があり、山麓工業地域に、又物業の三條市、絹織物業地の十日町、小千谷、加茂がある。新潟市は港としての缺點はあるが、盛な商工市である。佐渡 兩津は避難港、相川は古い鑛山町である。

佐渡金山 徳川時代の初に發見せられ、一時は相川の人口は十萬に達した。現在も尙採掘が續けられ、近時深部に向かつて採鑛の計畫がある。



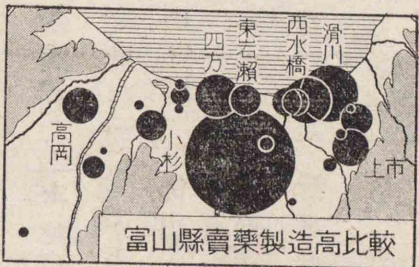
富山縣

四、三、七 方
八〇 萬人
一、八 八 人

富山縣

富山平野

富山灣岸に新湊魚津滑川氷見の漁港が連なり、平野には、灌漑用水路が縦横に通じて、越中米の産が多い。平野の周りの諸川の急流部には発電事業が起り、ために近代工業が縣内の各地に起つた。即ち平野東部の中心



富山市は、製藥・絹織・藥品・紡績機械の工業地となり、西部平野の中心高岡市は銅器曹達捺染の工業が行はれ、伏木には製紙曹達等の工業が急に興つて來た。山麓地方には養蠶が行はれ、城端は、羽二重を産する。

石川縣

能登半島

七尾灣岸の七尾市は開港

加賀平野

砂丘

石川縣
四、二、五 方
七 萬人
一、六 三 人

で、和倉温泉がある。輪島には漆器を産する。の内側には米田が連なり、臺地には桑園が多い。金澤市は前田氏の城下町で、絹織、製絲等の工業が盛である。白山の麓近くに、

山中・山代の温泉がある。

小松市大聖寺は、九谷焼・絹織物を産する。

九谷焼

徳川時代初期に、大聖寺藩主が九谷村に磁器の製造を始め、藩士を支那に送つて技術を學ばしめたことに起り、今は小松・大聖寺・金澤等に産出が多い。

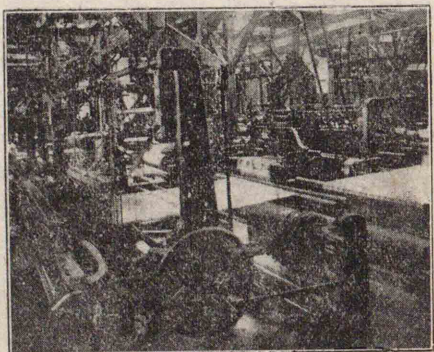
福井縣

福井平野

一帶は我が國有數

福井縣
四、三、四 方
五 萬人
一、五 四 人

の羽二重・人絹織物・富士絹の産地をなし、福井市・大野・勝山は其の中心地で、武生は和紙・蚊帳を産する。若狭灣岸 日ソ・日滿間の重要連絡港である敦賀市や、小濱等の良港がある。



福井の羽二重工場

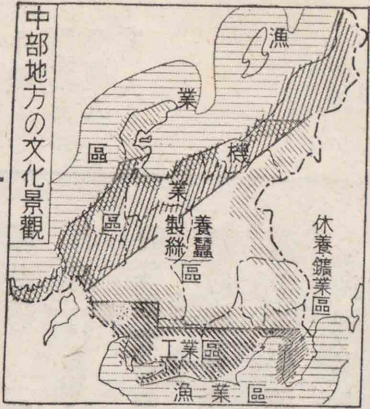
六 生活 特性

(一) 中央高地・北陸地方・東海地方によつて、地文・人文が著しく異なる

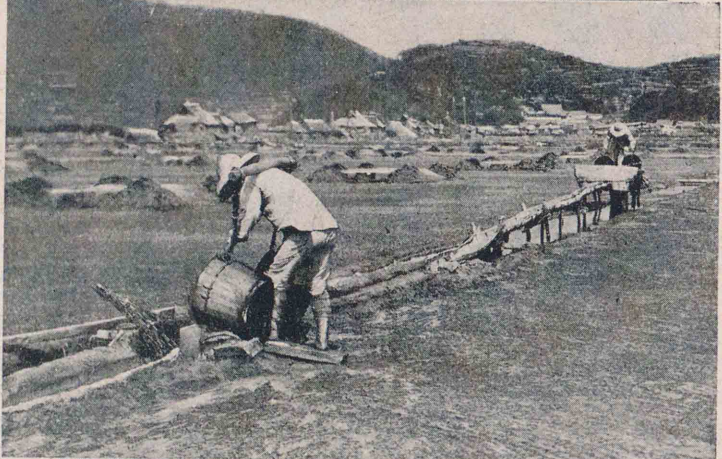
つてゐる。東海地方は土地利用が最もよく行はれ、多くの人口を收容し、都市密度も大で、大工業地帯がある。中央高地は土地利用度が低く、人口・都市の密度も少く、近代工業は起らない。北

陸地方は氣候に恵まれず、且、冬季に労働力が餘るか
ら、新潟・石川兩縣の酒杜サト氏を始め、中部の製絲機業地
或は東京・名古屋・京阪地方に出稼カワギする者が多い。又
近來水力電氣によつて、小規模の家内工業から、近代
的工業に進んで來た。

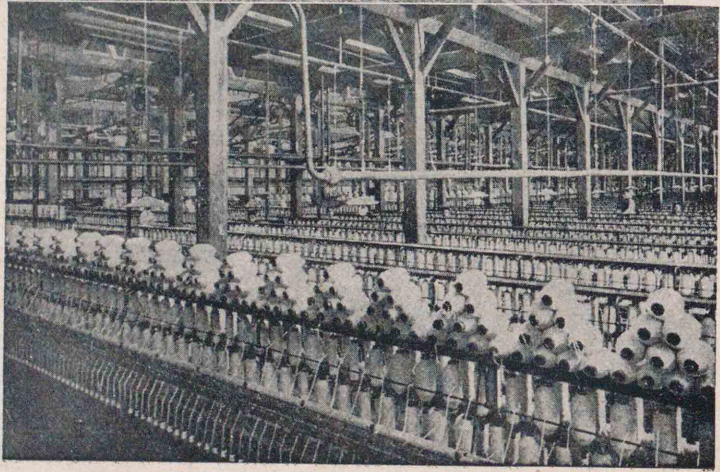
(一) 位置の關係上、東西の交通は頻繁で、東海道線の輸
送力は次第に行詰りつゝあるもので、東京・下關間には更に直通の
廣軌線キを敷設する計畫がある。北陸地方は近時滿洲國の發展
につれて、其の連絡上重要性を増した。尙未開發の水力を利用
することは本地方の急務である。



養殖眞珠

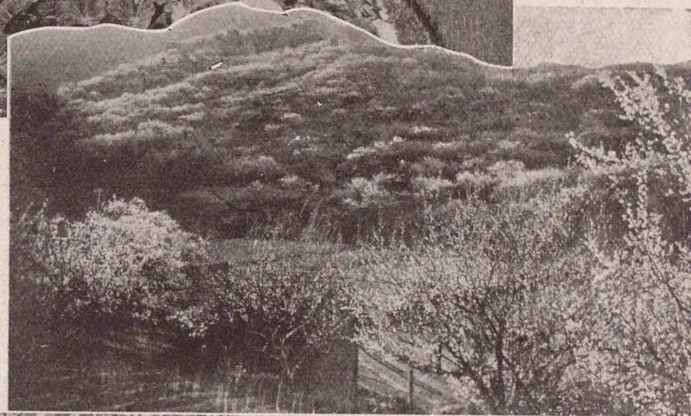
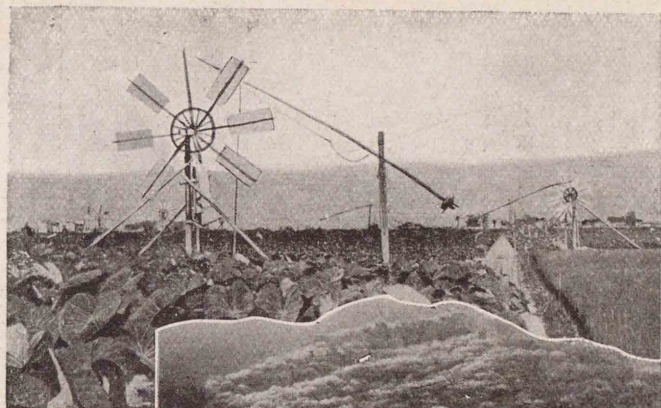


赤穂鹽田



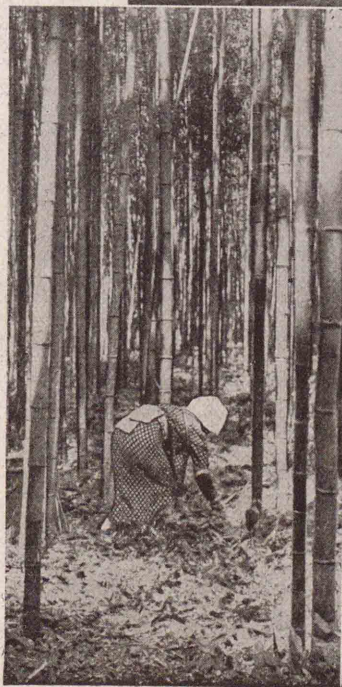
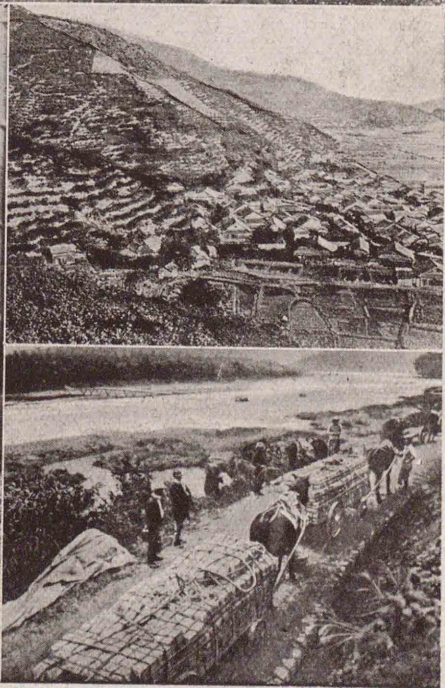
大阪の紡績工場

大阪平野の
野菜灌漑



和歌山縣
の梅林

有田川流域の蜜柑山と蜜柑搬出



京都の竹林

第四章 近畿地方

三、九六万平方
一、三九万人 三三三人

一 自然

一 位置 本州の中央的位置を占め、經濟上交通上極めてよい位置にある。

二 地形 北に高原性の中國山脈、南に高い紀伊山脈が連なり、この南北兩山地の間に、琵琶湖や伊勢海から、京都奈良兩盆地を経て大阪平野瀬戸内海に續く低地があつて、圖のやうな三地形區に分けられる。



位置

地形



3 2 1
中國山地
紀伊山地
中央低地

近畿地方

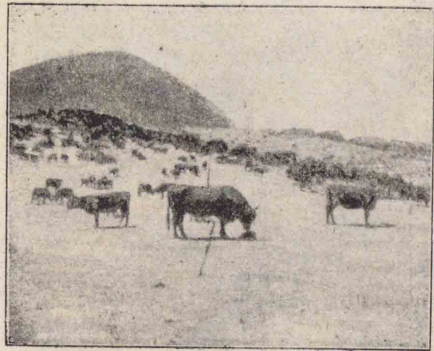
氣候

中國山地

近畿地方

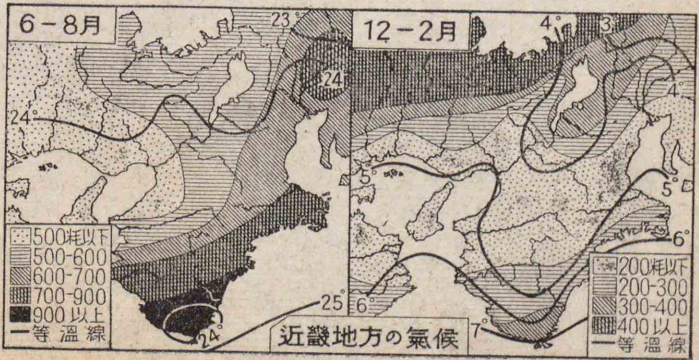
三 氣候 中國山地は冬季に稍雪が多く、瀬戸内海沿岸は四季共に快晴が続き、京都・奈良・近江等の盆地は、稍寒暑の差が甚だしい。紀伊山地は温暖で夏季には特に雨が多い。

二 原始産業



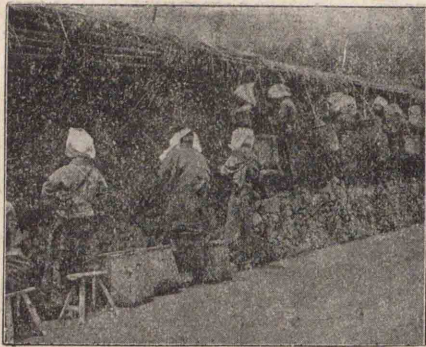
中國山地の牧牛

一 中國山地産には、生野の銀銅、明延の錫が知られる。高原は中國地方に續く牧牛地帯で、牛が多く、役用を主とし、神戸に送つ



五四

中央低地



宇治の茶摘

て、牛肉の罐詰とする。盆地・河谷には、桑園が連なつてゐる。
二 中央低地 人工灌溉が進歩し、耕地が多い。米田は諸平野に開け、裏作として麥・菜種を作る。

京都盆地、三重・奈良二縣の傾斜地に茶園、大都市の近郊に蔬菜園が多く、大阪平野南部に玉葱畑・蜜柑園・葡萄園、京都盆地に竹林、奈良盆地に西瓜畑があつて、特色ある景觀を呈してゐる。



近畿地方

トラック蔬菜地帯 蔬菜は新鮮でなくてはならぬから、遠距離から移入することが出来ない、都市の周りには必ず

五五

手入の行き届いた蔬菜園が開ける。しかし近時はトラックで輸送が行はれるため、其の蔬菜地域の半径も大きくなつた。このトラック輸送圏の蔬菜栽培地域を、トラック蔬菜地帯といふ。東京、名古屋、大阪等の周りの蔬菜園は、この地帯に發達して、都市附近の共通景觀の代表的なものとなつてゐる。

赤穂の地方は、瀬戸内製鹽地帯の東端で、古くから製鹽で著れ、瀬戸内海では、鯛、鱒等が多く漁獲せられる。

紀伊山地 紀川の谷が主要生産地で、川の兩側には米田が連なり、其の中に桃園が点在し、兩側の山地には蜜柑園が開けてゐる。

有田川流域の丘陵は頂上まで蜜柑園となり、其の良質の蜜柑は全国各地に送られる。南方一帯には除蟲菊畑、梅林、罌粟畑が多い。

和歌山縣の蜜柑 氣候が温暖で、土壤が蜜柑に適するため大産地とな



除蟲菊



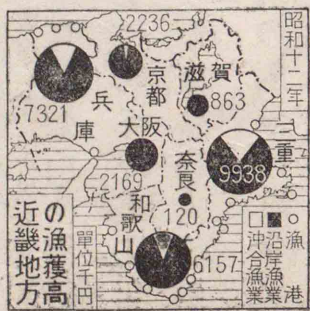
つた。徳川時代の初から既に京阪に知られ、江戸に送つて次第に聲價を高めた。有田川流域一帯と、紀川中流とが産地で、前者のは甘いのが早く腐敗する缺點がある。

この部は、一般に雨量に恵まれて森林が連なり、林業を専業とするものが多く、杉の良材を産する。

耕地が少く、沿岸民は漁業に従ひ、鱈、鯉、鰯等の漁獲

が多い。東部の瀨谷に眞珠貝を養殖する。

養殖眞珠 英虞灣五ヶ所灣を始め和歌山縣の入り江、長崎縣の大村灣、バラオ島等で養殖せられ、ミキモトパールとして世に名高い。初め眞珠貝の體內に貝殻の核を入れ、再び海中で養ふのである。



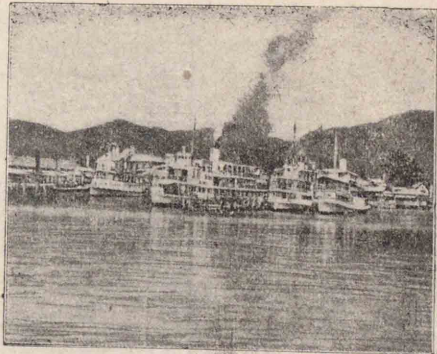
農業 米 麥 菜種 西瓜 玉葱 蜜柑 葡萄 梅 茶 除蟲菊 栽桑 養蠶 牧畜

(牛) 林業 杉 水産業 鯛 鱒 鯉 鮪 眞珠貝 鹽 鑛業 銀 銅 錫

三 交通

陸運

水運



琵琶湖の水運(大津港)

(一) 陸運

本州の地峽部に位し、永く政治の中心であつたため、主な街道は京都に集り、又東海道・山陽關西・福知山・南海等多くの鐵道・電車が、阪神に集中してゐる。其の外山陰・播磨・參宮・奈良・紀勢の諸線、及び阪急・參宮等の諸電車が、四通八達してゐる。

(二) 水運

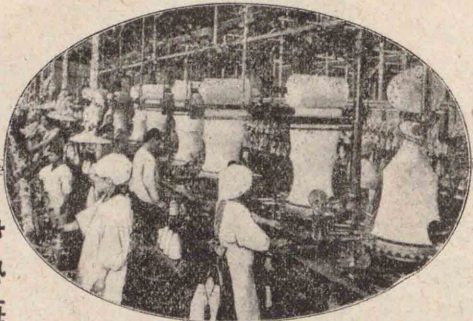
大阪は近海航路、神戸は海外航路の中心で、紀伊半島沿岸、琵琶湖及び其の疏水・淀川等の水路も利用される。

(三) 空運

定期航空路は大阪を中心として、富山・松山・白濱・高知・城崎・米子等に通じ、又東京から大阪・福岡・朝鮮大連に至る幹線にも當つてゐる。

空運

工業
阪神



大阪のメリヤス工場

(一) 工業

阪神は、京濱と並ぶ我が國有數の大工業地帯で、餘勢は四隣に及び、綿絲・綿織物・毛織物・メリヤス・機械器具・燐寸・肥料・藥品・硝子・セルロイド等の製造が多い。

四 工業 商業

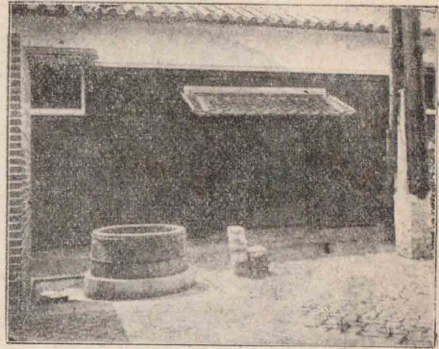
阪神工業地帯

阪神京濱は我が國の二大工業地帯で、特に阪神は早くから文化が發達して需要が多い上、住民は商業に秀れた才能を有つてゐる。而も位置は日本の中央を占め、地峽部に位して交通機關の集中點にあり、瀬戸内海の主交通路を有し、これによつて九州・中國・四國と連絡して原料・勞力・燃料が得易い等多くの好條件を具へてゐる。

伊勢海の沿岸

伊勢海の沿岸は中京工業地帯の續きで、四日市・津の綿絲・津

松阪の綿布・四日市の燒物等が著れる。



宮水の井戸

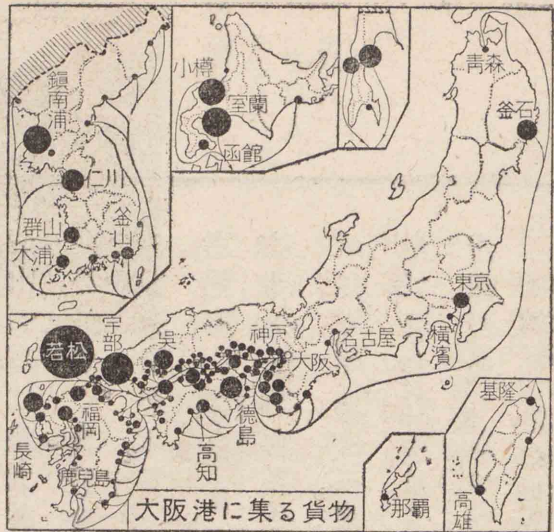
尙多量の水を必要とする人絹製造は、大津、宇治等琵琶湖の排水部に行はれ、又宮水と原料とに恵まれた灘地方には、清酒の醸造が行はれる。

灘酒 六甲山の花崗岩下から湧く宮水を有すること、吉野杉の檜材がよいこと、攝津米のよいこと、丹波杜氏の技倆が勝れてゐること、交通機關が備はること、需要が多いこと等のため發達したもので、特に宮水は附近にも輸送して造酒家に愛用せられる。

商業

京都に美術・工芸品、海南に漆器、八幡附近に麻織物、滋賀縣の長濱、京都府の峰山等の養蠶地帯に縮緬、兵庫縣の龍野、加古川等の麥作地帯に醬油、奈良縣の高取附近に賣藥の製造が行はれ、兵庫縣の廣畑は近時大製鐵地となつた。

二商業 大阪は安價・實用的の商品によつて、全國一の商業



市となり、其の商圈は、西日本、滿洲國、中華民國を主とし、全世界に及んでゐる。神戸は輸入が多く、大阪は綿製品の輸出が多い。四日市は、繰綿を輸入し、綿絲綿布を輸出する。日本海岸には開港の宮津があるが、商勢は振はない。

五處誌

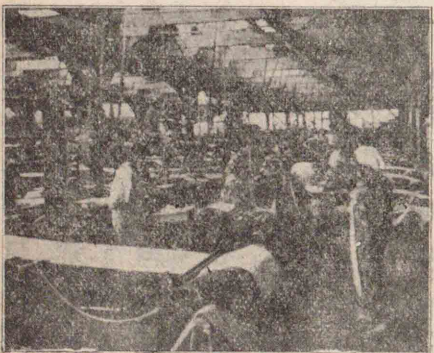
滋賀縣

湖北

滋賀縣
四〇五方
七萬人
一七人

養蠶地にある長濱は、濱縮緬の産地で、米原は交通の要地である。湖東米、菜種等の産が多く、又織物業が發達し、綿絲生絲の彦根市、綿帆布の八幡草津

近畿地方



製品は縮緬工場は長濱の縮緬と

近畿地方

蚊帳麻織物の日野等がこれを代表する。湖南 大津市は水陸交通の要衝に當り、人絹紡績麻ビロードの大工場がある。

三重縣

五、七五方軒
二七萬人
二〇四人

三重縣

伊勢平野

桑名市四日市津市松阪市宇治山田市等の綿工業市が連なり、中京工業地帯の延長としての景觀が濃い。宇治山田市は皇大神宮のある所で、神都といはれる。

志摩半島

湯谷が多く、鳥羽波切等の好漁港がある。

京都府

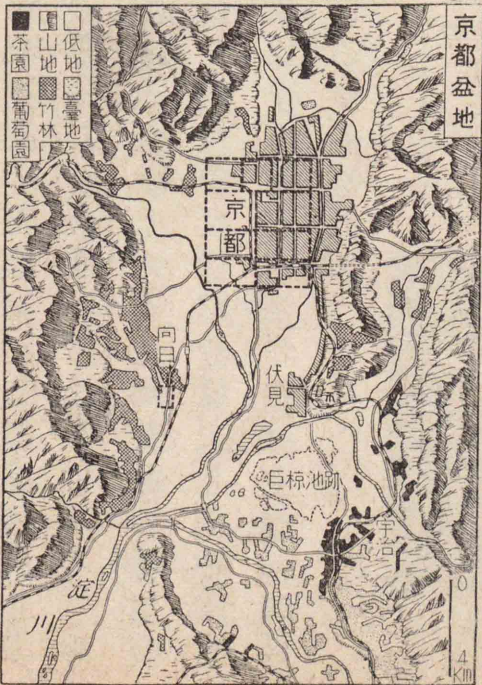
四、六三方軒
一七〇萬人
三六人

京都府

京都盆地 南

東部の丘陵地帯に茶園が多く、宇治は玉露茶の産で著れ、近時は人絹の産額が多くなつた。

宇治茶 茶は温暖で、水

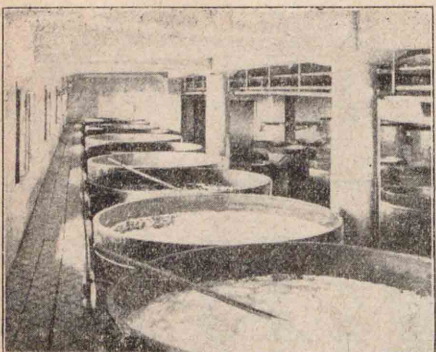


はけのよい丘陵地臺地に適し、日射が十分で、適度の水蒸氣を得る所がよい。静岡縣や宇治附近はこの條件に適つてゐるため、茶業が起り、宇治は足利時代既に盛であつた。宇治茶の産額は静岡に遠く及ばないが、品質の優良なことは其の特色である。

京都市は、桓武天皇以來一千七十餘年間の帝都であつた處で、元盆地北部の中央に南面して建設されたが、今は神社佛閣の多い

東郊に發展した。西陣織友禪染清水焼栗田焼時繪京人形等、純日本式美術工藝品を産する。市内の伏見は、清酒を産する。

西陣織 桓武天皇の奠都遊ばされた時から、既に京都の絹織業は起つた。應仁の亂に一時四散した業者は、亂後西軍の陣地跡に歸つて其の業を復興したので、西陣織の名が起つた。明治に入り西洋の染織法をも採用し、今は數千萬圓の産出高を見てゐる。



伏見の酒

近畿地方

大阪府
一、八四万
四、三九人

兵庫縣
八、三三万
二、九一人

近畿地方

盛である。

大阪府 大阪府は阪神工業地区の核心で、布施市豊中市は其の接續市街をなし、吹田市は麥酒、岸和田市は綿絲布、堺市は綿絲布、セルロイド、池田市は酒で知られる工業地である。

大阪市は豊臣氏以來發展が著しく、商工業區域は、淀川の三角洲上に開け、工場は五萬を算し、殊に纖維工業が盛である。

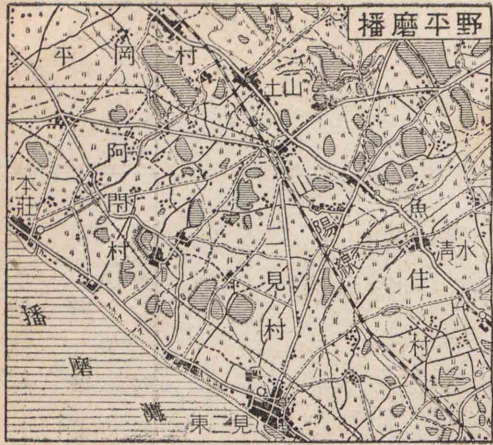
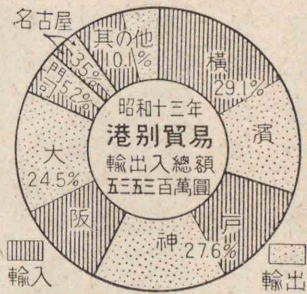
兵庫縣

六甲山麓

馬(冷泉寶塚)もあり、休養住宅區となつてゐる。

尼崎市は硝子、麥酒等の工業が盛で、西宮市御影等を含む灘地方は、醸造で著れる。蘆屋市は住宅地、伊丹市は清酒の産地である。

神戸市は天然の良港をなし、設備もよく、大工業地を控へて、我が國の主な貿易港である。



近畿地方

阪神間は阪神國道を通じ、尙東海道線阪神阪急等の鐵道電車の便があり、我が國屈指の生産都市と貿易都市とが一都市の如くなつてゐる。尙神戸は鐵精鍊及び鐵材料、造船、ゴム製品、製粉等の大工業市である。

明石市は綿絲布、燐寸の産が多く、この海岸一帯は

休養地である。淡路島 休養地區

で、洲本市は綿工業地である。播磨

平野 山陽式の景觀を備へ、米、麥の

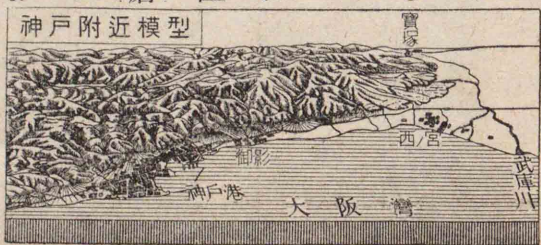
産が多く、又近年漸く工業地區とな

つて來た。西脇は綿布、加古川は毛織物、姫路市は

革細工、毛織物を産し、飾磨市には紡績、燐寸の工業

が行はれる。龍野は醬油、素麵の産地で、赤穂は製

鹽の中心をなし、炭酸マグネシウムを産する。



六七

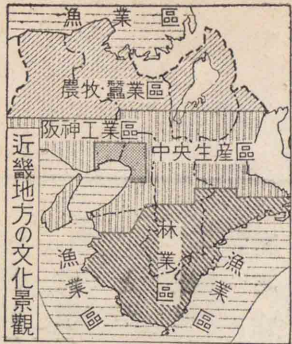
六六

赤穂鹽田 千種川の三角洲上に開け、浅野藩の奨励により發達し、同藩のよい財源となり、多くの名臣を養ふことが出来たものである。

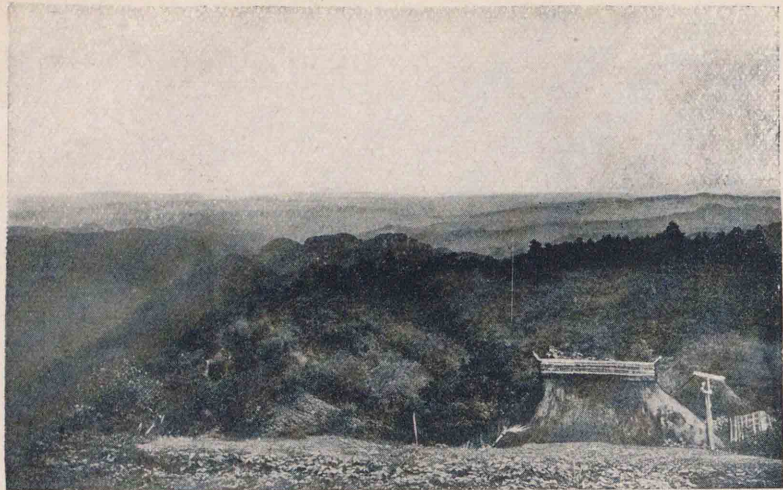
但馬地方 銀銅山の生野、柳行李産地の豊岡、温泉地の城崎等があつて、一般に山陰式の景觀を呈してゐる。

六 生活 特性

地形・歴史・交通・産業の關係から、中央低地の人口は、關東平野より稠密で、こゝが工業地區となり、中心は阪神大工業區をなし、尙續續新興都市が起つてゐる。阪神工業地區に聚落が集り、其の附近に、蔬菜栽培が榮え、風景・氣候・交通に恵まれた地が史蹟と相俟つて、休養・遊覽・週末旅行地帯となり、又中心部と周邊部とが密接な關係にあることは、關東濃尾の兩地方に似てゐる。



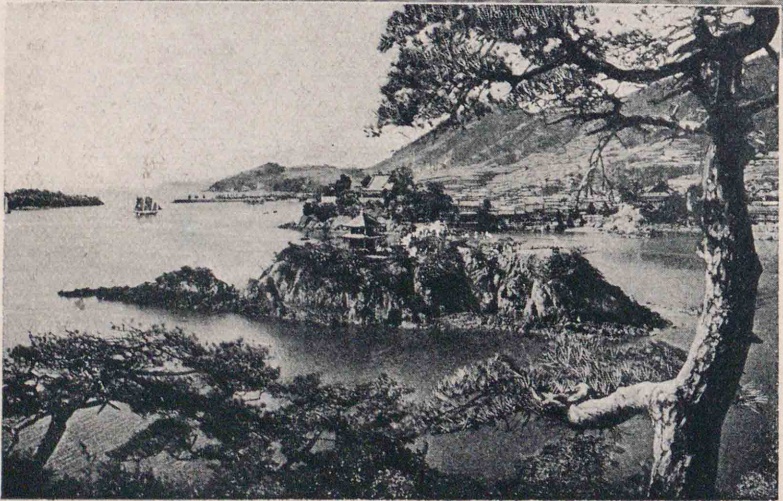
中國山脈の一景觀



大山



瀬戸内海(鞆附近)

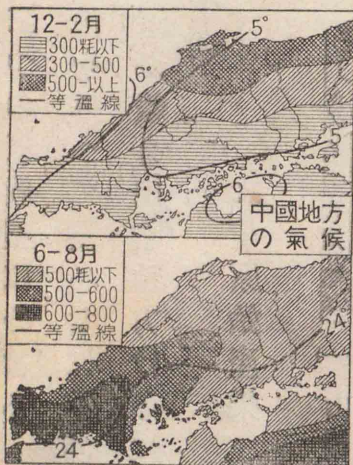


氣候

地形

位置

中國地方



- (一) 位置 本州西南部の半島で、近畿・九州兩地方の中間に位する。
- (二) 地形 稍中央より北に偏つて高原性の中

國山脈が東西に連なり、脈中には大山三瓶山等の白山火山脈に屬する巨大な火山が並び、圖のやうな地形區に分けられる。

(三) 氣候 中國山脈はこの地方を



六九

第五章 中國地方

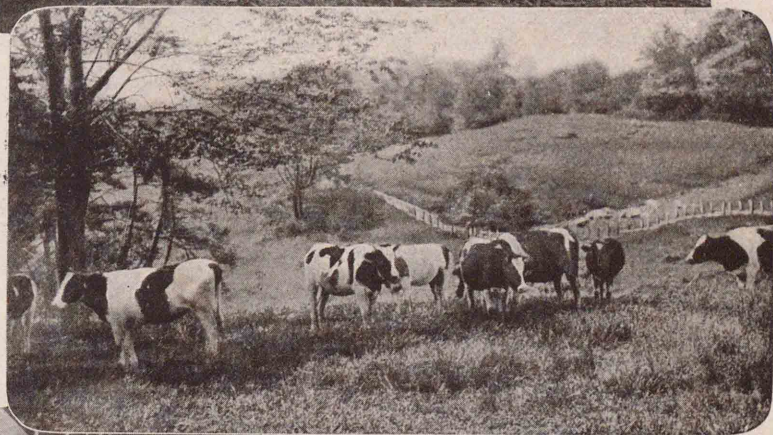
三、六九方料
五七萬人「一其人

一 自然

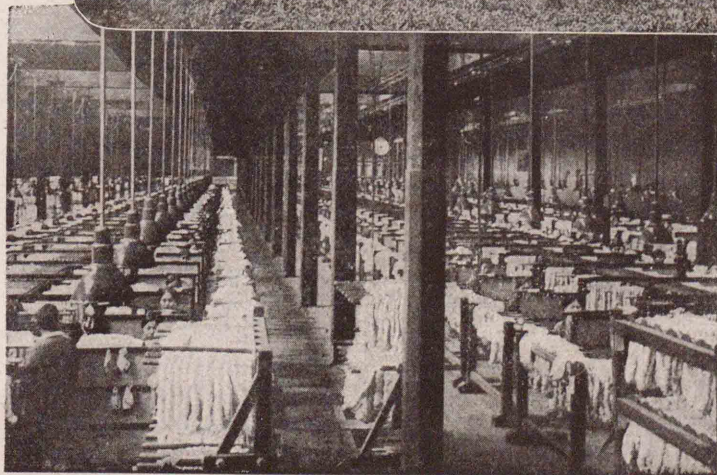
蘭草刈取



中國山地の牧牛



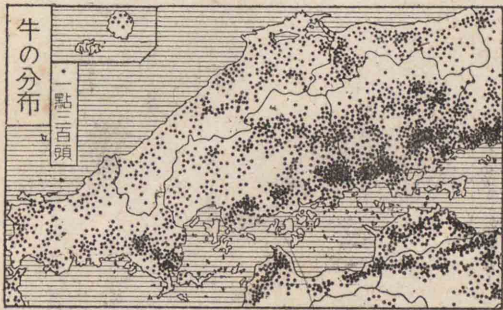
岩國の人絹工場



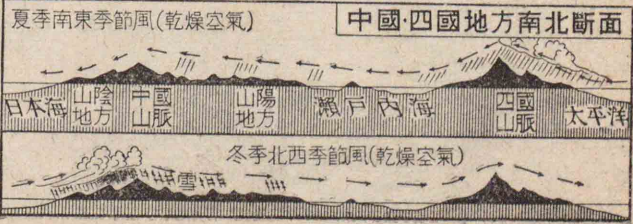
二つの氣候型に分ける。山陽地方は南北に山地を控へて、夏冬共に季節風の風下となつて晴天が續き、山陰地方は冬に積雪が多い。

二 原始産業

山陽地方
山地

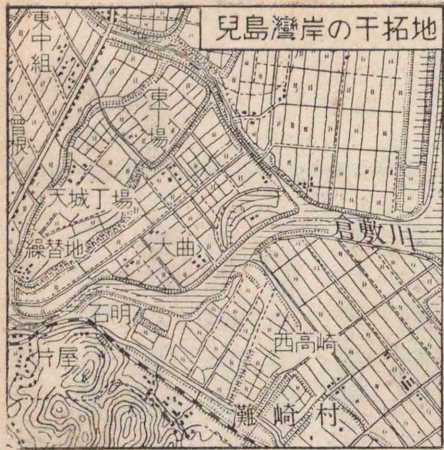


(一) 山陽地方 (I) 山地 柵原
に硫化鐵、大嶺に無煙炭、秋吉に大理石を産する。花崗岩地が廣いから、花崗岩材、陶土の産も多い。山地は雨量が少く、花崗岩の禿山で、林業は振はないが、山口縣の竹材、山口、廣島二縣の松杉材が知られ、三次盆地には大麻の産がある。



無角牛

平野及び沿岸



中國地方

牧牛も盛で、生牛を阪神に送つてゐる。

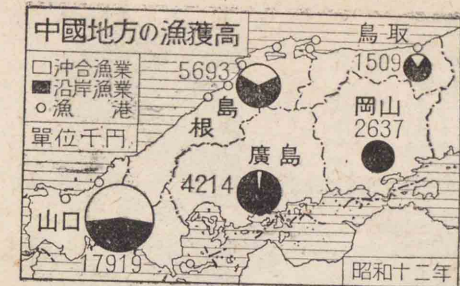
中國地方の牧牛 奥羽北海道が牧馬地帯の核心であるのに對し、中國地方は牧牛の核心地帯で、既に上古より牛の産地として知られてゐた。特に岡山縣西北部産の千屋牛は肉牛として知られ、三次地方の神石牛は和牛の最良種で、附近の七塚原には種畜牧場がある。隱岐には牧畑による特殊の牧牛法が行はれ、山口縣には無角牛の新品種もある。

(2) 平野及び沿岸 瀬戸内海の島嶼は、花崗岩の名産地で、宇部の炭田は我が國の主要炭田の一である。

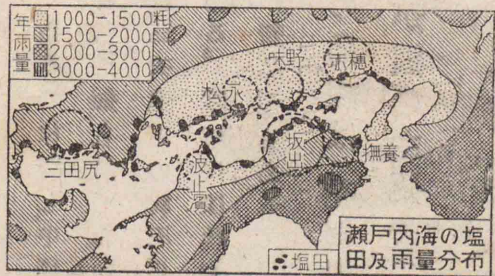
瀬戸内海の花崗岩 瀬戸内海一帯は我が國花崗岩の名産地である。兵庫縣六甲山麓より産出するのは、本みかげ、岡山縣北木島のは、北木みかげ、廣島縣倉橋島のは、倉橋みかげ、山口縣徳山産のは、徳山石、小豆島産のものは、小豆みかげと稱せられ、阪神九州は固より、關東方

面に送られて、神社大建築物を飾つてゐる。

平野は、諸所の干拓地や河谷の階段耕作地と共に、米産に富み、防長米備前米の名が著れ、下關は米の集散地として名高い。一般に二毛作が行はれ、岡山縣は特に麥作が盛である。三備の海岸では藺草を栽培し、岡山・廣島兩縣に除蟲菊薄荷を産し、又丘陵・島嶼には、桃梨蜜柑園が多く、牧畜では牛の舍飼が行はれる。

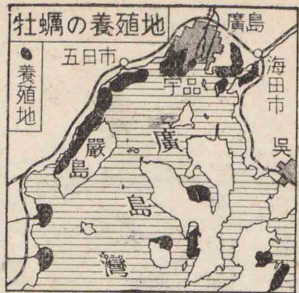


沿岸は干潟が多く、潮汐干満の差が適度で、且晴天が多いため、至る所に鹽田が開け、味野・松永・防府は其の中心をなしてゐる。瀬戸内海は春夏の交には、産卵のため魚族が來集し、鯛・鱒・鱈の漁獲が多く、又廣島



灣・兒島灣では牡蠣を養殖してゐる。

瀬戸内海の鯛 鯛は我が國民に賞味せられる魚で、瀬戸内海は春期産卵のために集る鯛が多く、鯛漁は多くの観光客をも引いてゐる。稚魚は秋までに三寸大となつて外海に出で、數年後には親魚となつて、再び來游する。近時稚魚の捕獲により、次第に鯛産額を減じてゐる。



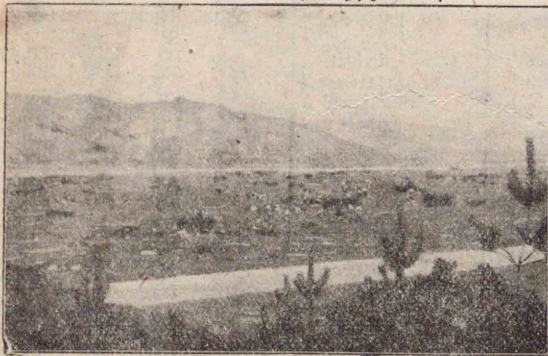
山陰地方
山地

(二) 山陰地方 (1) 山地 砂鐵が多く、

米子ではこれを原料として特殊鋼を作る。鳥取縣の岩美、島根縣の笹谷の銅は名高い。島根縣の西南には楮が多く、石見半紙を産する。

(2) 平野及び沿岸 鳥取・斐伊川等の平野では米産が多く、二毛作は餘り

平野及び沿岸



斐伊川平野 松の垣根をめぐらした家が散在してゐる

振はない。海岸の砂丘の多い地方は栽桑養蠶が盛で、鳥取縣の梨萩の夏蜜柑もよく知られる。隱岐群島と海岸の各地とは烏賊・鰯・鯛の漁利が多く、山口縣民は朝鮮近海にまで出漁し、下關は大漁港で竹輪蒲鉾の産がある。

農業(米・麥・桃・梨・蜜柑・蘭草・除蟲菊・薄荷・格栽・桑・養蠶)
牧畜(牛) 林業(松・杉・竹) 水産業(鯛・鱈・鰯・烏賊・牡蠣・鹽) 鑛業(硫化鐵鑛・石炭・大理石・花崗岩材・砂鐵銅)

三 交通

陸運

(一) 陸運 山陽線・山陰線は二大幹線で、二線の終點下關は釜山・門司に連絡船を通じてゐる。山口・伯備・因美・木次諸線は主に山陰・山陽を連れ、四國との連絡には宇野線と連絡船と

がある。

水運

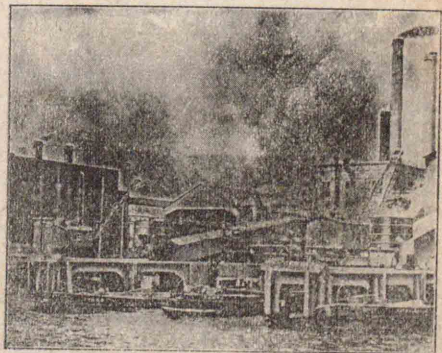
(二) 水運 瀬戸内海は、内外の航路に當り、又中國・四國間、阪神北九州間の交通路である。

四 工業 商業

工業

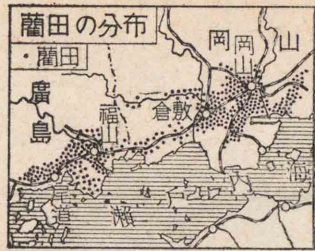
(一) 工業 山陽地方は原始産業が發達し、水陸の交通が至便で、動力・勞力が豊であるから、阪神北九州を結ぶ近代式大工業地として發展しようとしてゐる。岡山・倉敷・玉島・笠岡・福山等には綿工業が榮え、岡山・津山には生絲の製造が行はれる。清水に恵まれた三原・廣島・岩國・防府等には人絹・織工業が榮え、鞆・西條・三原には清酒を産する。山口縣には徳山・宇部の曹達、宇部・小野田のセメント、下關・彦島・宇部の硫安等、化學工業が榮えてゐる。三石・伊部には耐火煉瓦の産が多

く、又伊部は備前焼を産する。廣島には牛肉罐詰業が盛で、其の原料は本地方の外、朝鮮・支那に仰ぐ。尙玉野・因島下關等に造船所があつて、内海の特色を發揮してゐる。岡山・廣島兩縣では、農家の副業として、疊表輸出向花筵麥稗眞田・經木眞田等が多く造られる。



宇部のセメント工場

岡山・福山・尾道等は疊表・花筵を、笠岡・高梁等は眞田類を集散する。



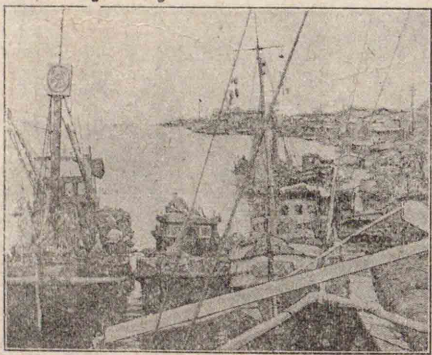
備後表 戦國時代に始めて織り出され、徳川時代の初期に廢品原料利用の必要から中繼表が出来た。徳川吉宗の頃花莫産が出来明治になつて織機が發明されて産額を増加し、今は輸出額も多い。原料の蘭は冬期水田に苗を植ゑ、夏期刈取る。刈取後の株間には稻を作ることが出来る。

山陰地方

商業

山陰地方は山陽に比し、地理的條件が劣るため、工業の發達が後れ、従來は養蠶を背景とする鳥取・倉吉・米子・松江の生絲石見の赤瓦和紙、萩の萩焼等が僅かに知られるに過ぎなかつた。然し最近に至り、高津江津に人絹・人織の近代工業が勃興するに至つた。

二商業 大阪の商圏内にある。玉野・尾道・糸崎・宇部・下關・關門港の一部、萩・濱田・境等、多くの開港場があるが、貿易は阪神の後背地で、下關港が僅かに著れるに過ぎない。



境 港

岡山縣

七、〇四万方
一三萬人
一八九人

五處誌

岡山縣

中國地方

岡山平野

三石・伊部

は燒物を産し、岡山市・倉敷市・玉島・笠

〇四 〇四

一六六 七七

三五 二三

廣島縣
八四三万方
一八〇萬人
三四人



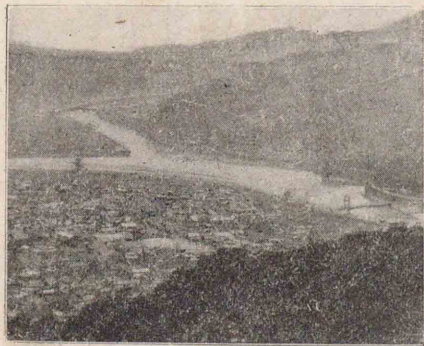
岡山縣の麥稈真田製造

岡等は纖維工業地で、又壘表を集散する。
玉野市は交通の要地で造船業が盛である。
北部山地一般に牧牛地帯で、津山市は生絲、高粱は麥稈真田を産する。

廣島縣 東部 綿絲壘表産地の福山市、備後耕産地の新市、壘表産地の尾道市、原市等の工業

山口縣
六、〇八三方
二九萬人
一八人

都市が連なる。西部 中國地方の要部で、西條(酒)海田市製鋼、吳市、廣島市等が並び、軍事關係工業地域として活氣を呈してゐる。三次盆地 牧牛地帯で、三次が中心である。山口縣 瀬戸内海方面 岩國市徳山



三次盆地 近景が三次町 川は江川

島根縣
六、六五方
五萬人
二三人

鳥取縣
三、四九方
四萬人
一四人

市下松市、防府市、宇部市、小野田市、開港の下關市等があり、大工業地とならうとしてゐる。山口市は、一教育地である。日本海斜面 開港萩市は、夏蜜柑を産する。

島根縣 石見地方 奥地は林業地、海岸は漁業、農業地で、濱田市

は其の中心である。出雲地方 大社には出雲大社があり、松江

市には瑪瑙細工、出雲焼の特産がある。隱岐 島前には牧牛が

行はれ、島後に漁港の西郷がある。

鳥取縣 平野では米作、臺地及び海岸の砂丘では桑作が行はれ

る。米子平野 米子市は平野の中心で、夜見濱の先端に開港の

境がある。倉吉平野 倉吉は、平野の中心である。鳥取平野

中心の鳥取市は生絲を産する。

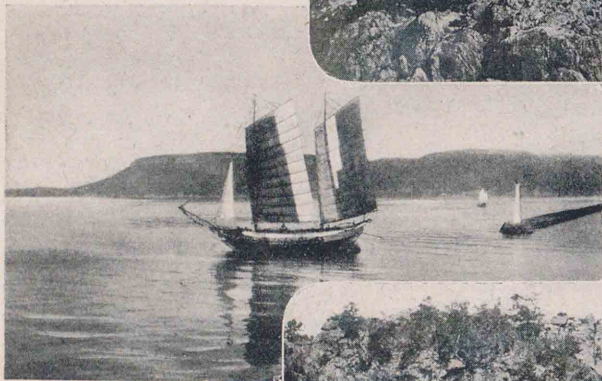
六 生活 特性



室戸崎



大歩危



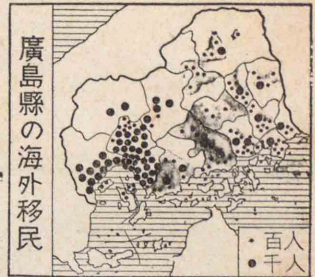
寒霞溪



屋島



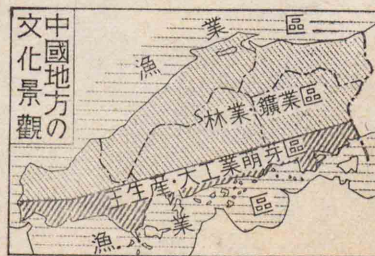
道後温泉



中國地方

(一) 山陰は古來朝鮮と交渉があり、出雲文化を開いたが、瀬戸内海が交通の中心舞臺となると共に衰へた。山陽は交通に恵まれ、次第に工業地帯としての景觀を備へつゝある。山陽は總人口の四分、三を有し、人口の密度も大で、海外に發展するものが多い。山陰は人口の密度も小で、國內に出稼するものが多い。

(二) 國勢が大陸方面に伸びると共に、廻廊としての山陽の役目は益々重要性を加へ、神戸・下關間の新鐵道や、朝鮮海峽の海底トンネル等も計畫されてゐる。山陽地方は工業地として將來が期待されるが、旱魃や洪水の害を少くするため、造林と河川の改修とを急務とする。



氣候

地形

位置

四國地方



① 氣候 四國山脈の南北で、氣候は著しく異なり、北四國は溫和快晴であるが、南四國は多雨で、榕樹樟林投樹等の亞熱

② 位置 北は瀬戸内海を隔てて中國と相對し、南は太平洋に臨み、近畿九州兩地方の中間にある。

③ 地形 中央を四國山脈讃岐山脈が走り、剣石鎧等の高峯が聳えて、この地方を圖のやうな二地形區に分けられる。又瀬戸内海岸に沿つて、瀬戸内火山脈が走り、屋島の臺地や飯山を噴出してゐる。

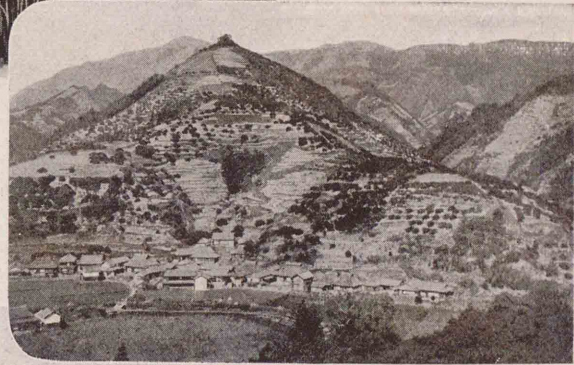
一 自然

第六章 四國地方

一六、七三万軒 二五万人

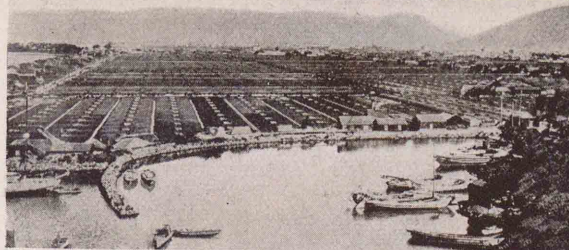


愛媛縣の蜜柑山

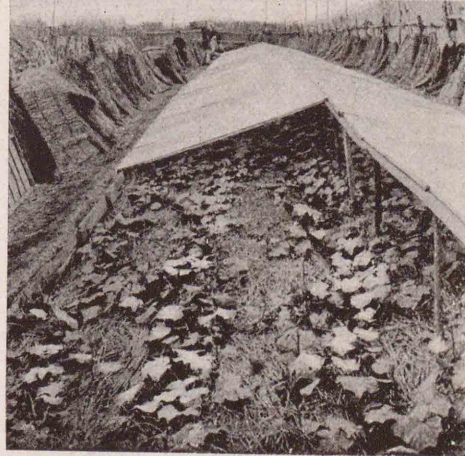


讃岐平野の稈麥

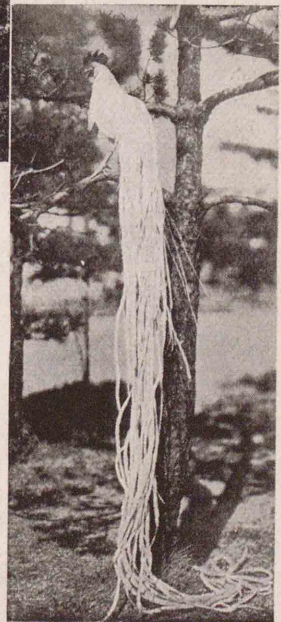
坂出鹽田



高知縣の促成栽培



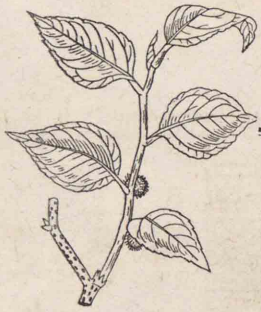
→ 高知縣の長尾鶏



帶性植物が生育してゐる。

二 原始産業

(一)北四國 (1)山地 別子に銅鑛を産し、小豆島には花崗岩の産が多く、西部には養蠶が行はれ、樺楮・三桎等が栽培される。



楮の原料製紙

別子銅山 元祿頃の發見にかゝり、以來續いて採掘されてゐる。鑛石は地下一二〇〇—一三〇〇米の處から盛に採掘されてゐる。其の鑛石は山下まで索道で送られ、こゝから鐵道で新居濱附近に送り、こゝで選鑛して海上十五軒の四阪島に運び、精鍊して粗銅とし、再び新居濱附近で、純銅・金・銀に分解せられる。

(2)平野及び沿岸 平野に米麥が作られ、丘陵・島嶼には蜜柑園・苹果園が開けてゐる。吉野川の流域は、礫層が多いので

北四國山地

平野及び沿岸



南四國山地

平野及び沿岸

米田に適しないから畑が多く、池田附近に煙草を産し、脇町附近は藍作が衰へて桑の栽培が盛となつた。撫養・坂出・波止濱を中心として、瀬戸内製鹽地帯の主要部があり、瀬戸内海に鯛・鱈・撫養に和布の産が多い。

十州鹽田 播磨備前備中備後安藝周防長門阿波讃岐伊豫の十箇國に互る鹽田のことで、其の製鹽額は内地の九割を占める。

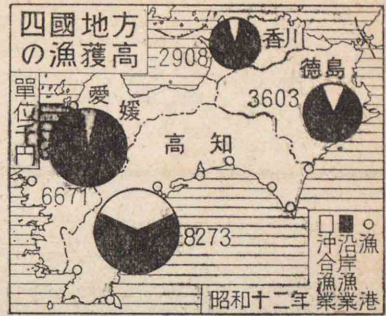


高知縣の米の二期作

(二)南四國 (1)山地 高温多雨のため、杉・檜等の密林があつて、木材・薪炭・樟腦を産し、丘陵には楮・三桎が廣く栽培せられる。

(2)平野及び沿岸 高知平野では年二回の米作さへ行はれ、又早





期蔬菜を作つて、京阪神地方に送る。近海は、鯉・鰯・鮪の水産に富み、特に高知縣は土佐節を産し、近年、遠洋漁業も盛に行はれる。

農業(米・麥・野菜・蜜柑・梨・橘・三極・檜・煙草・藍・養蠶)
 林業(杉・檜・薪炭・樟腦) 水産業(鯛・鱈・鯉・鰯・鮪・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯)
 花崗岩材) 鑛業(銅)

三 交通

陸運 鐵道は、山に隔てられて、各小平野に別々に設けられてゐたが、今は豫讃・高德・徳島・土讃の四線が出来て、各地の連絡が稍便利になつた。

水運 陸上の交通に反し、沿岸各港間及び各港と阪神中國との水運は、割合に便利である。

陸運

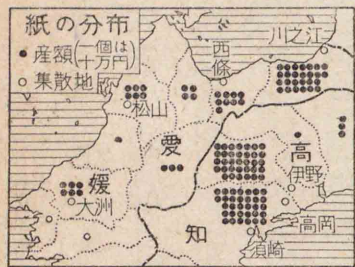
水運

空運 航空路は大阪から松山を経て別府に至り、又大阪徳島・高知間にも開けてゐる。

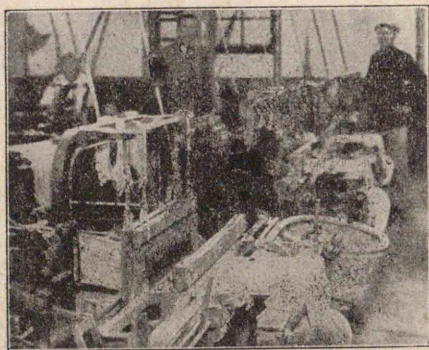
四 工業 商業

工業 中國と同様に瀬戸内海方面が盛である。別子の銅鑛は四阪島で精鍊し、又直島では生野の鑛石を精鍊して金・銀・銅を得る。徳島・高松

工業 精鍊 近代工業



坂出・今治・西條・宇和島・八幡濱等には綿絲布、新居濱には化學機械、徳島・新居濱・西條に人織・絹等の近代工業が行はれる。高



徳島の織物工場

和紙

商業

德島縣
四、四三万
三、八万人

香川縣
一、八五万
五、五万人

愛媛縣
五、六七万
二、六万人

高知縣
七、〇四万
七、〇万人

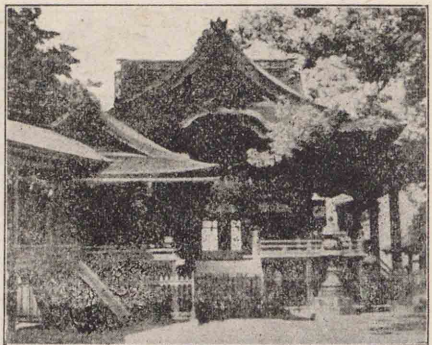
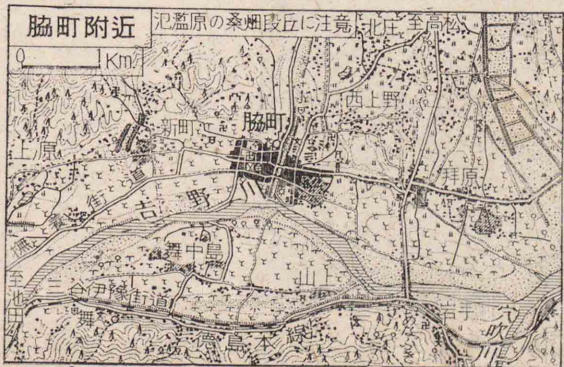
四國地方

知愛媛兩縣には和紙の産額が夥しく、高知・伊野等が其の中心である。其の他、香川縣には麥稈眞田・吹醬油(小豆島、高知大洲・宇和島・八幡濱には生絲、高知にはセメント、宇和島附近には酒精の工業が行はれる。

(二)商業 阪神の勢力下にある。今治高知は開港場である。

五處誌

德島縣 吉野川流域 德島平野は水田が少く、池田は煙草を産する。脇町附近の藍畑は、近來多く桑園となつた。德島市は城下町で、人絹綿布を産し、外港小松島は、綿絲の産が多い。撫養は鹽足袋の産地である。



宮香川縣 讚岐平野 多くの灌漑用貯水池は、養鯉養蛙にも利用され、耕地がよく比開けて農産が多い。高松市丸龜市坂出多刀度津善通寺等の都市があり、次第に工業地化して來た。琴平は金刀比羅宮の門前町である。

愛媛縣 東豫 新居濱市西條今治市等の新工業地が連なり、波止濱は製鹽地である。北豫 松山市には綿工業が行はれ、道後湯は温泉地である。南豫 肱川流域は桑畑が多く、大洲は生絲を産する。佐田岬以南のリアス式灣内に、地方的中心の八幡濱市宇和島市がある。

高知縣

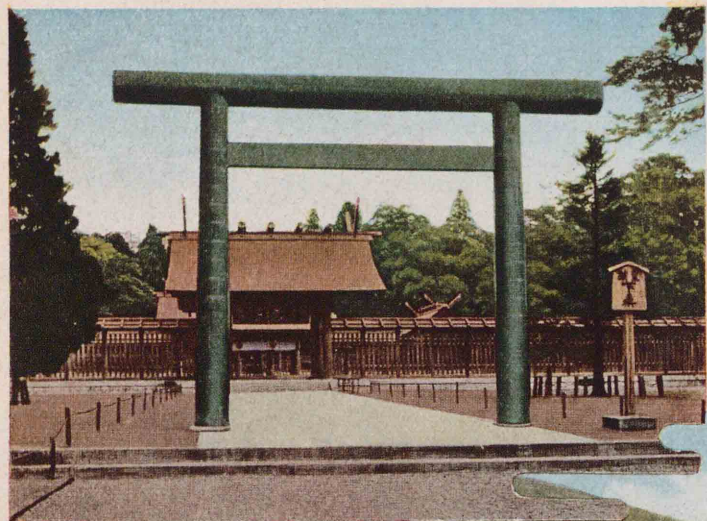
足摺岬方面

清水を始め漁業聚落が多い。

高知平野

四國地方

七

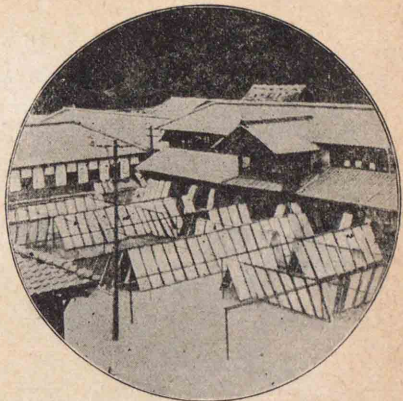


宮崎神宮



櫻島

耶馬溪
↓

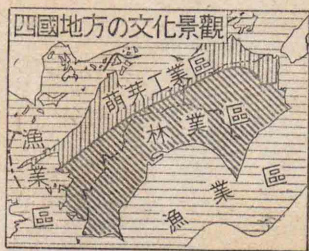


伊野の製紙

四國地方

(一) 人口は内海方面に集り、殊に香川縣の人口密度は、本邦第六位で、縣外に出る海員・出稼人・移民が多い。南四國は久しく隔絶して、人口密度が尙小さい。要するに四國地方は、主要交通路より外れ、南北兩方面とも、平野が少なくて大都市の發達がおそい。

(二) 北岸方面は山陽地方と同様、工業地帯とすべきで、工業發達の條件を多く備へてゐる。



六 生活 特性

須崎は漁港で、伊野には製紙が盛である。高知市は、城下町で、セメント・和紙・生絲を産する。室戸岬方面、室戸岬は漁業が盛で、附近は雄大な眺を以て著れる。

地形

位置

九州地方

多くの山塊に分れた筑紫山脈、南部には高い九州山脈が、共に斜に走り、この二つの山脈の間には、鶴見、由布、阿蘇、雲仙等の



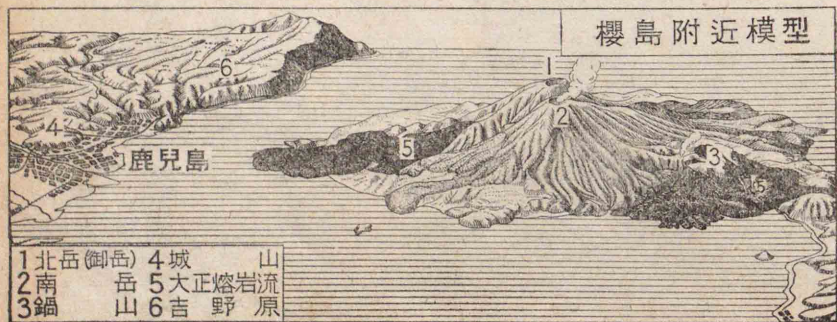
一 自然

第七章 九州地方

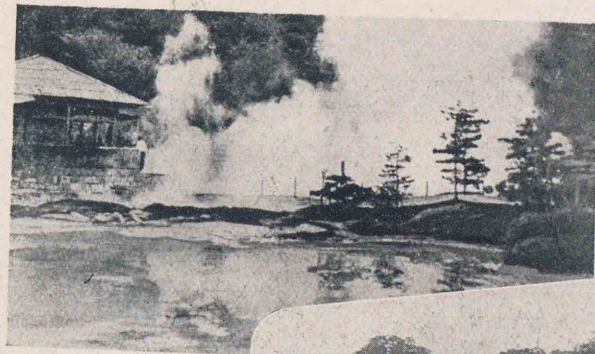
四、四万五千方
一、〇二万人 一、三三万人

(一) 位置 内地の最西部で、大陸に對するよい位置を占め、特に北九州は主交通路に沿つてゐる。

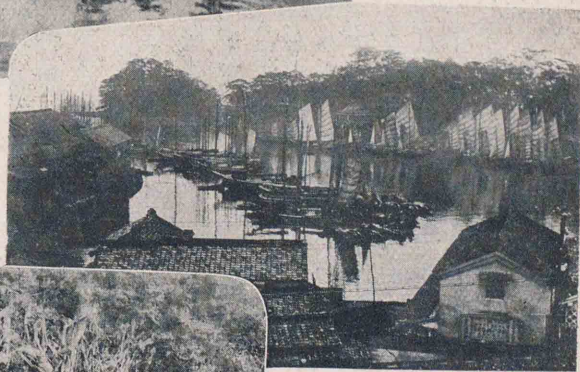
(二) 地形 北部には



八九



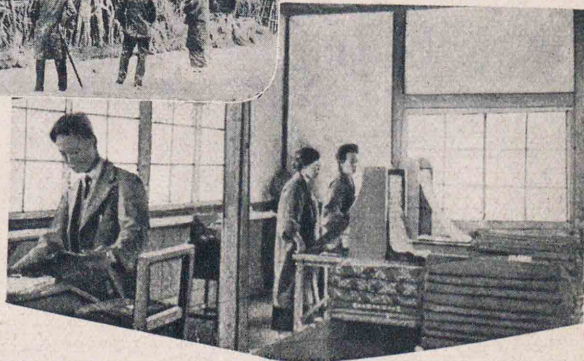
別府温泉 (海地嶽)



島原港

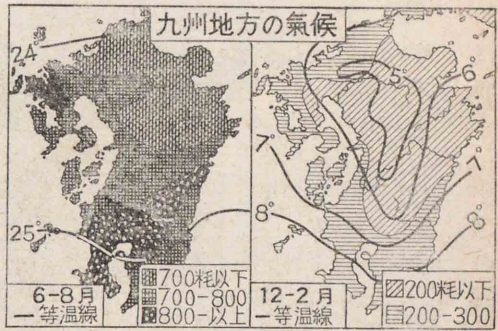


琉球の榕樹



大島紬の製造

氣候

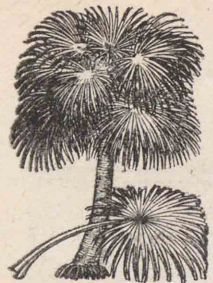


火山や別府雲仙等の温泉が多い。南部には霧島櫻島等の火山や霧島指宿等の温泉を含む霧島火山脈が、遠く薩南琉球等の列島に及んでゐる。この地形により、この地方は圖のやうな四地形區に分れてゐる。

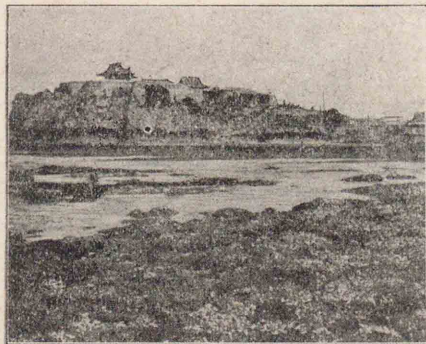
(三) 氣候 南方にあ

る上に、近海は暖流

が流れて一般に温暖である。北九州



は山陰に似て、冬は曇天が多く、南九州は高温多雨で樟が繁り、南方の諸島は亞熱帶性で雨が多く、榕樹蒲葵が繁り、珊瑚礁が發達してゐる。

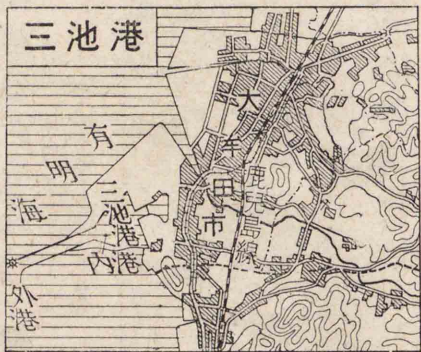


那覇市の珊瑚礁海岸

北九州

鑛業

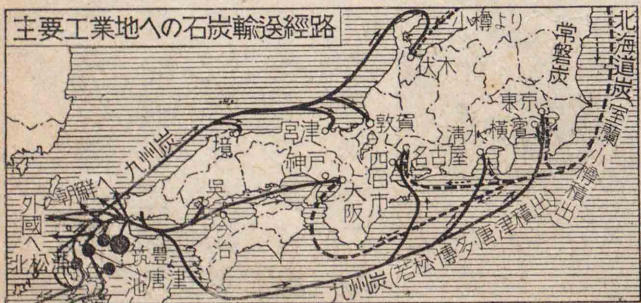
二 原始産業



(一) 北九州 遠賀川流域の筑豊炭田を始め、三池、唐津、高島等の諸炭田があつて、北九州繁榮の原動力となつてゐる。

北九州の石炭は、足利時代

に三池で見出された。石炭のことを五平太といふのは、今から二百二十餘年前、高島炭を見出した人の名だといふ。今は全國出炭額の四十四%を産出し、其の三分二は筑豊炭が占める。これ等の石炭は若松、戸畑、門司、三池から積出され、關東北陸から海外にまで供給さ

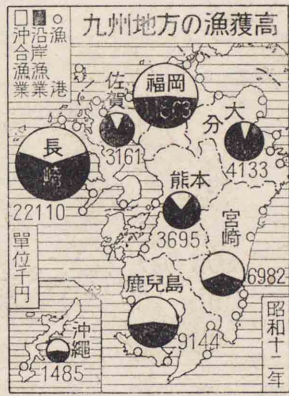


農業

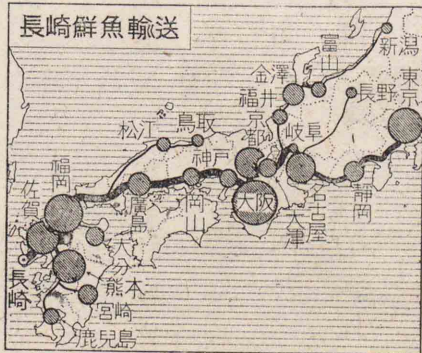
九州地方

諸平野には米田が開け、筑紫平野には灌漑排水の溝渠網が全國中最もよく發達してゐる。これ等の米は、主として久留米・佐賀門司等で集散される。一般に二毛作が行はれ、麥・菜種の産も多い。筑紫平野の丘陵には榎が多くて秋色麗しく、木蠟を産する。各地の砂丘地・臺地には甘藷粟等の栽

水産業



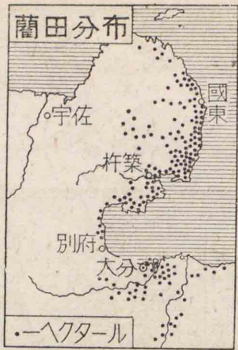
培が盛で、長崎附近は枇杷の産が多い。近海は烏賊・鯖・鮭、有明海は牡蠣・鯉の産が多い。トロール漁業は戸畑港を根據とする。海産物は長崎



中九州
農業
鑛業

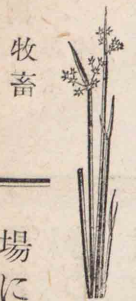
の大漁港を始め、博多・唐津等に集められ、遠く京濱支那にまで供給される。

(二) 中九州 火山地域に鯛・生馬・上の金産地がある。熊本平野は肥後米の産地として名高く、其の周圍の火山灰臺地には粟・甘藷の産が多く、養蠶も盛である。球磨川の三角洲には西瓜、國東半島には七島蘭が多く栽培される。



七島蘭 かやつり草科の多年生植物で、普通の蘭とは異なる。

てゐる。大分縣が主産地で全國の過半を産し、静岡・熊本・鹿兒島・沖繩の諸縣にも作られる。質が強いから引裂いて乾かし、七島表に製する。



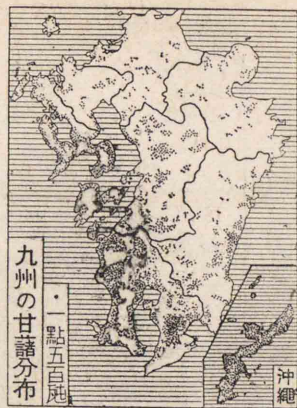
七島蘭 火山の裾野や火口原は、馬牛の牧場に利用される。

九州地方



南九州
鑛業
林業

農業



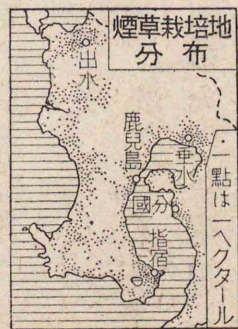
九州の甘藷分布
一點五百畝

(三) 南九州 山地には山野串木野の金、見立尾平の錫、及び槇峰の銅等、鑛産が豊である。大分・宮崎の兩縣には杉・檜の良材や、薪炭、椎茸、樟腦、竹材等を産する。火山灰の臺地には畑が開け、甘藷、粟の栽培が盛である。

甘藷 元祿の頃琉球人が南支那から傳へ、種子ヶ島を経て鹿兒島に入り、享保の頃日本の各地に弘められた。暖い國の砂質壤土又は火山灰、輕石層の畑地に適するので、九州地方の産額は全國の過半を占めてゐる。従つてこれを背景として近時は酒精醸造の業が、大津・出水・高鍋・鹿屋等に起つた。

牧畜

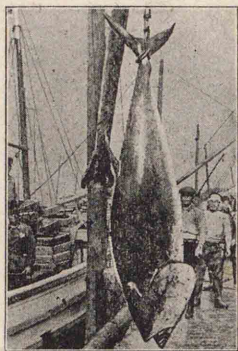
國分・指宿・出水附近には煙草の栽培が榮え、又豊後水道方面には蜜柑、宮崎附近や指宿温泉地には野菜の促成栽培が行はれる。火山の裾野や火山灰臺地は牛馬



煙草栽培地分布
一點は一ヘクタール

の放牧に利用されるが、近年次第に開墾されつゝある。

水産業



九州の鯉漁

水産では鯉・鮪が著れ、山川・枕崎等は其の根據地をなし、且

良質な薩摩節を産する。

(四) 南方諸島 高温であるが、山勝ちのため、甘藷・甘蔗の栽培が盛である。豚



那覇の甘蔗市場

山羊の飼育が普及し、漁業も榮えてゐる。屋久島には杉の美林がある。

農業 米・麥・粟・菜種・甘藷・西瓜・野菜・甘蔗・煙草・楡・七島蘭・養蠶
牧畜 馬・牛・豚・山羊 林業 杉・檜・薪炭・椎茸・樟腦・竹材 水産業 烏賊・鱈・鮭・鰯・鮪・鯉・鰹節 鑛業 石炭・金・錫・銅

南方諸島

三 交通

陸運

(一) 陸運 鐵道は北西九州に最も發達し、南東九州は疎である。鹿兒島線は北は關門連絡船に連なり、南は三太郎越の難所を通過して、南北九州を連絡する。日豊線は東岸を通過して鹿兒島線に連なり、つて九州の大環狀線をなし、肥薩線は、ループ線で九州山脈の矢岳を越え、日豊線に連なる。肥線は阿蘇火口原を横斷して、鹿兒島・日豊兩線を結び、長崎線は九州の産炭工業地と長崎とを連結する。



水運

(二) 水運 門司は瀬戸内海の咽喉を扼し、且石炭積込地で、長崎と共に北九州工業地の門戸であるから、出入の船舶が多い。鹿兒島は、琉球・臺灣航路の要港である。

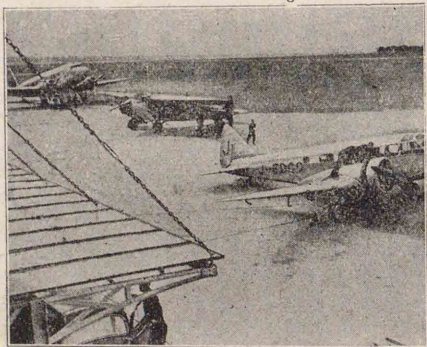
空運

(三) 空運 航空路には、大阪・福岡・福岡臺、北・大阪・別府、東京・福岡・大連等の諸線があり、近時北支・中支にも空路を通じる。

四 工業 商業

工業

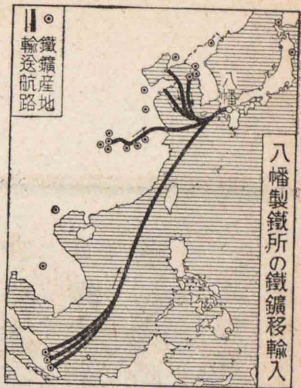
(一) 工業 工業は位置、燃料、勞力、交通に恵まれた北九州に勃興してゐる。殊に門司・小倉・戸畑・若松・八幡は、連続した一大工業市をなし、小倉の陸軍造兵工廠、八幡の製鐵所を始めとし、大工場が連なり、鐵機械、小麥粉、砂糖、麥酒、洋紙、綿絲、セメント、硝子、肥料、工業藥品、電線、化學等の近代工業が興つてゐる。



福岡飛行場 雁ノ巢にある

八幡製鐵所 元官設であつたが、今は日本製鐵株式會社の經營である。

原鑛は朝鮮、滿洲國、中華民國、南洋から輸入し、洞海沿岸數軒に互る大工



場で處理してゐる。八幡は明治二十年頃は人口一千二百に過ぎなかつたが、明治二十九年製鐵所設置以來、急に發展して、今は二十一萬の大都市となつた。

又餘勢は四隣に及び、長崎・佐世保に造船、大牟田・佐賀・長崎大分に紡績、佐賀、關に金銀銅の精鍊、久留米に地下足袋・タイヤ・機業、博多久留米にゴム靴の工業が起つた。

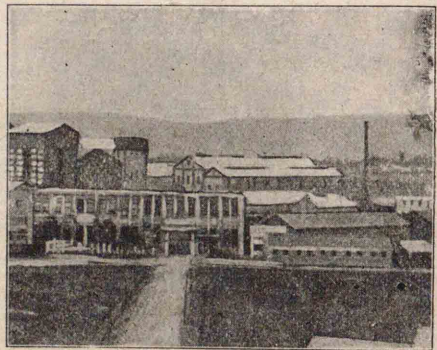
北九州が大工業地帯となつた理由は種々あらうが、①豊富な炭田を控へて燃料を得るに便利なこと、②海陸の交通が便利で、原料や製品の輸送に都合がよいこと、③朝鮮中華民國に近く原料の買入、製品の輸出の便利であること等が大原因で、尚④人口が稠密で勞力が得易いこと、⑤諸川の上流は水力發電に適し、電力の供給が容易なこと等が挙げられる。

尚水力電氣の便ある延岡・水俣に窒素工業、養蠶業を元にし

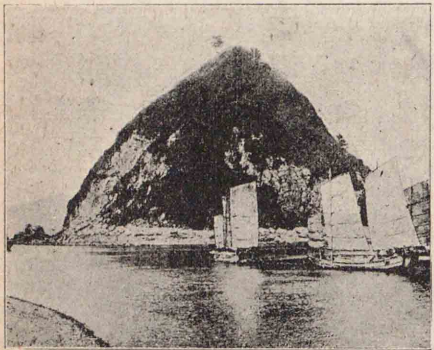
商業

て鳥栖・宮崎・都城・鹿兒島に製絲業が興り、又延岡に人絹、久留米・博多・大島等に織物、飯塚・柳河・長崎等に釀酒、有田地方に焼物、國東半島に疊表、鳥栖附近に製藥、八代・津久見にセメントの工業が行はれ、各地に酒精も製造せられる。

(二) 商業 北九州



延岡の窒素工場



港は頗る活氣を呈し、遠く阪神・東京・滿鮮支那と取引する。地方商業の中心は、角福岡・熊本・鹿兒島である。外國貿易は、阪神と關係せず、獨立して行はれ、門司・長崎が二大門戸で、綿絲・綿布・精糖・石炭等を輸出し、棉・豆粕等を輸入する。

右の外、若松・博多・唐津・三池・住江・口津・三角・巖原・鹿兒島・那覇の十開港がある。

五處誌

福岡縣

四、九四〇方糶
二、六萬人
五、六人

福岡縣 位置がよく、石炭・勞力等諸條件に恵まれて産業が榮え、

十個の市がある。北九州工業地帯 大工

業地域で、門司市・小倉市・戸畑市・若松市・八幡市等

の大工業市が連なり、阪神京濱中京と共に

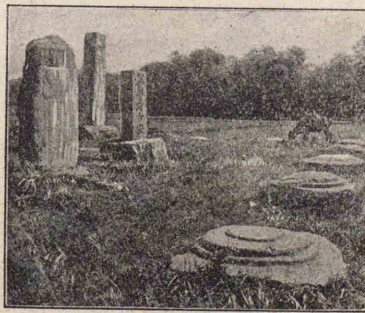
我が國の四大工業地といはれる。筑豊炭

田地方 我が國の最大の炭田があり、二瀬

直方市・飯塚市・後藤寺等の炭坑町が発達して

る。福岡平野 福岡市は九州文化の中心で、種々の工業が行

はれ、太宰府は昔時鎮西の要地であつた。筑紫平野 大農産地



太宰府の古址

福岡平野

福岡市

筑紫平野

大農産地

帯で、久留米市は其の中心の商工業市である。三池炭田を背景

とした大牟田市は大工業市となつた。

佐賀縣 筑紫平野 鳥栖は製絲製薬地、

佐賀市は米の取引地で、綿絲布の産地で

ある。筑紫山地 唐津市は石炭の輸出

港である。有田は有田焼の産地で、外港

伊萬里は漁港である。

長崎縣 灣入が多

く山勝ちで、甘藷が

盛に作られ、海外移住者又は漁民が多く、漁

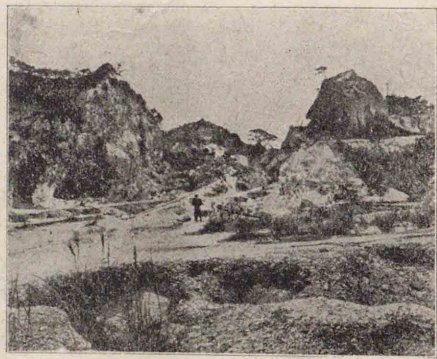
獲高は他府縣に冠絶してゐる。筑紫山地

軍港の佐世保市、開港の長崎市、交通製絲地

の諫早市等がある。島原半島 雲仙嶽は

長崎縣
四、〇五方糶
一、三〇萬人
三、八人

佐賀縣
二、四九方糶
九、九萬人
三、六〇人



有田焼の陶土採掘場

大分縣
六三萬方軒
八萬人
一五五人

熊本縣
七四萬方軒
一五萬人
一八六八人

内外の休養地で、島原市は史上に名高い。島嶼部 漁業地域で、五島の福江、平戸島の平戸、壹岐の勝本、對馬の嚴原等漁港が多い。

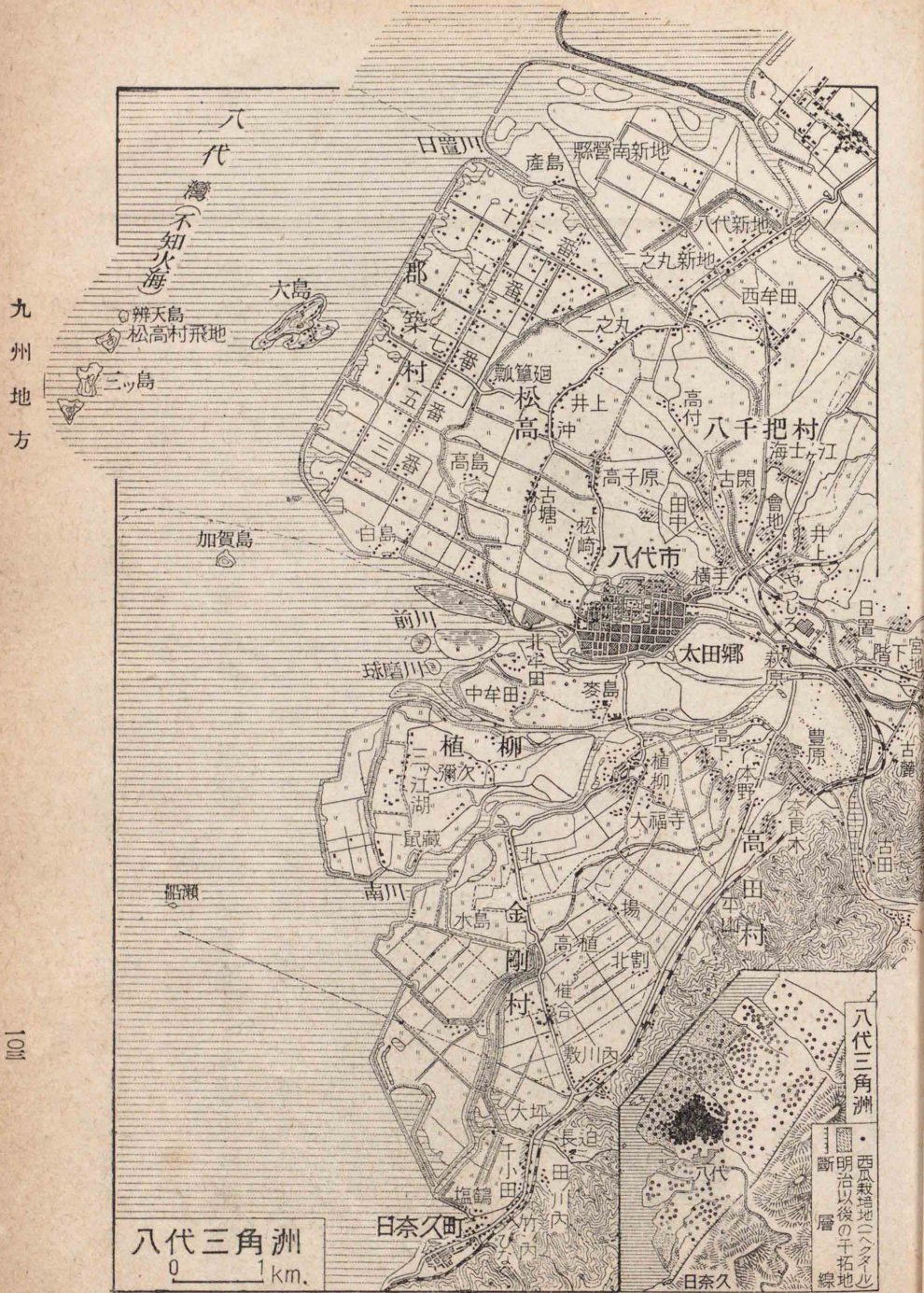
大分縣 周防灘斜面 中津市は綿絲工業地、豊前米木材を集散する。別府灣 斜面 國東半島の杵築は七島表を集散し、別府市は温泉地で、大分市は綿絲を産する。豊後水道方面 佐賀、關は金、銀、銅の精鍊地、リアス式灣内の臼杵は製絲、佐伯、津久見はセメント工業地である。

西部山地 日田市は日田盆地の中心である。

熊本縣 熊本平野 中心は城下町の熊本市で、其の門戸に開港三角がある。球磨川上流 山地は木材、椎茸、薪炭を産し、人吉で集散する。八代海岸 球磨川三角洲の中心の八代市は、種々の工業が行はれる。水俣は、窒素工業が盛である。



椎茸の栽培



天草島には丘陵、臺地が多く、甘藷を栽培し、又陶土無煙炭を産する。島内には出稼する者が多い。

宮崎縣

七、七五方
八三萬人
一〇七人

日向平野

延岡市

は窒素、人絹工業地で、宮崎市は綿絲生絲を産する。霧島山麓 都城市は生絲、小林は農畜産市場である。

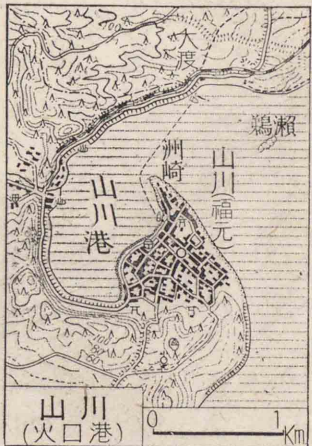
鹿兒島縣

九、〇四方
一五萬人
一七五人

大隅

肝屬平野

の笠野原は、大農式の新開墾地で、鹿屋はこの地帯の中心である。國分



垂水は煙草を産する。薩摩 鹿兒島市は城下町で、生絲織物を産し、出水は酒精釀造地、指宿は温泉町で、谷山は鹿兒島に對する野菜供給地である。

る。

山川枕崎

は、漁港で鰹節を産し川内市は米の集散地である。

薩南諸島

種子島、屋久島、奄美諸島から成り、大島の名瀬が最大

聚落である。

沖繩縣

二、三六方
五九萬人
二四一人

沖繩縣

山勝ちの小島で氣温が高く、榕樹、蒲葵が茂つてゐる。

南方に孤立してゐるので文化の發達は稍後れ、人口が稠密で縣外に活躍する者が多い。住民は多く甘藷

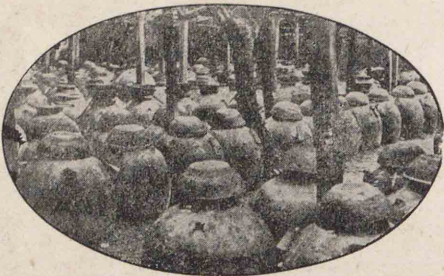
造を作り、米で泡盛を醸し、甘蔗で黒砂糖を製する。芭蕉布、漆器、琉球絣を産し、豚、山羊を飼養する。

泡盛の醸造

沖繩諸島 開港の那覇市



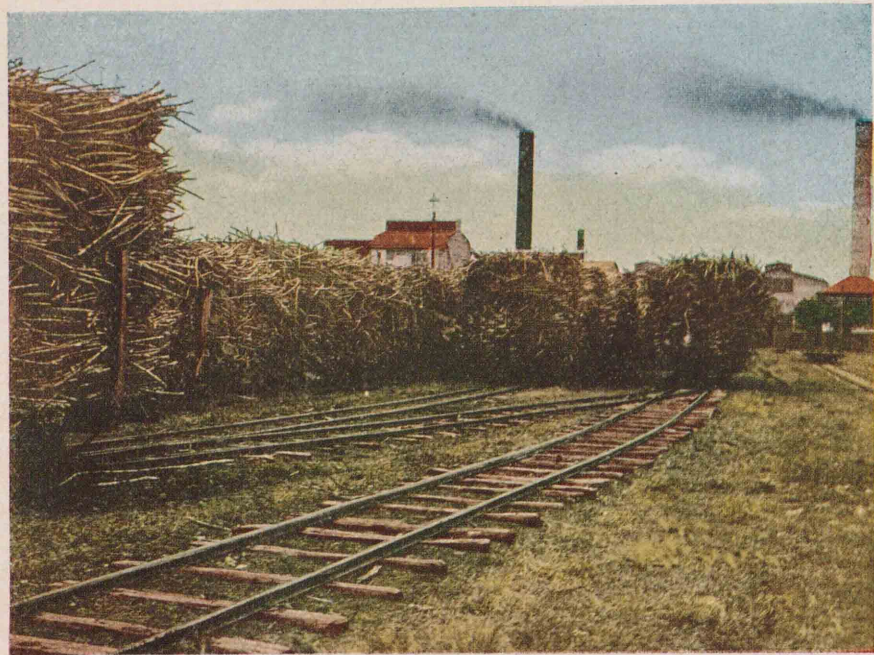
小規模な製造の黒砂糖 甘蔗しぼり



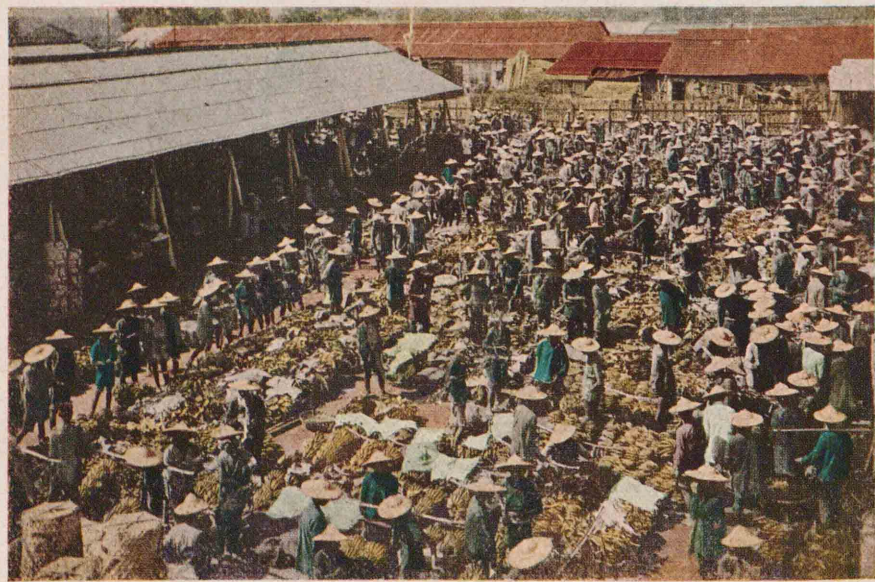
先島諸島は甘蔗を作り、鰹節を産する。大東島、沖大東(ラサ)島は、燐礦を産する。

大東列島

北



臺灣の製糖工場



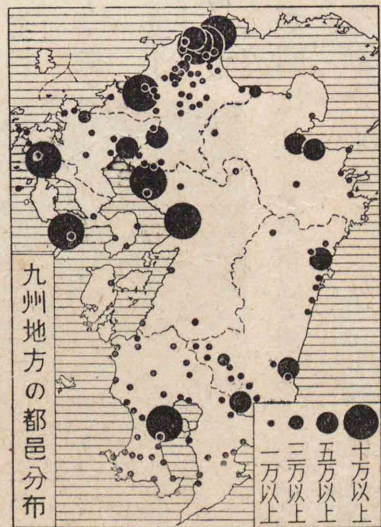
臺中市のバナナ市場



九州地方

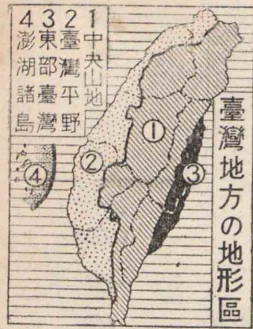
六 生活 特性

(一) 南東九州は早く神代に開けたが、近代的工業を招く要素を缺き、人口も疎で農村型の聚落が多く、九州の背面としての生活景を表してゐる。北西九州は夙に外國との交通が開け、工業の發達が著しく、人口が急増し、多くの工業都市炭坑都市が起つた。



九州地方の都邑分布

(二) 將來は大阿蘇の伏流九州山地の多量の水を利用する發電事業を起し、其の優秀な位置を利用して、益々工業の殷盛を圖り、延いて貿易の發展を期さなければならぬ。



位置
地形

臺灣地方

一 位置 帝國の南西端に位し、東支那海と南支那海とを扼し、海を隔ててフィリピン・中華民國と對し、この方面の重要な我が生長尖端である。

二 地形 臺灣山脈が中央を南北に走り、蕃界嶺が其の西に前山となつて連なり、これ等の山脈中に、新高山を始めとして高峯が聳えてゐる。山地の西側は急斜して臺灣平野となり、更に浅い臺灣海峽に移る。東側は臺東地溝を距てて臺東山脈があり、太平洋に急斜する。尙北方には大屯火山群が噴出してゐる。この地形

104

第八章 臺灣地方

五、六方、一、二萬人

附 新南群島

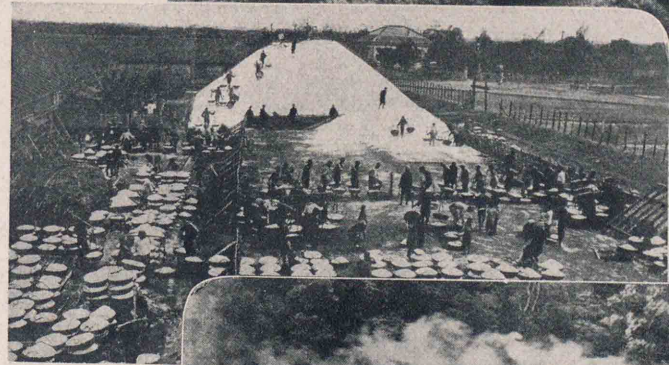
一 自然



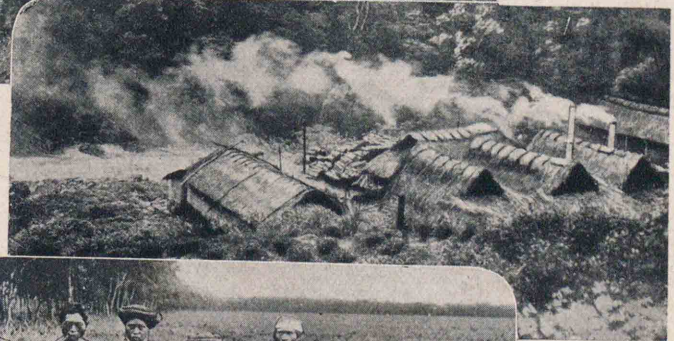
稻の收穫



茶摘み



↑ 天日製鹽



↑ 樟腦製造



パイナップル園

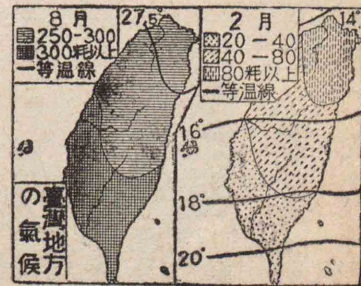
氣候



北の方の南義嘉
標線歸回

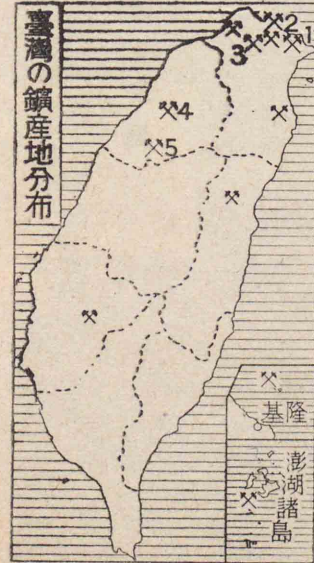
により、圖のやうな三地形區に分けられる。
三 氣候 北回歸線が略中央を横ぎり、極めて温暖で四季の變化が目立たない。雨量

は一般に多く、夏は南西季節風が吹くから、南部が雨季で北部が乾期となるが、冬はこれに反し、北東季節風が卓越するから、北部が雨季、南部が乾期となる。初秋には屢、颱風の被害がある。



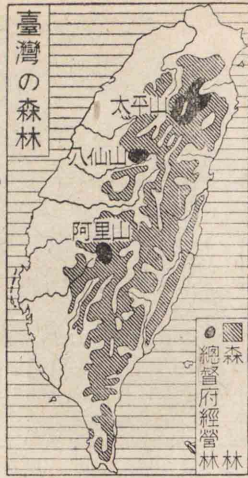
中央山地

一 中央山地 蕃界嶺の麓は含油層が多く、出磺坑に石油、錦水に石油ガスの噴



二 原始産業

出がある。金瓜石、瑞芳に金、銅、石炭、武丹坑に石炭を産する。高山上には寒帯植物があり、下ると檜、紅檜の原生林がある。阿里山、八仙山、太平山の美林は、盛に伐採されてゐる。



臺灣平野

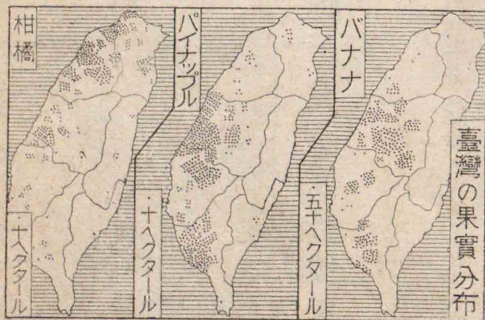
二 臺灣平野

五億石に及んでゐる。

温暖であるから、この平野には榕樹、檳榔樹、ヘゴ、林投、樹竹、大甲蘭、バナナ、パイナップル、パヤがよく生育し、茄子、蕃椒は多年生である。



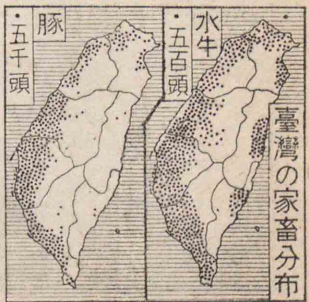
臺灣地方



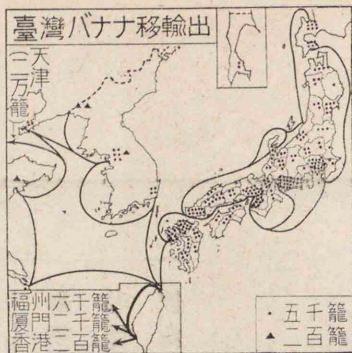


水牛

丘陵地は、熱帶闊葉樹林帯をなし、樟は本島森林の王といはれる。動物には、水牛、黄牛、豚、穿山甲等が住み、特に豚の頭数は内地の二倍に及んでゐる。中部は、極めて雨量が少いから、埤(溜池)・圳(水路)を作つて灌漑し、米の増収に大きな実績を

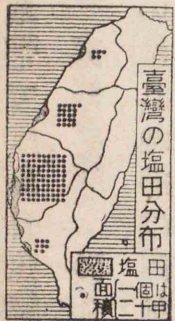


農が主産業で、米(年二回収穫)内地米改良の蓬萊米が多いは各地に作られ、彰化、臺中はその取引地で、基隆から内地に送る。茶は北部の丘陵段丘上に作り、年十數回摘葉され、臺北で精製し、基隆から輸出する。中にも紅茶は英米に、烏龍茶はアメリカ合衆國に、包種茶は南洋に送られてゐる。



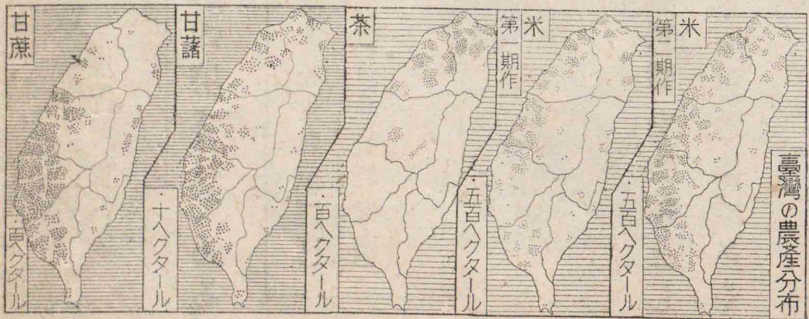
甘蔗園は平野の中部以南に廣く、甘蔗は米に次ぐ常食物で、季節と所とを選ばず栽培され、特に南部平野に多く、米、茶、甘蔗と共に、本島の四大農産物である。

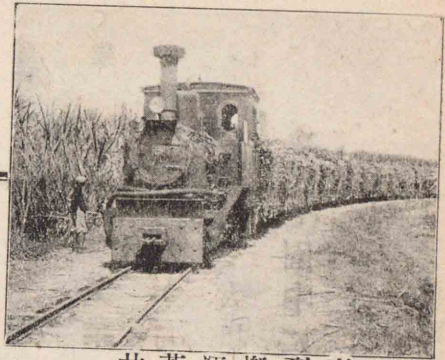
落花生、麻類、煙草、バナナ、文旦、パイナップル、龍眼肉の産も多く、バナナは、盛に内地、中華民國に送られる。陸棚の廣い北方の海には、乾季に漁業が行はれ、近年遠洋漁業も起つた。鯉節は基隆で製造される。中部



臺灣地方

南部の少雨地には、天日製鹽が行はれ、沿岸の砂嘴や潟湖の多い



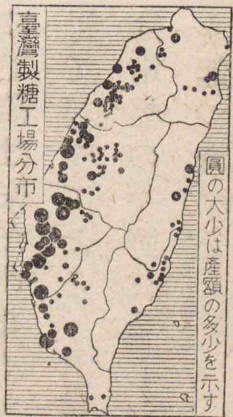


甘蔗運搬列車

て重要商品となつた。我が國が臺灣を領有した當時は、日本全國砂糖需要額の四分三は輸入に俟たなければならなかつたが、總督府の奨励によつて今は自給した上、多額の輸出を見ている。

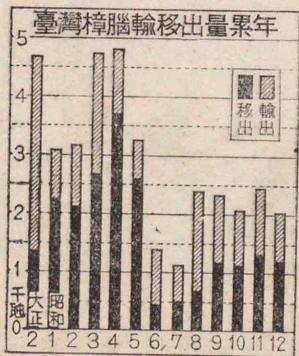
中南部のパイナップル産地に、其の罐詰工場が起り、樟樹の多い地帯では、粗製樟腦を作り、更に臺北で精製し、世界各地に送られ、**靱摺精米**は到る處に盛である。

臺灣の樟腦 領有以前は品質が悪く、樟樹も濫伐にまかせてゐたが、領有後は專賣制度とし、種々の改良を行つた結果、世界需要の過半を供給することになつた。近時ドイツの人造品に壓せられて衰へたので、他の方面の利用について考究せられてゐる。



臺灣製糖工場分市

國の大小は産額の多少を示す



林投樹の葉や大甲藪を用ひて帽子大甲蓆オモカシを作り、竹材で紙器具を家内工業的に作り、尙酒酒精小麥粉・セメント・煙草煉瓦・阿片の製造、原料を南洋に仰ぐアルミニウム精鍊も、近年起つて來た。

二商業 移輸入は基隆・淡水・安平・高雄の四開港で行はれ、特に基隆・高雄は、築港が完成して本島貿易額の九五%を占める。西岸には、支那型船に限つて、特に入港を許す後龍・鹿港・東石の三特別開港がある。

五 住民 政治

一住民 原住民の高砂族は山地に住み、閩族は都市に住んで商業に従



高砂族婦人の機織

政治

澎湖廳	花蓮港廳	臺東廳	高雄州	臺南州	臺中州	新竹州	臺北州
馬公街	花蓮港街	臺東街	高雄市	臺南市	臺中市	新竹市	臺北市

事し、^二粵族は平野に住んで農業に従事してゐる。共によく我が固有の風習に同化するに努めて、忠良の臣民となつてゐる。内地人は、僅かに二十七萬人に過ぎない。

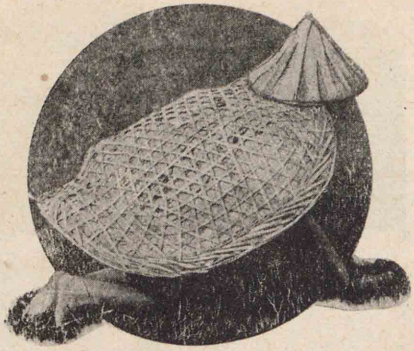
(二)政治 臺北にある臺灣總督府が全島を統轄し、其の下に、五州三廳がある。

六處誌

臺灣平野

臺灣平野 基隆市は内地との取引が多く、諸種の工業が行はれる。^{八七}臺北市は、政治・軍事・學術・商工の中心で、淡水は、今は支那と取引する。^{二七四}桃園は製茶の中心、新竹市は林投帽、^{二五}苗栗は砂糖・樟腦を産する。^{二五}

宜蘭平野 宜蘭は農産物・木材の取引地で、^{二六}蘇澳は鯨節を産する。



米の耕作(草取)

大甲は大甲帽大甲蓆の産地で、臺中市はバナナの大市場をなし、^{二六}彰化市と共に、米・甘藷落花生を集散する。^{七〇}斗六^{トロク}は樟腦を集散し、^{五二}嘉義市は阿里山材の製材地で、^{三七}製糖の業も行はれる。臺南市は精米の工場が多く、^{二二}高雄市は米産の中心で、アルミニウム精錬・酒精セメント等の工業地となつた。^{八五}鳳山^{ホウサン}はパイナップルの市場で、^{四三}屏東市には、製糖・精米・罐詰・酒精等の工業が行はれる。

澎湖諸島 平均二十米の低島で、^{三五}馬公は良灣をなし、海軍の要港となつてゐる。

臺東縱谷 臺東花蓮港は其の兩門戸で、^{一五}花蓮港はアルミニウム・^{一七}バガス・パルプ・酒精の工場が起つた。

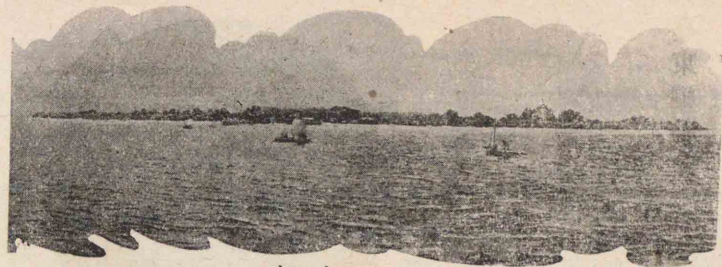
臺東縱谷

七 生活 特性

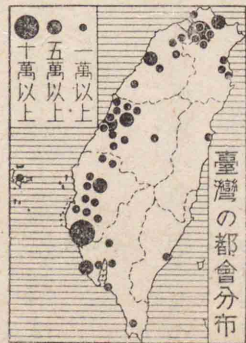
(一) 住民は、多く西部の大生産地帯に集り、栽培業に従事し、裕福で、都市の密度もこの部に大である。臺東平野は、新植民地的氣分の處である。一般に文化の進むにつれ、支那風が内地風に改りつゝある。

(二) 將來は熱帶性産物の増産を圖り、水力發電事業を起し、南洋の資源をも利用して、近代工業を起さなければならぬ。

附 新南群島 南支那海の南部にある小さい珊瑚島群で、早くから我が國人が発見して、燐礦の採掘をしてゐたが、最近高雄市の管轄下に編入された。



長島の南南新



位置

地形

氣候

第九章 南洋群島地方

二、四九方籽 一〇、三萬人 一、突人

一 自然

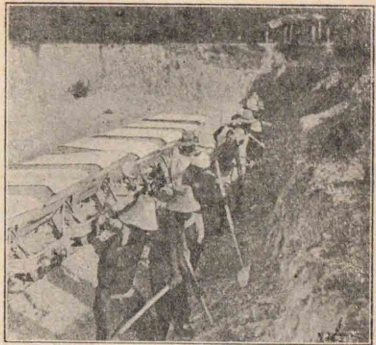
(一) 位置 ミクロネシア(小島の意)の大部である。財政は獨立し、土民の教化も進んでゐる。面積が狭いので大富源は望まれないが、我が南方發展上、大切な處である。

(二) 地形 マリアナ・カロリン・マーシャル三群島から成り、概ね火山島及び珊瑚島である。

(三) 氣候 熱帶海洋性氣候で、北東貿易風帯にあるのと、驟雨のため、凌ぎ易く、四季の變化(年中六七度、晝夜長短の差が少い)。



火山島の例 (左ウラカス 右アソンソン)



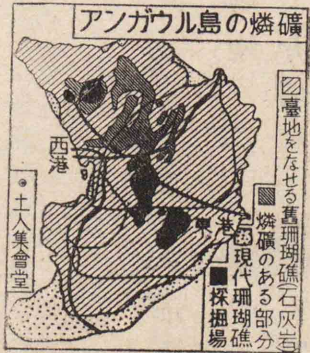
アンガウルの燐礦

二 原始産業

植物はよく成育し、各地にココ椰子、木瓜モクワが作られ、サイパン島は、甘蔗の栽培が盛である。コブラ砂糖が主産物で、糖蜜から酒精も作られる。水産には、貝殻、海參、鯉、鮪があり、鯉節は近時産額が激増した。

眞珠養殖も行はれ、諸島を根拠とする鯉の遠洋漁業と共に有望である。アンガウル・ペリリューの燐礦、パラオのポークサイトは、有望な産産である。

燐礦 珊瑚礁上に堆積した鳥糞セキトウが溶けて燐酸を生じ、珊瑚礁を作つてゐる炭酸カルシウムと化合して生じたもので、肥料の原料に供せられる。



アンガウル島の燐礦

三 交通 商業 住民 政治

(一) 交通 商業 サイパン・パラオ・ヤップ・ヤルット・アンガウルは開港で横濱と取引する。

(二) 住民 土人はカナカ・チャモロ二族に分れ、内地人は五萬三千人

で、沖繩縣よりの植民が多い。

(三) 政治 コロールに南洋廳を置き、管下をサイパン・パラオ・ヤップ・トラク・ポナペ・ヤルートの六支廳に分けて統治する。

四 處 誌

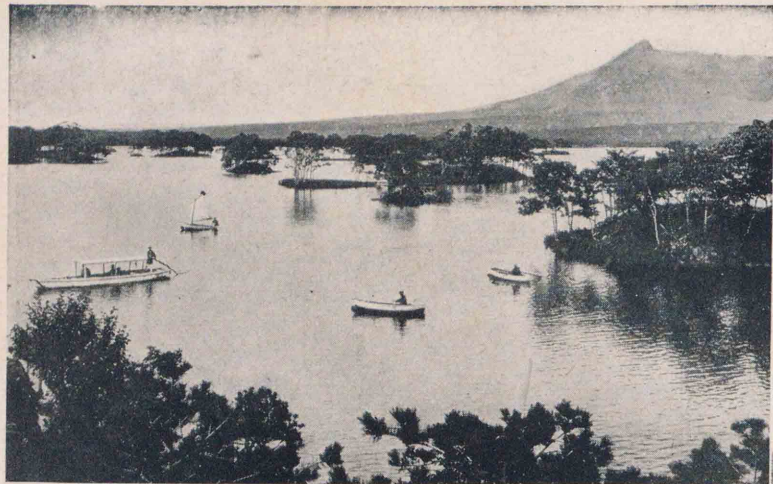
マリアナ群島 サイパン・ニアン二島では、甘蔗が栽培され、砂糖を産する。

南洋群島地方

交通 商業 住民

政治

マリアナ群島



大沼



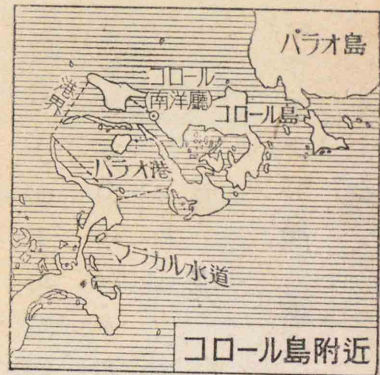
神居古潭



石狩平野

グアム島 五四方軒
 カロリン群島 一八八万人
 マーシャル群島

南洋群島地方



二列の珊瑚列島で、ヤルート島に、ジャポールの樂園があり、ココ椰子を産する。

五 生活 特性

面積は東京府位に過ぎないが、其の政治的・産業的價値をよく發揮してゐる點は、文明國の指導下にある熱帯栽培地の特性を表してゐる。

グアム島 米領で、海底電信の中心、米國海軍の要港である。

カロリン群島 ヤップ島は、海底電信の要地で、パラオ諸島のココロルは好錨地、アングウル・ペリリュー二島は、燐礦を出す。

マーシャル群島

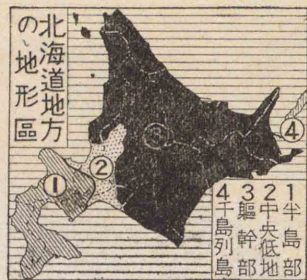


チャモロ族の結婚式

地形

位置

北海道地方



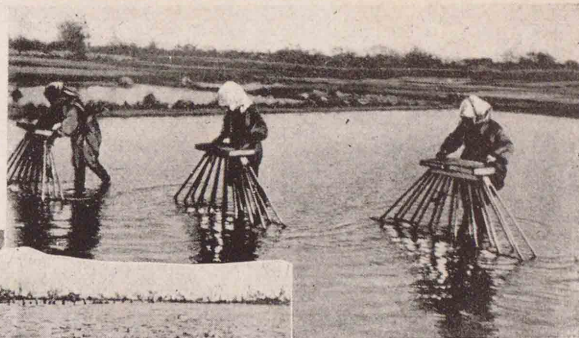
(一)位置 日本列島の最北部に位し、ソヴェト聯邦領の極東地方や、アメリカ合衆國領アリューシャン列島に互る、豊漁帯を控へてゐる。

(二)地形 樺太山脈の續きである蝦夷山系は、北見日高二山脈と天鹽夕張二山脈の二列から成つてゐる。千島から來た褶曲列は、阿寒火山を含む千島火山脈を伴ひ、蝦夷山系に會合する。この會合部は所謂北海道の屋根で、大雪山がこゝに聳える。これ等の山脈を根幹とする地帯が、この地方の軀幹部である。

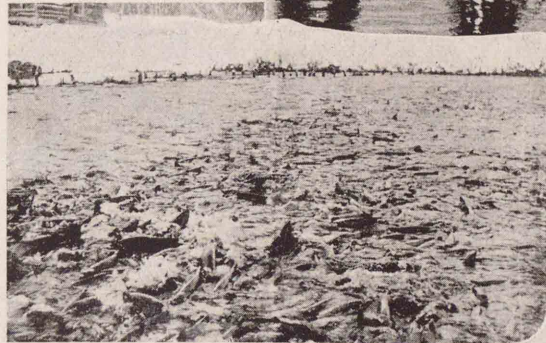
第十章 北海道地方

六、七五方料
三、七萬人「壹人

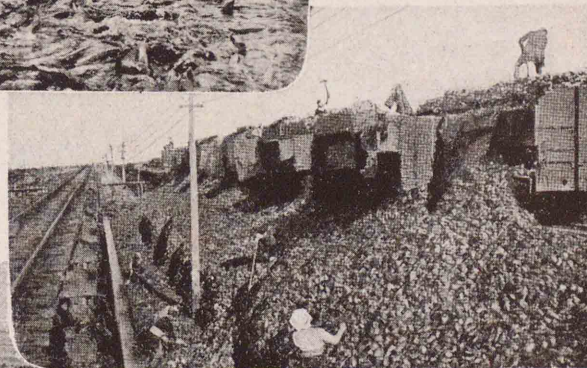
一 自然



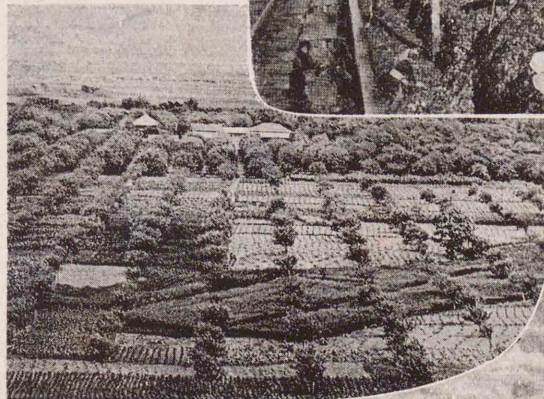
石狩川の
鮭 遡 上



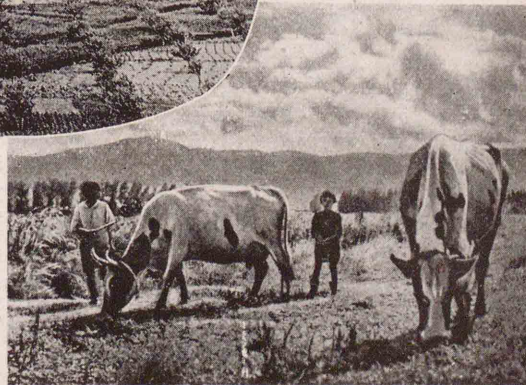
稻の直播



余市の苹果園

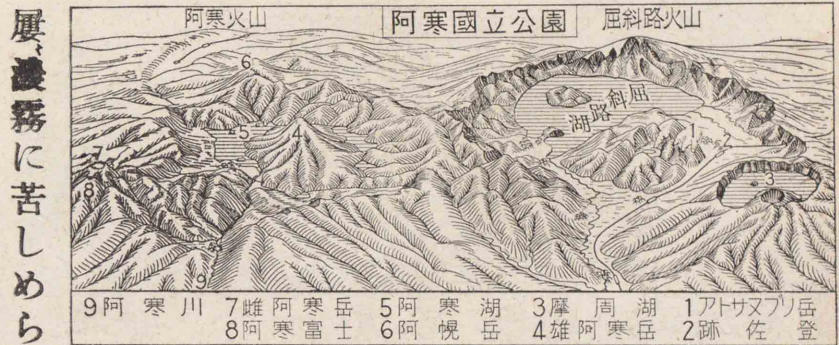


甜菜の輸送



札幌の郊外

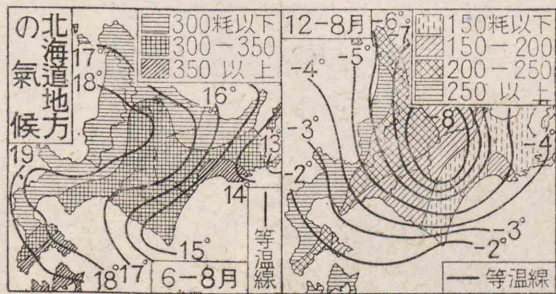
氣候



屢濃霧に苦しめられる。

る。半島部は那須火山脈の噴出地域で、駒ヶ岳、羊蹄山、有珠岳等が聳える。軀幹部と半島部との間は陥没して石狩膽振の兩平野がある。この地形により、この地方は圖のやうな四地形區に分けられる。

三氣候 日本海方面は對馬海流のため、割合に暖く、太平洋方面は千島海流の影響により氣温が低く、夏季は



根室附近の流水

濃霧は暖流上の水蒸氣を含んだ空氣が寒流上又は陸上の冷い空氣に混じて生ずるもので、六七月頃最も多く、冬季は最も少い。又一日中では朝夕が最も濃く、二時間内外續くもので、海運を阻み、日射を遮つて、農作物の生育を妨げる。

北見方面は、對馬海流の一部が南下するため、釧路・根室方面よりも暖いが、冬季はオホーツク海の流水が屢押し寄せる。内陸の盆地・平野は大體は概して少く、梅雨の現象は全くない。

生物

生物 津輕海峡は生物の分布上、ブラックストーン線として名高い。即ち其の以北には殆ど松がなくて、蝦夷松・椴松が多い。又動物は猪・猿がゐらないで熊がゐる。

半島部

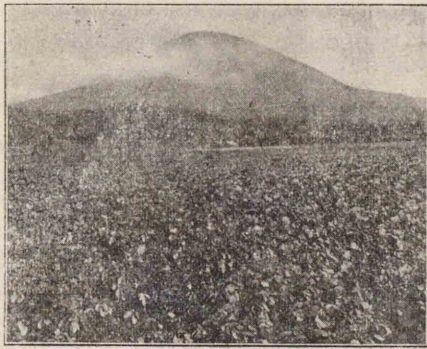
二 原始産業

一 半島部 鑛産では半島部の静狩轟に金銀稻倉石に満俺幌別に硫黄を産する。夏季の温度が足らないので、農業は振

はないが、俱知安盆地には、米、燕麥、大豆、馬鈴薯が作られ、又余市附近は、苹果を産する。烏賊、鯖、鱈等の水産が

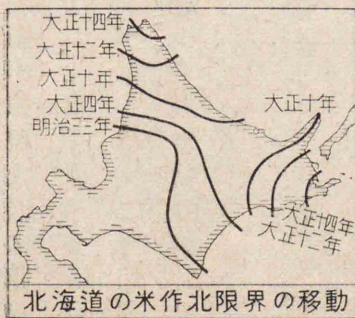
多く、沿海の火山岩は、よい昆布礁となる。

二 中央低地 最も



羊蹄山と馬鈴薯畑

開拓が進んで、丘陵上まで耕され、大農法により、米、豌豆、燕麥、玉蜀黍、馬鈴薯を多く



北海道の米作北限界の移動

中央低地

軀幹部

産する。月寒瀧川を始め牧場が廣く、牛馬、綿羊、豚が飼はれる。

三 軀幹部 石炭が多く、特に夕張山脈西麓の石狩炭田は、筑豊炭田に次ぐ大炭田で、この石炭は小樽、室蘭から積出される。鴻之舞に金銀、硫黄山(知床半島)に硫黄の産がある。

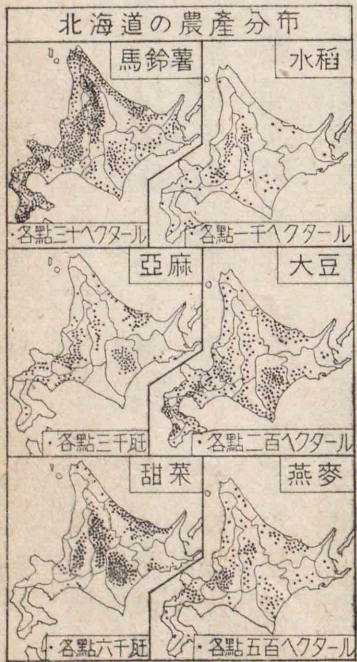
硫黄山 明治九年頃、噴氣孔から大量の硫黄を噴出したが、採掘しつゝした明治二十二年、又硫黄の噴出を見た。然しこれが盡きて休山にな

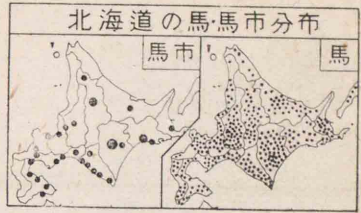
つてゐた時、昭和十一年再び一大噴出を見て、今盛に採掘されてゐる。



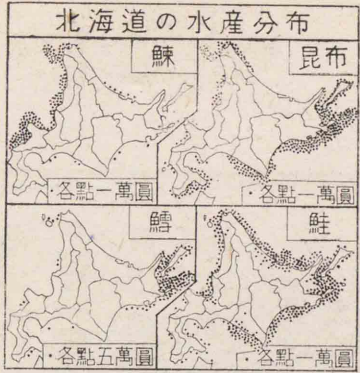
除蟲菊の收穫

名寄、旭川、富良野の諸盆





地には、新開の米田が遠く連なり、燕麥・豆類・除蟲菊・馬鈴薯も多く作られ、十勝平野には甜菜・大豆、野付牛方面には薄荷の産が多い。根室釧路方面は濃霧のため日射を妨げられ、農作が振はない。しかし雨が少く、太平洋方面一帯は新冠・白糠を中心として牧馬が盛で、大樂毛には盛な馬市が立つ。山地には蝦夷松・樅・檜の天然林

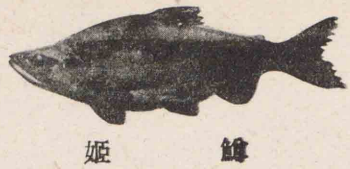


が多い。水産には南岸一帯の岩石海岸に昆布、根室海峡方面に鱒、利尻方面に鱒の産が多く、諸處の湖には鱒が漁獲せられ、これ等は主として函館に送られる。



狩勝峠の林相

阿寒湖・支笏湖の鱒は姫鱒である。紅鱒は河川で産卵し、海中で生育す



るのを常とするが、阿寒湖に産するものは、これが何時しか海との交通を絶たれて生育を續けて来たもので、姫鱒といはれる。北海道應はこれを支笏湖に放つて好結果を得た。十和田湖の鱒もこれを移したものである。

農業米・燕麥・豆類・馬鈴薯・玉蜀黍・除蟲菊・甜菜・牧草
 牧畜馬・牛・綿羊 林業蝦夷松・樅・檜
 水産業昆布・鱒・鮭・鱈 鑛業金石炭・滿庵硫黃

三 交通

陸運 水運

(一)陸運 函館線・根室線・宗谷線・室蘭線は主要鐵道をなし、外に名寄・石北網走・釧網の諸線及び數多の炭坑線がある。
 (二)水運 海上交通は早く開けたが、殊にオホーツク海方面の冬・春季の流水、太平洋方面の夏の濃霧は、一大障害である。

政治

半島部

渡島支廳	函館市
檜山支廳	江差
後志支廳	倶知安
膽振支廳	室蘭市
石狩支廳	札幌市
空知支廳	岩見澤
日高支廳	浦河
上川支廳	旭川市
留萌支廳	留萌
宗谷支廳	稚内
十勝支廳	帯廣市
釧路國支廳	釧路市
根室支廳	根室
網走支廳	網走

えてゐる。

(二)政治 行政上、七市十四支廳に分れ、北海道廳長官がこれを統轄する。町村には、自治制が布かれてゐる。

六 處 誌

半島部 函館市は開港漁港で、大沼附近には

養狐が行はれる。八雲は酪業地、倶知安は農

産中心である。

余市は苹果の

産が多く、岩内と共に漁港である。

室蘭市は、石炭木材の移輸出地で、壯

大な製鐵製鋼所がある。



中央低地

軀幹部

千島列島

中央低地 小樽市は本島金融の中心で、罐詰用空罐が製造され、

札幌市は本道の政治學術の中心で、工業が盛である。岩見澤砂川、

瀧川は、農産の中心で、江別苦小牧は製紙業地である。

軀幹部 石狩炭田には、美唄夕張等の大炭坑聚落が起つてゐる。

留萌は開港、名寄は交通市である。旭川市は上川盆地の中心都

市で、帯廣市は甜菜糖産地、池田は製麻業地、釧路市は釧路炭田を

控へ、製材・製紙が盛である。厚岸には牡蠣の養殖が行はれ、根室

は、北洋漁業の根據地である。網走は、北見の漁港で、野付牛は北

見平野の中心をなし、稚内は樺太に對する渡頭町である。

附千島列島 面積は四國位、人口は一萬五千で、紗那が主邑である。中

千島には養狐が行はれ、近海は鱒・鱈・海獸等が豊富で、南北千島には夏季

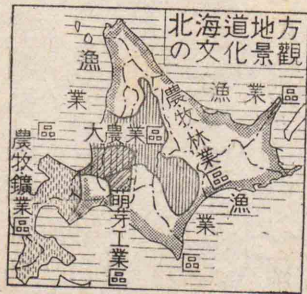
に内地人が出漁する。

七 生活 特性

(一) 北海道は冷涼地域の新開拓地で明治初年以來道民の努力により有用作物の氣候順化に成功し、水陸の生産が激増した。

(二) 開發には豊漁帯が先づ植民を呼び、海岸に漁業聚落が起り、其れから漸次、内陸へと開發が進んだものである。小規模の農業經營に適しない地域であるから、小規模農家が生活困難に陥つて、他地方に轉出したものもある。されば、廣野は大規模に農業經營が行はれ、規則正しい散村が起り、都市も井然とした街區の處が多い。

(三) 中央低地は人口の九割を收容し、將來大工業地に發展する可能性が多く、水産は漸く衰へたが、北洋漁業の根據地として重要である。



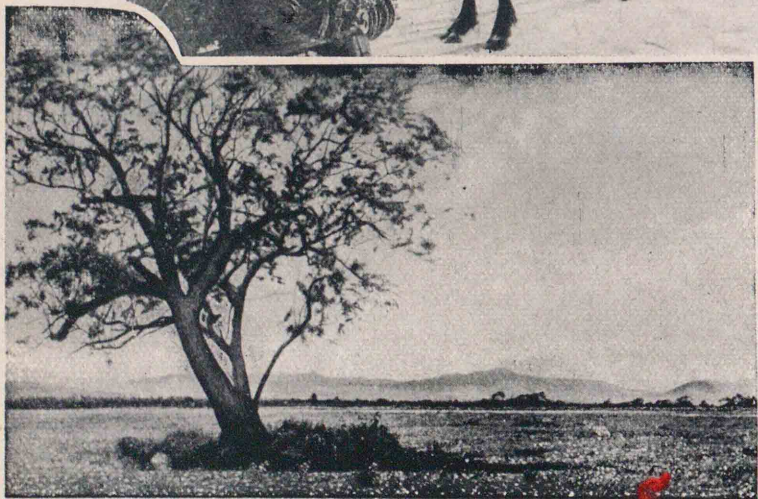
海豹島の臘納
獸とロッペン鳥



馴鹿と橇



鈴谷平野

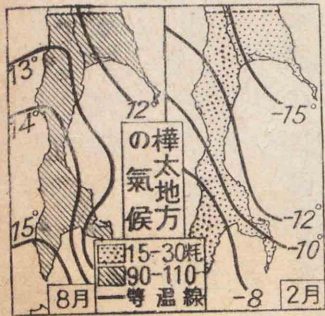


氣候

地形

位置

樺太地方



この部の東には、一條の低地を距てて東北鈴谷の諸山脈があり、圖のやうな三地形區に分けられる。

三 氣候 西岸に對馬海流が流れ、本斗眞岡は不凍港である。東岸は、樺太海流に

(一) 位置 我が國の最北部で、日露戰爭の結果、我が領有となつた處である。

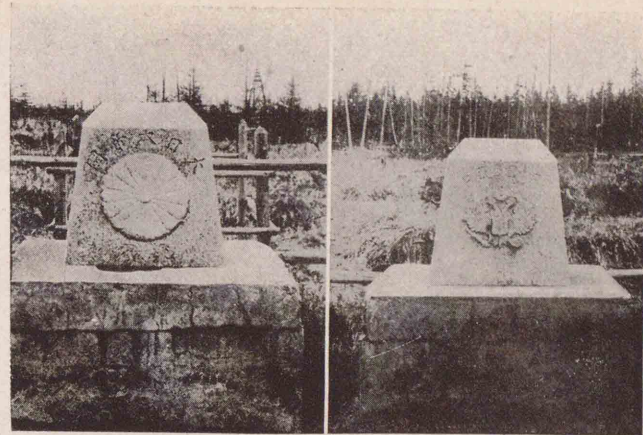
(二) 地形 西部には樺太山脈が連なり、其の西に那須火山脈の噴出がある。



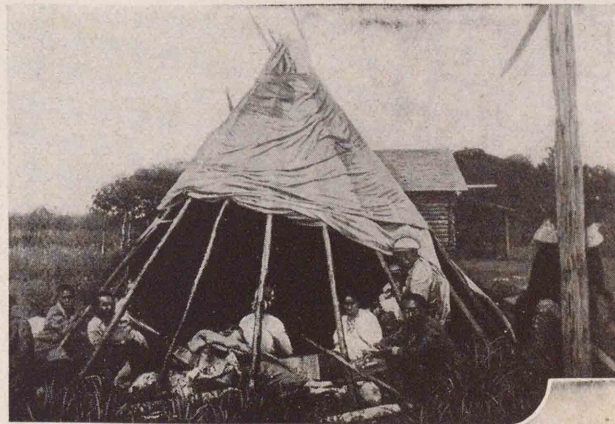
第十一章 樺太地方

美、〇六方軒
三萬人、九人

一 自然



日露境界標



ニクブン族



甜菜の畑



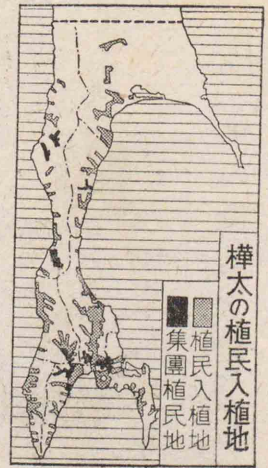
鯨の大漁

洗はれ敷香は我が國の最寒地年平均〇二度をなし、大泊では冬季に碎氷設備の汽船により交通する。

二 産 業

鑛業

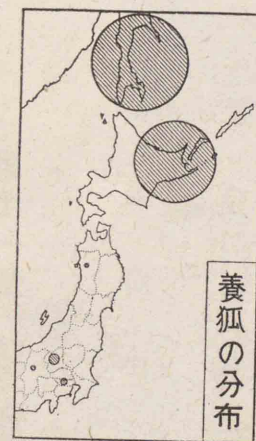
石炭の埋藏が多く川上塔路惠須取知取泊居内幌等の炭坑は非常の活氣を呈し、尙多くの封鎖炭田を有する。内幌では石



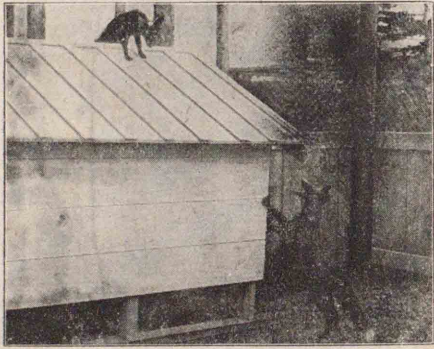
炭液化が行はれ、石油は今試掘中である。

農業

農作物に、豆類、麥類、馬鈴薯がある。原野が廣く、牧草が繁茂してゐるから、牧畜が有望で、又養狐業も盛になつた。



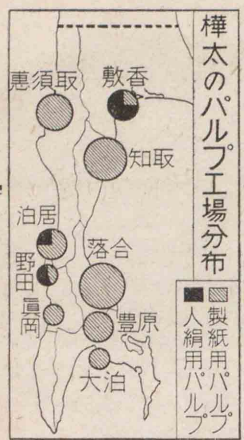
- 養狐 養狐は ①氣候寒冷 ②濕氣はあ
るが雨雪少く ③風静か ④高燥 ⑤
土地に硫黄又は石灰質なく ⑥針葉潤葉
混合林があり ⑦清らかな淡水が湧き
⑧周圍が静かで ⑨魚の多い地に適する。
樺太はこの條件に合し、大正四年柵飼を始
めてから次第に發達し、今は農家の副業と
までならうとしてゐる。



養狐 樺太では非常に
養狐 樺太では非常に

林業

樺太の最大富源をなし、漁期には、内地漁民が渡來する。 鮭



水産業

本島の最大富源をなし、漁期には、内地漁民が渡來する。 鮭

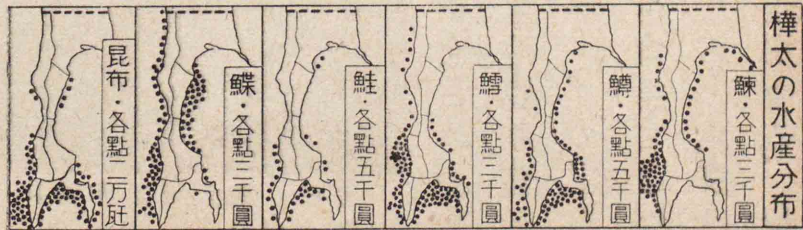
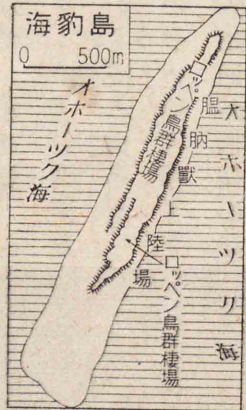


楢松・蝦夷松材の流送 (幌内川)

は西海岸に、鮭、鱈、鱒、蟹、昆布は南部に、鰈は東西の両海岸に多い。

鯨は平素は散遊して居るが産卵期が近づくと群遊し、二月頃から陸岸に近づく。四月頃になつて鯨曇りの暗夜になると、大擧して岸に押し寄せ、海水は白子のため白堊色になることがある。この時は大漁のため、海岸は戦場のやうになる。近時濫獲等のため不漁となつた。

海豹島は臘肭獸の繁殖地で、年々夏季には三萬餘頭が上陸して、偉觀を呈する。又遠淵湖の水草で寒天を製する。



陸運
水運

住民
政治

豊榮	豊原市
大泊	大泊町
本斗	本斗町
眞岡	眞岡町
泊居	泊居町
元泊	元泊町
敷香	敷香町

(一) 陸運 東海岸線・西海岸線・豊眞線等がある。

(二) 水運 北海道との間に稚泊・稚斗の連絡船を通じる。大泊・眞岡は開港で、多く小樽と取引する。

三 交通 商業

四 住民 政治

(一) 住民 概して奥羽地方からの移住民が多く、土人は總數二千人で、アイヌ・ニクブン・オロコノの諸族に分れる。

(二) 政治 樺太廳の下に、七支廳があつて全島を治める。

五 處誌

中央低地
南部
中央低地
北部
西樺太



樺太地方
中央低地南部 大泊は本島の南門で、木材・水産物を集散し、豊原^{三三}市は本島の中心で、^{二四}落合は、パルプ工業地である。
中央低地北部 知取^{一八}・敷香^{二三}等の漁港・パルプ工業地がある。
西樺太 漁林業採炭業地域で、^{二六}惠須取泊^{二二}・居真岡塔路^{一九}はこれによつて發達してゐる。本斗^{二一}はこの地帯の南門である。

六 生活 特性

(一) 産業は漁業に始り、次に林業に移り、更にパルプ工業が起つた。漁業・林業の次には鑛業が起つたが、樺太廳は今大部の炭田を封鎖してゐる。漁林鑛業の^{リキケン}奪掠經濟の後には、農牧業が起る順序であるが、まだ樺太には餘り發達してゐない。
(二) 將來、住民は農牧林漁鑛に涉る多角的生業を營むと共に、豊かな原始産業を元とする工業化を圖らなければならぬ。

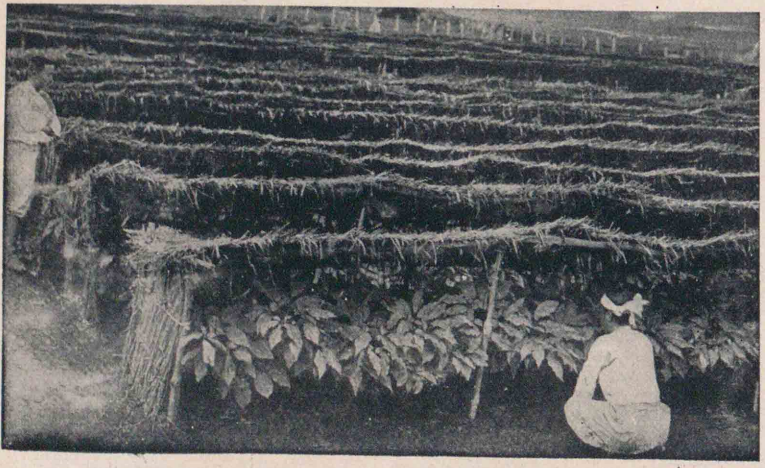
北鮮の造林



木浦港の棉花積出



開城の人蔘畑



位置

地形

慶尙南道	釜山府	慶尙北道	大邱府	全羅南道	光州府	全羅北道	全州府	忠清南道	大田府	忠清北道	清州府	京畿道	京城府	江原道	春川府	黄海道	海州府	平安南道	平壤府	平安北道	新義州府	咸鏡南道	咸興府	咸鏡北道	清津府
------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	------	------	------	-----	------	-----

朝鮮地方

第十二章 朝鮮地方

三〇、五九方籽
二、三九〇萬人「一〇四人

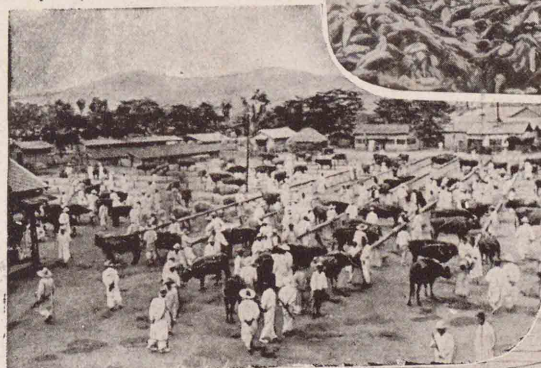
一 自然

(一) 位置 内地大陸間の半島で、古くから内地と関係が深く、邦人が大陸に發展する廊下として重要である。行政上、十三道に分れてゐる。

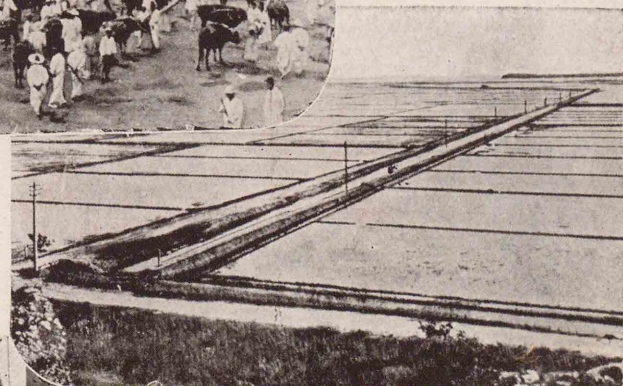
(二) 地形 北部には狼林、咸鏡、妙香、馬息嶺等の高い山脈が連なり、龍王潭を頂く白頭山が聳え、其の南部は熔岩臺地となつてゐる。南部には太白、車嶺、小白等の低い山脈があり、太白山脈中には金剛山の



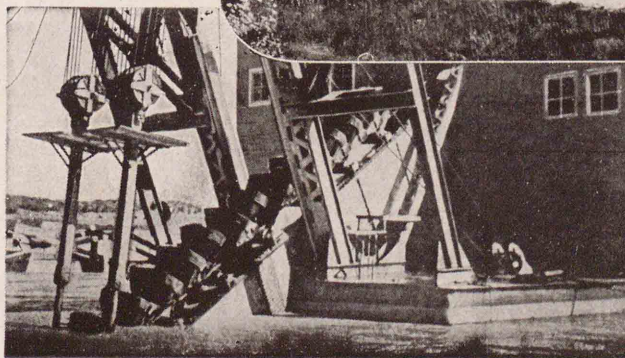
京城の牛市



石首魚の陸揚



砂金の採收



朝鮮西南部の干拓地

ので中止し、力を棉花の増産に注いでゐる。

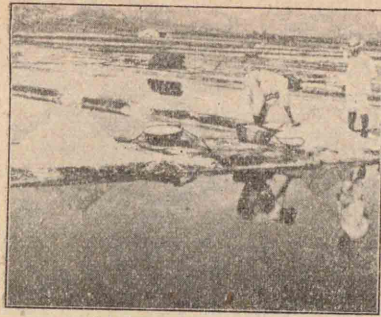
漁業は中國九州方面の内地人により開發され、南岸に鱈・鯖・鰈、東岸に明太魚・鯨、西岸に石首魚が漁獲され、鱈油・同搾粕・乾海苔・魚粉等の水産製造物が多い。製鹽は、朱安に盛である。

(二) 北鮮 鑛産に富み、雲山・大楡洞・成興等に金、茂山・利原・載寧等に鐵、長興に黑鉛の産がある。

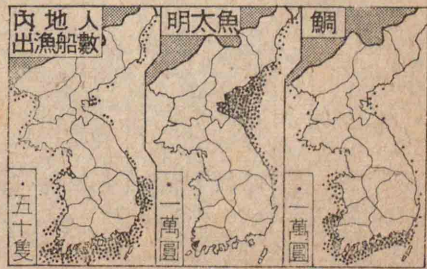
寺洞の無煙炭は徳山の燃料廠に送られる。今尙未開發の鑛山が多く、鑛業は、將來この地方に於ける重要産業の一となるであらう。米は南鮮に劣るが、粟・稗・大豆・馬鈴薯・苹果・人蔘等は多い。

朝鮮人蔘は開城一帯が中心栽培地で、九十月頃收穫すると總督府で買ひ上げ、不合格品を白蔘に他を紅蔘に製し專賣する。

北鮮



廣梁灣の鹽田



中華民國に需要が多い。

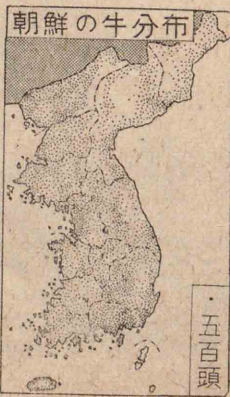
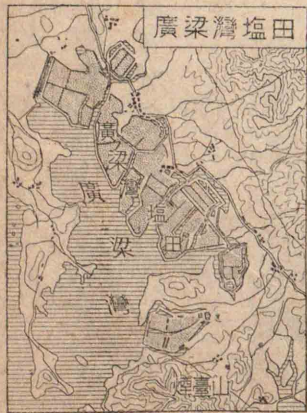
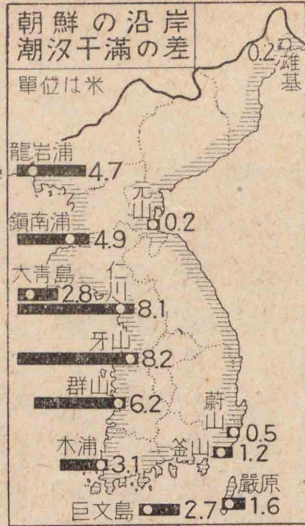
牧牛は盛で、毎戸一頭乃至四十頭を有し、内地に多くの生牛・牛皮を供給する。林業は、鑛産と共に二大富源で、鴨綠豆

滿の河谷では、紅松・唐檜・落葉松を伐採し、新義州・城津で盛に製材する。

朝鮮の林野は總面積千五、六百萬町歩に及ぶ。しかし其の内森林は五、六百萬町歩で、一千萬町歩は、役に立たない

い荒山である。總督府は林政の革新を圖り、無主公山を整理・植林してゐる。

水産には東岸に鱈・明太魚が多く、潮汐干満の差が大で、雨の少い西岸の廣梁灣に鹽を産する。



農業：米・棉・大麥・小麥・馬鈴薯・粟・稷・煙草・梨・苹果・繭・人蔘
 牧畜：牛・馬・豚・雞
 林業：紅松・唐檜・落葉松
 水産業：鱈・明太魚・石首魚・鯛・鯖・食鹽
 鑛業：金・石炭・鐵・鉛・鋅・明礬・礬石・マグネサイト

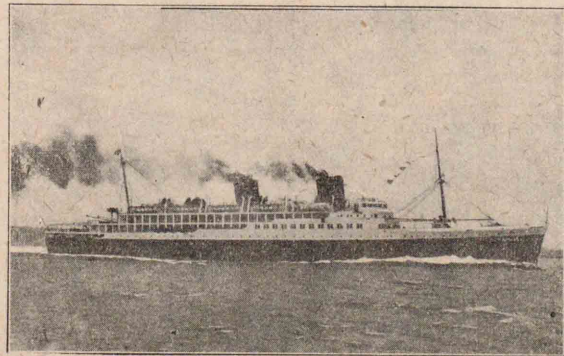
三 交通 商業

陸運

(一) 陸運 從來の轎カマが自動車に代り、又京釜・京義・京元・咸鏡・湖南・全羅・圖們・東海等の鐵道が備はつた。

水運

(二) 水運 内地との交通は、主に關釜連絡船による。北鮮諸港は近時日滿連絡上重要となつた。鴨綠江・大同江・漢江は何れも汽船を通じ、冬はよい橈道ソリ道となる。



關釜連絡船

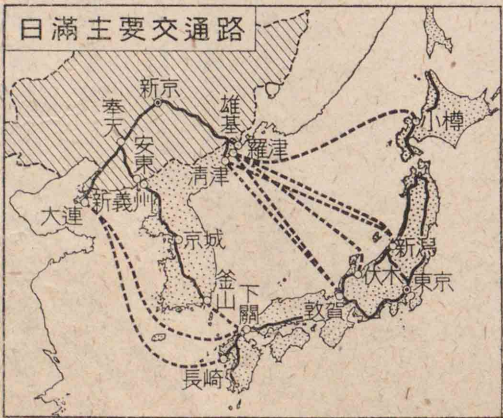
空運

(三) 空運 航空路は福岡・大邱・京城・平壤・新義州を連ねて大連に達する。又新義州・奉天間、京城・清津間、琿春・清津間にも開かれてゐる。

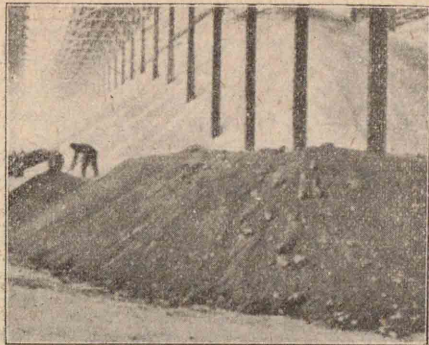
四 工業

工業

(一) 工業 織物・釀造・陶磁器等、從來より行はれた各地の小規模工業は、次第に大規模となり、米産の増加と共に、粃摺・精米の業は各都市に盛となつた。特に内地資本の進出によつて、釜山・木浦・京城等に紡績、京城・大邱・全州・光州に製絲、兼二浦ニウに製鐵、勝湖里平南・古茂山(咸北)にセメント、城津・新義州・吉州(咸北)にパルプ・製材、平壤・仁川に製粉、沿岸各港に水産製造が興つた。



北鮮は地形が大發電に適すること、諸種の鑛産に恵まれてゐること等の原因により、大工業地化しようとしてゐる。既に赴戦江の上流には周圍八十軒の人造湖を作り、其の水を日本海斜面に出し、十八萬キロワットの發電をなし、長津湖の上流には周圍約百二十軒の人造湖を作り、三十三萬五千キロワット（一部未成）の發電をなしてゐる。これ等の電力は



興南の硫安工場

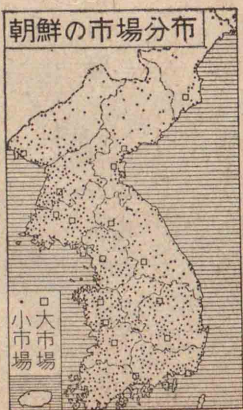
北鮮各地に送り、各地に工業を興してゐるが、特に左の工業は著しく注目せられてゐる。

- (イ) 興南・咸・南 || 硫安・マグネシウム。
 - (ロ) 本宮・咸・興・南の中間 || 石灰・窒素・苛性曹達。
 - (ハ) 永安・咸・北 || 石炭の低温乾溜重油。
 - (ニ) 灰岩・咸・北 || 附近の阿吾地炭坑埋藏量一億噸の石炭を原料とする石炭の直接液化による重油。
- 尙近時、虚川江の發電も計畫せられてゐる。

商業

(一) 商業 大都市以外は、常設の商店

が少く、所々に定期市が開かれる。取引は内地が主で、滿支米・英がこれに次ぐ。貿易港に、釜山・仁川・鎮南浦・群山・新義州・龍巖浦・木浦・元山・城津・清津・羅津・雄基がある。



五 住民 政治

住民

(一) 住民 大部を占める朝鮮民族は、よく内鮮一體の實を擧げ、内地人は五十萬人に及んでゐる。

政治

(二) 政治 總督は政務を、朝鮮軍司令官は軍事を統べ、十三道に知事が置かれ、道の下に、府・郡・島がある。

六 處 誌

朝鮮 慶尙南道 釜山府は半島南門の商工漁業都市である。馬山府は漁港で、醸造業に著れ、鎮海は海軍の要港である。慶尙北道 慶州は新羅の舊都大邱府は盛な定期市場で、工業も行はれる。

全羅南道 米棉(米國種移植)

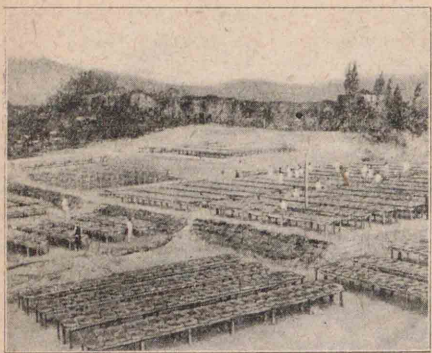


慶州の佛國寺
新羅建築の粹である



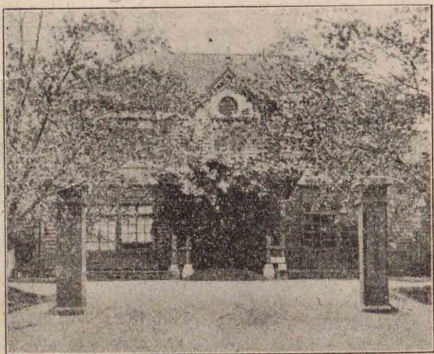
朝鮮の棉花畑

の大産地で、内地人の農家が多い。木浦府は棉水産物の積出港で、又精米業地である。光州府は農産の中心で、紡績製絲業が起り、麗水は下關との連絡港である。全羅北道 全州府 裡里は、湖南平野の中心で、群山府は、米の積出港である。忠清南道 大田府は交通の要地である。忠清北道 清州は勝地、忠州は米、煙草の集散地である。



開城の人蔘乾燥

京畿道 水原には農事試験場があり、京城府は、全半島の政治學術經濟軍事交通の中心である。仁川府は對支取引が多く、諸種の工業が行はれ、開城府には人蔘の特産がある。江原道 春川には、素戔嗚尊の遺蹟といはれる牛頭山があり、長



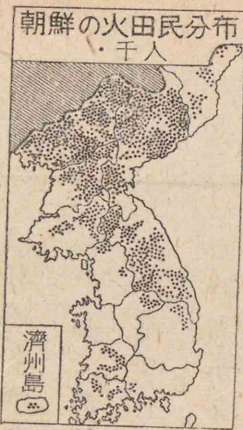
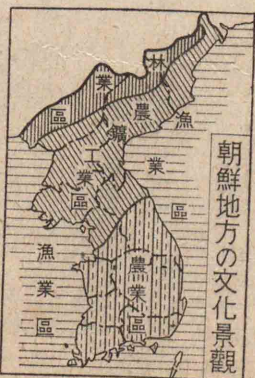
水原の農事試験場

箭は漁港である。北鮮 黄海道 載寧、殷栗、遂安(金兼二浦製鐵所)等、鑛業地が多く、海州府は商業の中心である。平安南道 古都平壤府は工業市、寺洞は炭坑地、鎮南浦府は鐵石炭の積出港である。平安北道 山地は金産が多く、又森林が廣い。中江鎮は流筏の起點で、新義州府は、製材、精米、製紙業地である。咸鏡南道 元山府は開

港場・漁港で、精米醸造も行はれ、咸興府は農産物市場である。赴
 戦江の發電により、興南には窒素工業が興つてゐる。咸鏡北道
 日滿交通の要衝で、羅津府を始め、雄基、清津府魚類魚油魚肥魚粉、城
 津製材は日滿の連絡港である。會寧は國境の要地である。

七 生活 特性

(一) 南鮮・北鮮によつて、情勢を異にし、北部は鑛・農・林・工業地區、南部は農業地區である。



全人口の七割は農民で、密度は南鮮に多く、農民は小作農が大部で、北朝鮮には火田民もゐる。
 (二) 内地・大陸間の通路となるばかりでなく、將來は益、内地に不足した資源の生産を圖り、經濟上に於ても内鮮一體の實を擧げなくてはならない。

第十三章 關東州地方

三、四二万平方
 二、二萬人 一、三四人

一 自然

位置

(一) 位置 日露戰役によつて、ロシアの租借權を受けついで地で、渤海灣の喉元、滿洲國の門戸に當り、我が大陸發展の生長尖端である。

地形

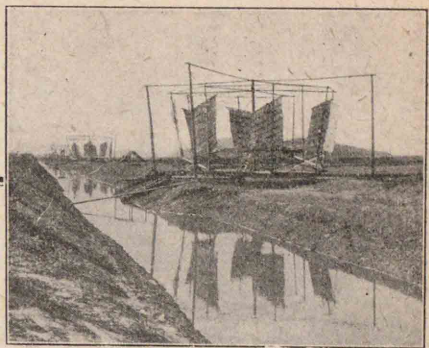
(二) 地形 域内には丘陵性の本幹山脈が連なり、金州・大連二灣が彎入して複雑な海岸線をなしてゐる。

氣候

(三) 氣候 寒暑の差が甚だしく、雨量は夏季に多い。

二 原始産業

土地は瘠せてゐるが、住民は勤勉で、よく土地を耕し、玉蜀黍、



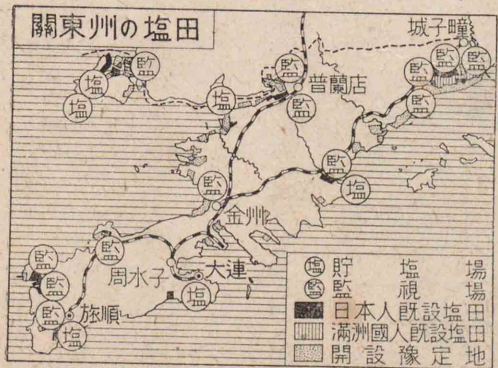
關東州の鹽田
潮汲用の風車

粟高粱を輪作し、落花生も多く作られ、都市附近には蔬菜栽培、村落には養蠶が行はれる。尙州廳の奨励により米、棉、果樹の栽培、森林の培養、牧畜業等が起りつゝある。近海は石首魚、鱒、鱒の漁利が多く、貔子窩、普蘭店、雙島灣には天日製鹽が盛である。

關東州の製鹽

約七十年前に

始められ、ロシアの租借當時全く衰へたが、我が治下に入つてから盛となり、現在の鹽田は領有當初の七倍に達してゐる。製鹽時期は五、六の二ヶ月が最も盛で、この間に總製鹽額の六、七割を作る。多く内地に移出して、漁業、曹達工業用に用ひられる。



交通

工業

商業

住民

三 交通 工業 商業

一 交通 大連は内外に航路を開き、連京線を以て滿洲國と連絡してゐる。航空路は内地、滿洲國、北支に通じる。

二 工業 滿洲國に原料を仰ぐ豆粕、豆油の製造が最も多く、尙綿絲、硝子、セメント、麻袋、硫安の製造が多い。

三 商業 大連は州内第一の商港で、滿洲國の門戸をなし、同國貿易の大部を行ふ。仲繼貿易港となり、自由港制をしかれ、日滿支三國關係の緊密化と共に、益、發展の形勢にある。

四 住民 政治

一 住民 帝國の統治以來、漢族の來住が相次ぎ、人口は百萬（内地人十六萬）を遙に越えた。

(二) 政治 大連に關東州廳、其の下に四民政署(旅順、金州、貔子窩、普蘭店)があつて、新京の駐滿全權大使(關東軍司令官兼任監督)の下に行政が行はれる。

五 處 誌

大連市には、關東州廳、南滿洲鐵道株式會社があり、西郊の沙河口は工業町である。旅順市は海軍要港で、高等法院、工科大学があり、金州は紡績業が盛である。

六 生活 特性

鐵道、航路、空路の集中、要塞的政治市、文明國の威力を現した商工都市の存在、富裕、安全な生活を送る漢族等、何れも強國日本の生長尖端としての特性を現してゐる。



關 東 州 廳
昭和十五年七月二十四日
旅順要塞司令部許可濟

第三編 總 括

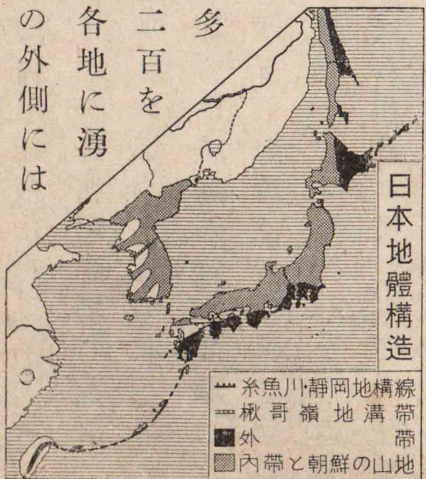
第一章 自然的條件

(一) 地勢 日本列島は三個の弓形を形づくる褶曲弧で、構造上圖



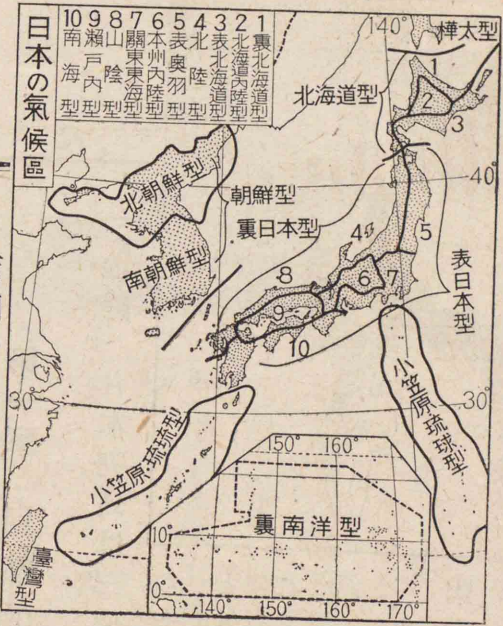
自然的條件

のやうな内帯と外帯とに分れる。列島に沿ふ火山脈が多く、火山の数は二百を算し、又温泉は各地に湧出する。列島の外側には深い海溝、内側には浅い縁海がある。こゝに内外兩側地震帯があつて、屢、大地震が起



一五七

る。朝鮮半島は概して高原性で大平野がない。河は、短く急流をなすものが多く、水害の憂があるが、発電には都合がよい。湖沼は大抵淡水の小湖で、發電養魚等に利用せられる。



り雨期を異にする。季節風の代り目には屢、颱風の害を被ることがある。

(二) 氣候

日本對馬・西朝鮮等の暖流と、千島樺太・リマン等の寒流があり、其の接觸する地方は濃霧が起つて、航海や農作を妨げる。海流位置・地勢の關係上種々の氣候を含み、上圖のやうな氣候型に分けられる。又亞細亞大陸の影響により、夏冬によつて變つた季節風が吹き、従つて列島の内側・外側によ

第二章 人文的特性

第一節 原始産業

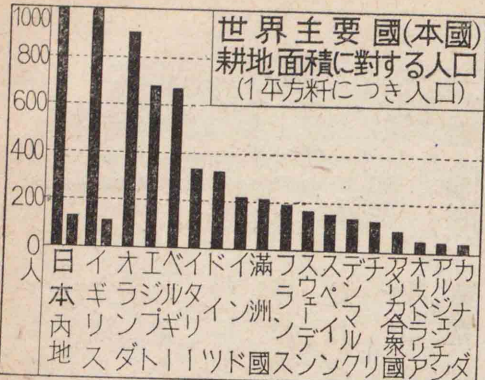
一 農業

我が國は古來農を立國の大本とし、皇室の御獎勵と國民の努力とによつて耕地が開かれ、耕作法を改めたので、農業は急激に進歩した。

(一) 耕地 耕地は土地の傾斜三十度を限度とするから、地形上、面積に比して廣くない。

(二) 農業者 國民の約五割は農民である。然し農家一戸の平均耕地は〇・四ヘクタールに過ぎず、列強に比し頗る少く、又我が國農家一戸の理想耕地面積二・六ヘクタールに比べても、極めて少い。従つて農法は極端に集約的である。

(三) 主要農産物 農産物は總額約三十五億圓で、收穫の



多少は國家經濟に大影響を與へる。我が國の農家は殆ど全力を食糧生産に集中して、偏作の缺點があるから、食糧品の値下りには忽ち不況に苦しむ。故に近時農業の多角的經營の必要が

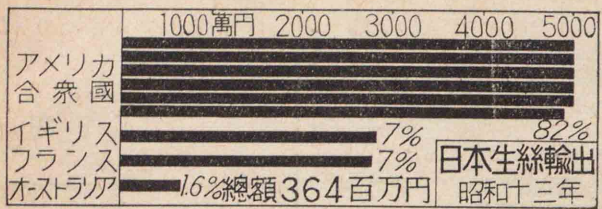
叫ばれ、副業として農村工業振興の聲が高い。

米は年産一億石(内産)で、朝鮮・臺灣からの移入も多く、全國的に見れば自給自足の状態である。故に豊作による米價の下落は直ちに生産者に影響するから、米價の調節が必要である。

麥類は米に次ぐ主食料であるが、其の量は米の四割に足らな

い。大麥は關東・朝鮮に多く、稗麥は中國・四國・九州を主産地とし、共に産額は漸減してゐる。小麥は關東・九州・朝鮮に多い。需要は増すが、國內用は概ね自給し、製粉用小麥は濠洲・カナダから輸入してゐる。

大豆は朝鮮・奥羽・九州に産するが、尙滿洲國よりの輸入が頗る多い。甘藷は臺灣・九州、甘蔗は臺灣が主産地である。



茶は輸出農産物の首位で、静岡縣を最多とし、京都・鹿兒島・三重・宮崎の諸府縣に多く、綠茶を主とし、臺灣では紅茶・烏龍茶・包種茶を多く産する。煙草は栃木・茨城・鹿兒島三縣で、全國産額の半を産するが、尙米國から輸入する額も多い。

二 養蠶業

養蠶は遠く神代から行はれ、一時徳川幕府の儉約主義のため、絹の需要が減じて衰へたが、海外販路が開けてから再び盛になり、今や我が國は世界第一の養蠶國となつた。

桑園は普く全國に互つてゐるが、特に奥羽地方の南部から濃尾平野までの地帯に多い。

繭は總産額三十萬疋、長野縣が第一で、群馬・愛知・埼玉・山梨・茨城・三重・岐阜・福島諸縣がこれに次ぐ。我が生絲産額の大部は輸出され、輸出の大部は米國向である。

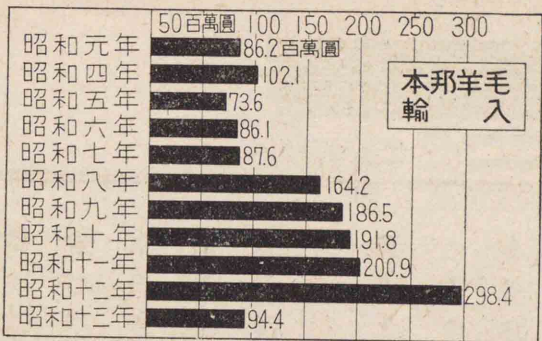
三 牧畜業

我が國の家畜數は頗る少く、米國の百分八に過ぎない。近時國
民生活様式の變化に伴ひ、畜産品の輸入は年々増加する。從
つて「有畜農業」振興の聲が高い。

牧馬は原野の多い東日本と九州に多く、國防上からも増産の要
がある。牧牛は西日本と朝鮮とに行はれ、國民一人當り
搾乳量は米國の百五十分一に過ぎない。然し煉乳は出
超となつた。豚は臺灣と沖繩・鹿兒島とに多く、朝鮮は牧
畜が盛で、牛豚の頭數が内地よりも多い。鶏は愛知・鹿兒
島・千葉・静岡・朝鮮・臺灣に盛で、鶏卵は出超となつた。牧羊
は振はず、従つて羊毛の輸入が必要であるから、將來の自
給のために、滿蒙に牧羊の發展を圖らねばならぬ。

四 林業

森林は、木材・薪炭・樟腦・木蠟・茸類を供する外、氣候・河水を調



節し、土壤を保護し、更に又自然美の一要素をなすものである。

森林は内地總面積の半を占め、木曾・米代・吉野の三流域と青森北
海道・樺太・臺灣・朝鮮とに、大森林があるが、地形が伐採に不便な上、
近年パルプ工業の盛大となるにつれて不足を來し、特に建築用
巨材は、安價につく海外材の輸入が多くなつた。我が國産の木
材は、薪炭としての消費が多く、南洋材を原料としたベニヤ板は、
椎茸と共に輸出が多い。

五 鑛業

鑛産物は種類は多いが産額は少い。

我が國の金産額は近年急増し、主産地は朝鮮地方で、數年前まで
は内地産額の半分位であつたが、現今は略内地同様になつた。
九州・北海道はこれに次ぐ産地である。銀は多く金銅に伴なつ
て産し、純粹の銀坑はない。従つて金銅の産額増加と共に増し、
近時は國內の需要を充たした上、残りは輸出する。銅は大戦前

までは世界第二位の産銅國として多く輸出したが、近時は各種工業の繁榮のため、却つて大量の輸入を見るに至つた。足尾別子・日立・佐賀・關小坂等が主産地である。

鐵の産出は少く、内地に於ては釜石・北海道に僅かに産し、多くは海峽植民地支那・ニューカレドニア等から供給される。近年朝鮮・滿洲國の貧鑛處理に成功し、滿洲國北支の鐵山開發にも著手されてゐる。

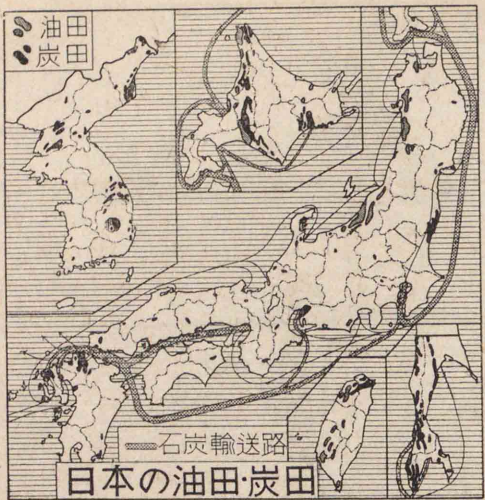
亞鉛は、輸入原鑛を精鍊して略需要を充たしてゐる。鉛錫は大部が輸入で、錫の精鍊は未だ整はず、見立(宮崎)の錫鑛石の如きマレーに送つて精鍊される。

アルミニウムは鐵時代からアルミニウム時代に移つたといはれる程重要な資源となつた。我が國は近時朝鮮から明礬石、北支滿洲國から礬土頁岩、内外南洋からボーキサイトを移輸入して精鍊し、需要の全部を充たすやうになつた。

マグネシウムはアルミニウムよりも軽く、輕合金の重要材料である。滿洲國大石橋附近に産する無盡藏な菱苦土鑛や白雲石を輸入して、各地(直江津宇部)に精鍊事業が起つた。

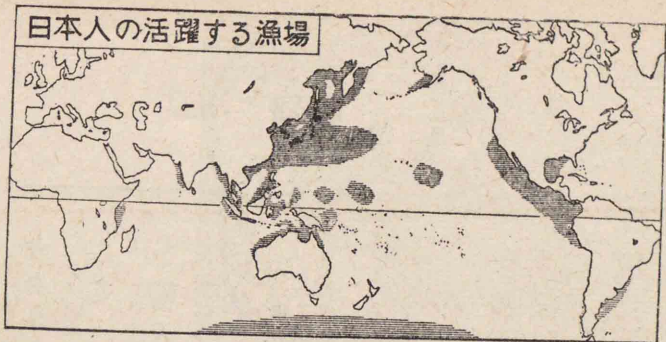
ニッケル 合金原料として重要である。近時我が國は各地にニッケル鑛山が開發せられ、精鍊事業も起つて來た。

石炭は、筑豊・三池・石狩常磐等の炭田で採掘されるが、尙撫順炭・開平炭の輸入が多い。石油は秋田の産出が増して、第一位となり、新潟がこれに次ぐ。國産は、全需要から見れば極めて小額で、アメリカ合衆國からの輸入が多い。近時石炭の液化撫順、低溫乾溜樺太内幌、朝鮮永安によつて人造石油を得、又酒精の混入等により、其の不足を補はうとしてゐる。



日本の油田・炭田

六 水産業



(一) 漁業 廣い陸棚を有し、寒暖二海流があるから、世界屈指の豊漁帯である。漁法は、従来舊式小規模な沿岸漁業であつたが、近年遠洋漁業が勃興した。特にトロール漁業は、黄海、東支那海、南支那海、オーストラリア近海、アラスカ、カリフォルニア近海、メキシコ灣、南アメリカに及び、全世界の海に勢力を延ばしてゐる。捕鯨業の進出も著しく、南極海に向かつて數隻の捕鯨母船が出漁し、ノルウェー、イギリス等の先進國を凌がうとしてゐる。蟹工船は我が國の發明で、汽船に、罐詰用器具、機械を積み、海洋で漁獲した蟹を直ちに船内で製品とする。汽船は三、四千噸で、乗員は漁夫を合して二百五十名位である。例年五月頃函館、小樽、根室等の根據地から、カムチャッカ方面に出で、深さ二〇—七〇米の漁場でタラバ蟹の通路に網を下ろして捕獲するのである。製品は英米に珍重せられ、世界的名聲を博してゐる。

(二) 製鹽 鹽は工業上極めて重要な産物であるが、我が國の如き雨の多い國に於ては、海水から鹽を製することは不利な事業で、生産費がかさむのみならず、混り物が多くて、工業鹽としては甚だ不適當である。しかし政府は食用鹽の自給を保つ必要上、專賣制度を設けて、この業を保護してゐる。鹽の生産は、瀬戸内海に臨む十州鹽田が盛で、臺灣、關東州、朝鮮産の鹽は、不足を告げる工業鹽を補つてゐる。

我が國に急發展を見てゐる人絹硝子工業其の他に、多量に要する曹達は、鹽を原料とする。従つて我が國は世界有數の曹達工業國、鹽需要國で、國內鹽では到底其の需要を充たされないから、北支、滿洲國、南洋北アフリカ、トルコ等から多く輸入してゐる。

第二節 交通

一 陸運

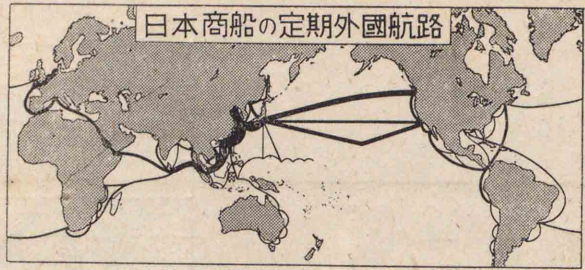
(一) 道路 自然的道路(原始的步道)と人工的道路との二つがあり、後者は特に軍事・經濟・産業上重要である。我が國の道路は、鐵道の發達と共に一時閉却されたが、近年自動車の發達と共に、再び重要となつた。特に市街地に於ては、街路樹が植ゑられ、又公園化されたものもある。

(二) 鐵道 我が國は、鐵道國有主義である。内地の鐵道は、狹軌式(三呎六吋)であるが、朝鮮のものは標準式(四呎八吋半)が多く、次第に高速化されて來た。鐵道總延長は三萬軒に及ぶが、尙敷設を要望する地方が少くない。

二 水運

内陸水路の利用すべきものは無いが、海上交通は頗る盛で、今や世界屈指の海運國となつた。

(一) 海港の種類 軍港・商港・漁港に分れる。軍港は、港として必要な條件を備へる上に、一國攻防の見地から、位置の適當なことを



要する。

商港は、物資取引の船舶が出入するから、海上・陸上の設備は勿論、金融機關の如きものまで遺憾なきを要する。横濱・神戸は其の模範的なものである。

漁港は、漁獲物の處理、漁船の碇泊に便なるを要し、概ね地方的小港で、下關・函館は、其の大きいものである。

(二) 汽船噸數航路 我が國は世界第四位の海運國で、船舶は、日本郵船・大阪商船の二大會社の所屬が多く、横濱・神戸・大阪を起點とし、内外の諸港に定期航路を開き、不定期船も全世界の各地に活躍してゐる。

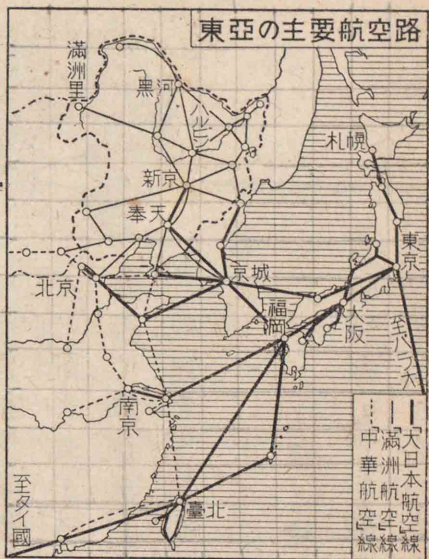
三 空運

(一) 航空機 飛行機と飛行船とに分れ、最短距離を進み得ることと、速力の大きなことが特徴である。

人文的特性

列國の汽船噸數比較
昭和十一年六月末
世界總計 六五七萬噸

關	佛	伊	獨	日	諾	米	英
263	284	317	393	414	435	1179	2040萬噸



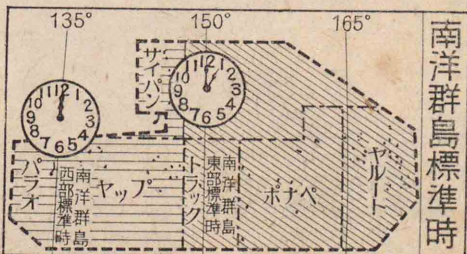
(一) 定期航空路 我が定期航空路は、漸次延長され、東京・大阪・福岡を三大中心として朝鮮・滿洲國・關東州・北海道・臺灣・北支・中支・タイ國にまで達する。

交通と時間 經度十五度を隔てると、一時間の時差がある。しかし我が國及び滿洲國では、一律に東經百三十五度の經線上に太陽が來た時を正午とする。南洋群島では、二つの標準時を用ひる。

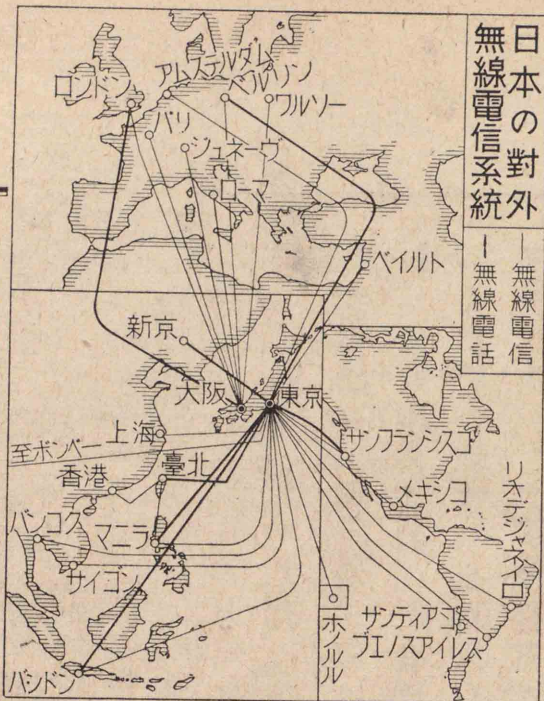
四 通信

(一) 郵便 明治初年に郵便制度を創設し、同十年

萬國郵便聯合に加盟し、現在其の發達は、歐米諸國を凌駕してゐる。急を要するものには飛行郵便がある。



日本の對外無線電信系統



(二) 電信 明治二年、東京・横濱間に初めて電信を通じ、明治十二年には、萬國電信條約に加盟した。

海底電線 は、東京・父島(こゝで米國の太平洋線に續く)間の小笠原線と、長崎・上海(こゝで歐洲線に續く)間の上海線とが、最も利用される。

無線電信 は、近年著しく發達し、東京・大阪の兩局は、海外諸國と通信する。

其の他無線電信局は、各地に近距離通信を目的とする海岸局があつて、船舶との間に通信してゐる。

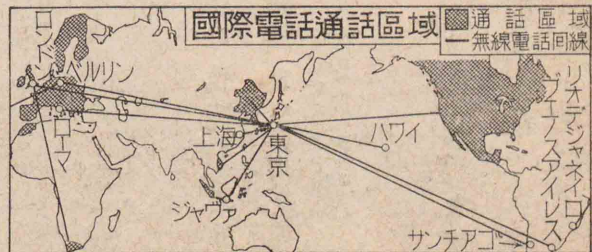
(三) 電話 明治二十三年に創設せられ、有線・無線に分れる。有線電話は著しく發達し、あらゆる方面に利用せられて、生活上に多大の貢獻をなしてゐる。



ラヂオ放送局は、三十數箇所^ノに設けられ、又對外無線電信局もある。
對外無線電話は、現在は内地の局のみ^ニ取扱はれてゐる。通話をするには各地の電話局に申込み、其れから東京電話局につなぎ、ここから外國に通じる。料金は三分間七八十圓で、送信は名崎受信は小室で行ふ。

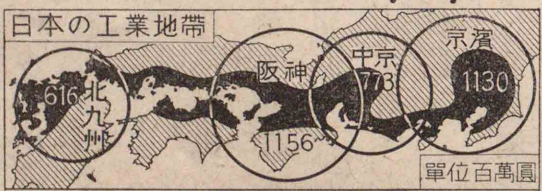
第三節 工業

(一) 我が國と工業 我が國は工業原料が豊かであるとはいへないが、位置の優秀、海運の發達等によつて、不足原料の輸入が出来る上、附近の地は割合に人口の多い好市場であるから、生産品の販路も廣い。動力は豊富な水力電氣を得易く、水力の得難い阪



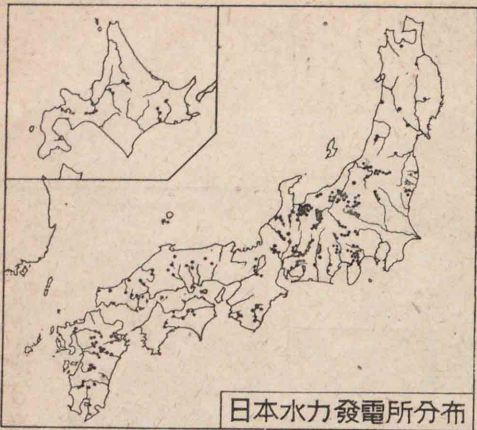
神以西や北九州は石炭に恵まれる。又勞力も中央日本以西は極めて多く、朝鮮から労働者を得る便利もある。加之古來我が國民は手先が器用で、簡素な生活に慣れて勞銀が安く、工業人として優秀である。

(二) 工業地帯 従つて工業は急速に勃興し、製絲紡績、織物、食料品、化學等の輕工業のみならず、近時は製鋼、船舶、車輛、機械器具等の重工業も急速

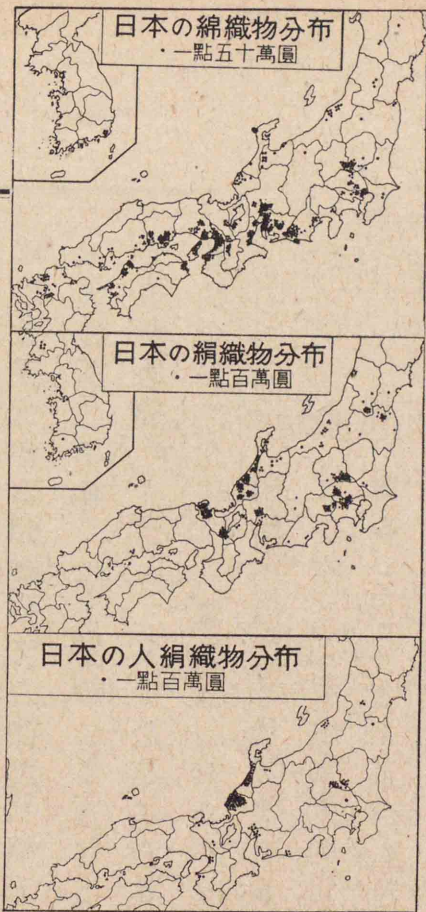


に發達し、京濱・中京・阪神・北九州を四大核心として、之を東西に連ねた一帯が主工業地帯となり、尙各地に新興工業地が起つてゐる。

(三) 發電事業 我が國は世界有數の水力發電量を藏してゐる。従つて、明治二十一年に初めて發電事業を始めてから急速の進歩をなし、



今は米・獨・英・加諸國に次ぐ電量を開發してゐる。そして工業の九割は電力により、其の電力の大部は水力電氣で、火力發電所は水力發電所の豫備となつてゐるに過ぎない。電氣は冬季に需要が多いが、我が國の河川は、この期に減水する憾があるから、發電所は裏日本に設ける傾向が多い。



の綿業國で、綿製品の輸出は、英國を凌いで世界第一である。原料の棉花は、主に米國とインドとから輸入してゐるが、滿洲國及

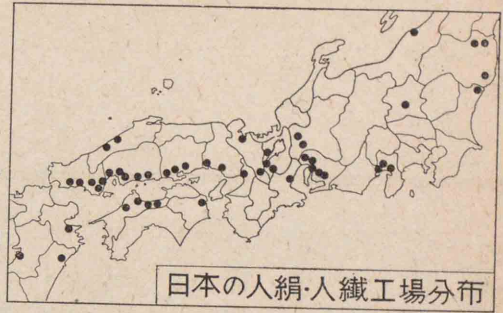
(四) 絹織工業 歴史が古く、美術的の精巧品を生産し、福井・京都・石川・群馬等、中央日本の各地に盛である。

(五) 綿工業 我が國は米國に次ぐ世界第二

び北支で栽培を奨励しつゝある。綿製品の輸出先はインド・南洋・アフリカ・南米其の他全世界に及び、棉花の輸入高と綿製品の輸出高とは大差なく、國民の衣料だけは綿工業の利益で購つてゐる譯である。目下、事變のため、國內向の綿布に人絹・人織を混用させ、棉花の輸入を少くして、綿製品の輸出を極力多くするやうに努力してゐる。

(六) パルプ製紙工業 元富士山麓地方に盛であつたが、原料材の不足を告げると共に、樺太に移動し、更に朝鮮にも盛にならうとしてゐる。紙は文化商品といはれ、國民文化の向上と共に、益多く需要せられ、一人當りの消費高、米國は七十疋、英國及びカナダは各五十疋、獨佛は各二十疋、日本は十四疋で、我が國は益、需要を増加する形勢にあり、原料資源の獲得が必要である。

(七) 人絹・人織工業 京都・愛知・静岡・福井の諸府縣に多い。人絹は外國に於ても、最近二十年間に長足の進歩をしたもので、我が國



は立ち後れであるが、水質の関係で、琵琶湖畔と山陽の海岸とに多い。工場設備機械は却つて新式で、岩國・大津等の工場は世界第一といはれる。我が國の人絹は、綿絲よりも安く生産されるので、諸外國に歓迎され、今や米國と共に世界の首位を争ふ人絹生産國となり、絹織物に混用される量が増加し、生産額の半が外國に輸出されてゐる。人絹に似たものに人織ステイプルファイバ（人造羊毛）がある。主な人絹工場に生産され、羊毛の輸入を防止するために、其の使用を奨励され、今は其の産額は世界第一となつてゐる。

(七) **ゴム工業** 近時急に發達し、米英に次ぎ世界第三位となつた。原料は總べて英領マレー及び蘭領東インドに仰いでゐる。ゴム加工は小工場でも經營せられるから、國民が器用で、賃銀の安い我が國には、大いに發展する可能性がある。製品は従來、靴類が多かつたが、最近ではタイヤ類が増加し、阪神に盛である。近時

人造ゴムの工業化に成功した。

(九) **製鐵工業** 我が國の製鐵事業は近年急に發展し、今は半官半民の日本製鐵會社が殆ど一手に行つてゐる。今後滿洲國・北支・中支の鐵鑛が開發され、且そこにも製鐵事業が起れば我が國としては鐵材の不足の憂は無くなるであらう。

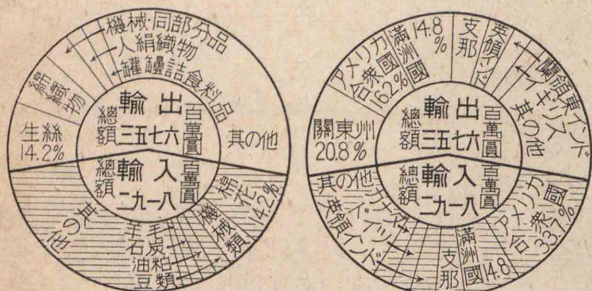
その他 陶磁器・セメント・硝子・硫安等は世界第一で、苛性曹達・酒精等も長足の進歩を遂げ、殆ど自給自足してゐる。機械・船舶・飛行機等、重工業の發達も亦著しく、何れも世界有數の地位に上つてゐる。

第四節 商業

國內商業 我が國內商業は二大商圈に分れ、東京は東日本、大阪は西日本の中心である。近時名古屋の商圈が其の中間に起つて來た。

對外貿易 産物の増加、交通機關の進歩、國威の發揚等につれて、

日本の貿易
(昭和十四年)



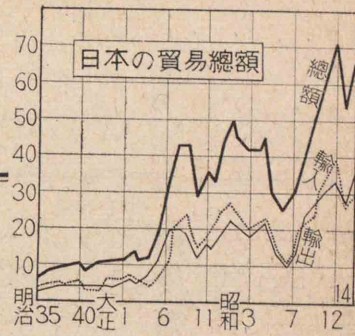
人文的特性

輸出入品 輸出品の主なものは生絲綿織物機械類人絹織物罐頭詰詰食料品木材等である。

輸入品の主なものは棉花機械類豆類油糟石炭羊毛生ゴムパルプ等である。

貿易相手國 我が貿易の相手國は米國を第一とし、滿洲國・關東州・中華民國・英領インド・蘭領東インド等がこれに次ぐ。右の中、中華民國は、我が商品市場としての好條件を具備し、親日中央政權も成立したので、今後これとの貿易は著しく増大するであらう。しかし我が貿易中、圓ブロック・滿洲國・關東州・中華民國内の諸國との取引は出超であるが、圓ブロック外の諸國との取引は數倍の入超である。この點は今後大いに改めて、圓ブロック外に出超となるやうに努力する必要がある。

近年圓ブロック以外の諸國は、我が輸出の目覺しい進展を防

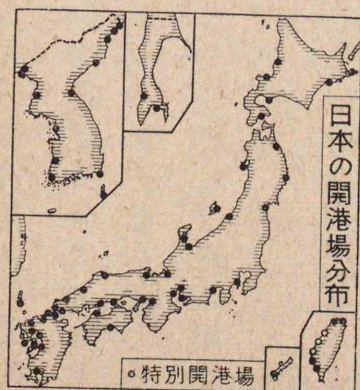


人文的特性

著しく發達した。現今貿易額は、年輸出約三十五億圓、輸入三十億圓、合計六十五億圓で、其の發展は各國羨望の的である。

我が國貿易發展の原因を考察すると、日本品が良質・安價であることが根本原因である。更に安價である原因は、爲替安と賃銀安とで、賃銀安の原因は、國民の生活様式が簡素であるからである。日本品が良質であるのは、國民が勤勉で器用であること、及び我が工業が最新の發達にかかっているので、設備が斬新で、能率を上げてゐることが大きな原因である。

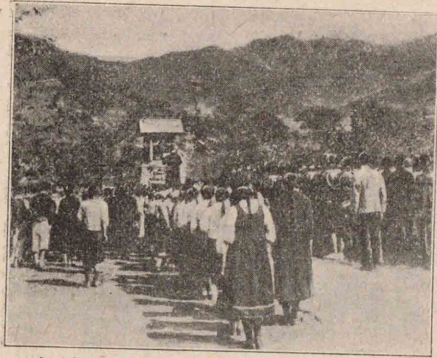
開港は横濱・神戸・大阪の外、内地に三十
六港、樺太に二港、臺灣に七港、朝鮮に十
二港、南洋に五港、關東州に二港あるが、
貿易額の八三割以上は横濱・神戸・大阪
で取引される。



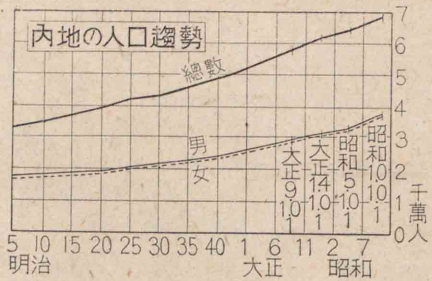
止するため、關稅を高めたり、或は求償主義自國品を買つてくれる高に應じて、其の國の商品を買ふこと等を唱へてゐる。我が國の原料輸入先が、必ずしも我が製品のよい販路となつてゐないし、我が國産品を買ひ入れる國が、必ずしも我が原料輸入先ではない。これを調節して、我が貿易の圓ブロック以外への發展と永續性とを圖ることは、目下の急務である。

第五節 住民

- (一) 種族 我が國の皇室は國民より先に存在せられ、臣民はこれから分れたもの、又は化を慕つて同化したもので、大和民族と稱せられ、國は一家をなし、君民一體義は君臣で、情は父子の如く、曾て外侮を受けたことがなく、世界の優秀民族である。
- (二) 人口 總數は一億を超え、密度二方呎百四十五



朝鮮半島の兒童の前に



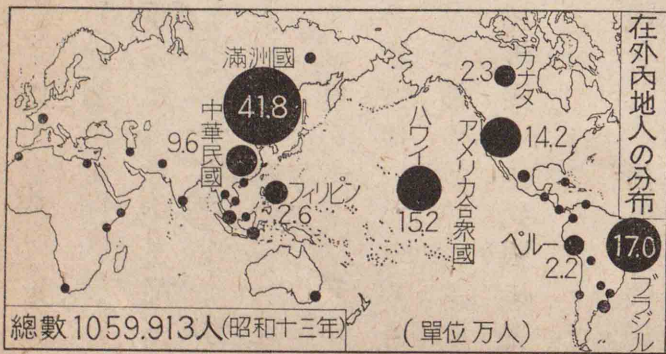
人、内地人口密度は、百八十一人を算し、東京、大阪二府は特に稠密である。男女の割合は略平均してゐる。全版圖の人口増加は、年約百萬人で、人口、食糧、移殖民の考慮が必要である。

人口増加の二要素 人口の増加には、自然的増加(出生が死亡より多い)と、社會的增加(來住者が往住者より多い)との二がある。我が國の自然的増加は、人口一千に對し十五で、列強に比して多い。社會的增加は、樺太、關東州、臺灣等が多い。

内地人の植民(外地にある者)數は約百萬で、移民(外國にある者)數は約百五萬である。近年滿洲國、中華民國への移民が急増した。

(三) 都市 我が國の都市は、城下町として發

人文的特性



達したものが多く、近年、工業の發達につれ、人口が都市に集中する傾向が著しく、東京・大阪・名古屋・京都・神戸・横濱・京城はいづれも世界的都市となつた。従つてこれ等都市住民の住宅を増し、交通を整備し、道路を整へ、都市生活の弊害を少くするやうに努力する必要がある。

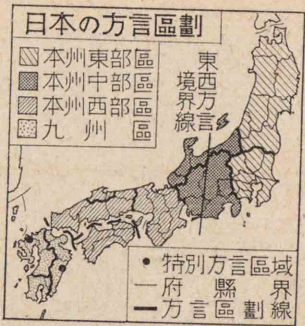
(四) 言語

國語の統一は、國家の統治と密接な關係がある。我が國は徳川時代に關所を設けて交通を不便にしたため、各地特有の方言を生じたが、教育の普及、交通の發達により漸次標準語に統一され、尙朝鮮・臺灣・滿洲國・中華民國に普及しつゝある。

(五) 神社・宗教

神社は、皇室の御先祖を祀り奉る外、國民の祖先・忠臣・賢士の靈を祀り、總數十一萬餘に及び、特に近畿地方に多い。

宗教には神道・佛教・キリスト教等があるが、國民は信教の自由を



有し、佛教が最も廣く行はれる。

(六) 教育

教育の隆替は、一國の消長と密接な關係がある。我が國の國民學校(小學校)は、到る處に設けられて、義務教育を施し、其の普及率は世界屈指である。其の他中等學校、官立・私立の大學、專門學校等は極めてよく備はつてゐる。

第六節 政治

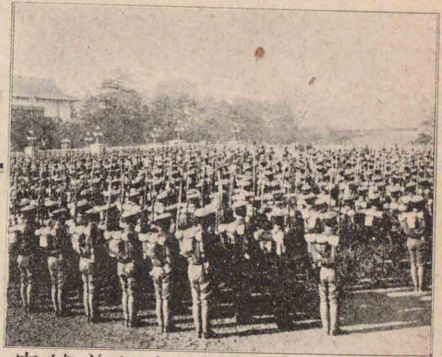
(一) 國體・政體

我が國は皇統連綿、世界絶美の君主國で、天皇は大權を統へ給ひ、其の下に、立法・司法・行政の三機關がある。

外交 條約國は四十餘で、大使・公使を派遣し、要地に總領事・領事を駐在せしめてゐる。滿洲國とは防守同盟、伊・獨兩國とは三國同盟を結んでゐる。

(二) 國防

全國皆兵の制度で、天皇が親しくこれを統率し給ひ、世界に其の精銳を誇つてゐる。陸軍は東部・中部・西部・北部の四



宮城前に於ける十萬精銳の捧銃

軍管區に分れ、別に朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國に各軍司令部を置いてある。
海軍は全國の海岸海面を四海軍區に分つて、各鎮守府がこれを管轄し、又要地に要港が置いてある。
空軍は未だ獨立しないで陸海軍に分屬し、近年特に發達が著しく、其の補助として民間航空事業の振興を望まれてゐる。

(三) 財政 一 財政年度内に、國家が收入し、支出する

金額を歲入・歲出といひ、歲入は、租稅・官業收入・官有財産收入が主で、歲出は、國防費・行政費を主とする。

我が國は近年、滿洲事變・支那事變が起り、國際情勢に應ずるため國債を増募したので、其の額は二百億圓に達した。

第四編 結論

我が國の特性 以上のことをまとめると、大凡次のやうになる。

自然的條件

特性

一、位置的條件
ア、アジア大陸の要部を占める
イ、大陸を制し、又防衛に便
ロ、大陸へ商業的政治的進出に便
ハ、海洋發展・水産業優勢・海軍海運の發展

イ、火山國・地震國・勤勉進取優美の國民性

二、地形的條件
イ、褶曲・斷層地域
ロ、鑛産資源の貧弱
ハ、耕地の過少・集約農業
ニ、農産資源の貧弱・人口過多
六大陸發展の必然性

三、氣候的條件 溫帶季節風帶
イ、米作の發達・資性溫順な米食國民
ロ、黃色人種の國・溫寒熱各地に移民可能

即ち我が國が、世界無比の國家を築き上げたのは、地理學上からも必然の結果であることを知る事が出来る。

我が國の理想 我が國はかくの如く、生成發展の國であり、道義の國である。この道義を中外に施して、八紘を一字の如くし、以て人類の福祉を増進し、無窮に發展を續けるのが我が國家の理想である。そしてこの理想を實現するには、先づ東亞を一字の如き道義世界とし、更にこれをアジアに及ぼし、遂にこれを世界に及ぼさなければならぬ。

世界の現状 然るに歐米各國は、國際道義を辨へず、自國のために他國の犠牲を強ひ、特に有色人種を劣等視して、迫害搾取を行ひ、道義日本の坐視するに忍びないものがある。この時に當り、我が國は先に滿洲國の獨立を迎へてこれと不可分の關係を結び、更に支那事變の戰捷によつて、親日中華民國新政權の成立を迎へ、遂に日滿支相提携し、東亞安定の偉業を完遂する地位を確



日滿一體化 日滿議定書
日滿調印

立することが出来た。この日滿支を結ぶ經濟ブロック内の總人口は五億八千萬を算し、其の藏する資源は極めて豊富であるから、國民の奮起によつてこれを開發すれば、産業貿易の殷賑を來し、國富の増進を見るべきは必至である。然し日滿支のブロック内には、尙ゴム・羊毛・棉・石油を始め、概して熱帶性産物の貧弱な憾がある。これが對策として

今後は外南洋方面にも注意されなくてはならない。
國民の覺悟 たま／＼歐洲には第二次の大戦が起り、獨伊の戰捷によつて、久しく世界各地に勢力を張つた英佛陣營の壊滅を見ようとする情勢となつた。そして世界新秩序建設を目標とする日獨伊三國同盟が締結せられ、東洋に於ては我が國を指導者とする大東亞共榮圈の結成が著々と進行しつゝ、あつて、既に佛領インド支那には我が軍の平和的進駐を見、蘭領東インドに

も經濟的進出が期待されるに至つた。この際に當り、我が實業家たるものは、其の從事する業がこの新東亞ブロック共榮の成果を擧げ、延いては富國強兵の根源となる所以を深く認識し、國策の線に沿つて其の本分をつくし、以て邦家の重大時局に處するの覺悟がなくてはならない。

ももやそのくにおやぐにもとつ國

すめらみくにはたふときろかも

(本居宣長)

郷土地理の研究

郷土地理の研究は、郷土を正しく理解して郷土愛の念を深くさせ、延いては愛國心を鼓舞させ、又他の地方の地理を學ぶ助となり、地理學習上大きな役目を持つてゐる。これが研究の方法は、先づ自分の住んでゐる家の研究から始め、それから學校とか其の附近とかを調べ、進んで自己の住む市町村、又は府縣等に及ぶべきである。今其の研究の着眼點を次に記さう。

一、家の地理

家の位置 自分の家はどんな地勢の處にあるか。隣地との高低の差はどうか。日當り風通しはどうか。周圍は田か畑か、他の家と接してゐるか。交通線との關係はどうか。前面の道路は舗装してあるか、土石道か、街路樹があるか、それは何の木か。

家の周囲の見取圖(平面圖・斷面圖)を描け。

家の構造 家はどんな材料か。板壁か、土壁か、どんな色か。屋根の形や材料。棟數と其の配置。周囲には垣があるか、溝があるか。垣はどんな材料か。家の間取はどうか。どの室には何處まで何時間日光が射し込むか、夏と冬とでそれがどう變るか。便所や井戸の位置。家の間取の見取圖を描け。

家の環境 周囲にどんな動植物があるか。季節によつて風はどの方向から吹き、積つた雪は何處が早く解けて何處が遅くまで残るか。家から眺め得る周囲の風景をスケッチせよ。

二、學校の地理 家の地理に準じて考察せよ。

三、市町村及び府縣等の地理

郷土の位置及び地勢 大體の經緯度、首府から見た方向・距離。地勢上から見た位置。水との關係即ち河・湖・海岸への距離、飲料水の所在。灌漑及び工業用水の状態。地下水の狀況等。

地面の利用 田・畑・森林等の廣さの割合。作物はどんなもので年中どのやうに耕作されてゐるか、二毛作か三毛作か。建築物はどんなに分布し、二階・三階等がどの位あるか。公園の位置廣さ。何にも利用しない空地があるか。

氣候 氣溫・雨量について、少くとも一年間觀測を續けて、其の統計をとること。

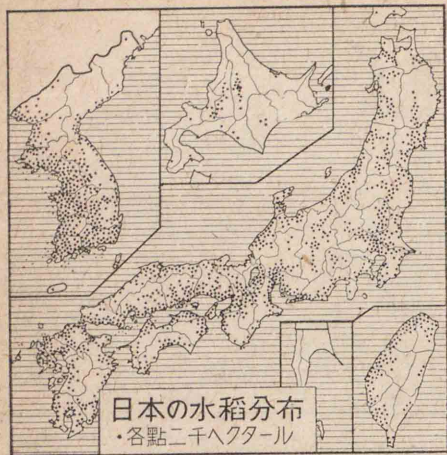
交通線 道路・鐵道・水路等の所在・方向・構造等。どの程度に利用されてゐるか。交通の不便な處はないか、如何に改良すればよいか。

聚落の形 外形と街路の様式。商業區・工業區・住宅區・官衙區・農業區・漁業區等の別。家の高さの分布。

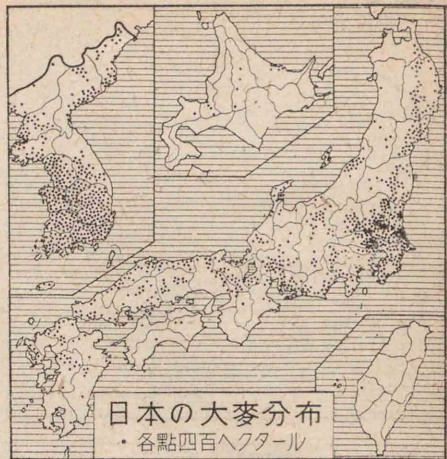
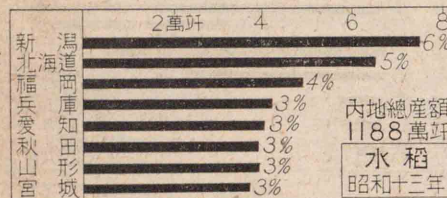
人口 總數、職業別・年齢別・男女別・出生地別の數。出生・死亡・出寄・留入寄留の數、増加又は減少の割合。人口密度。

經濟形態 住民の職業。生産力。主な物産。農業については

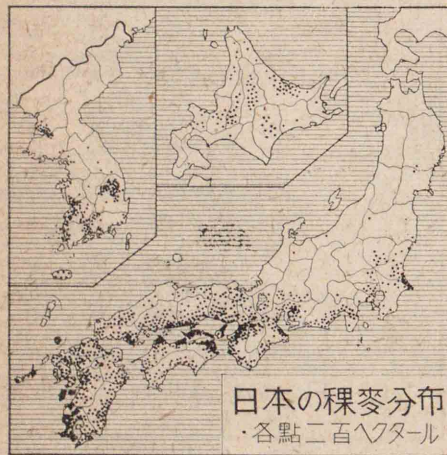
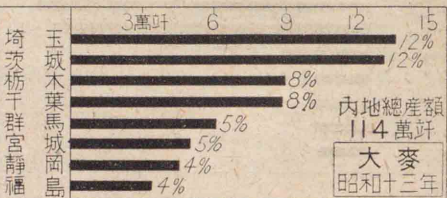
農 産 物



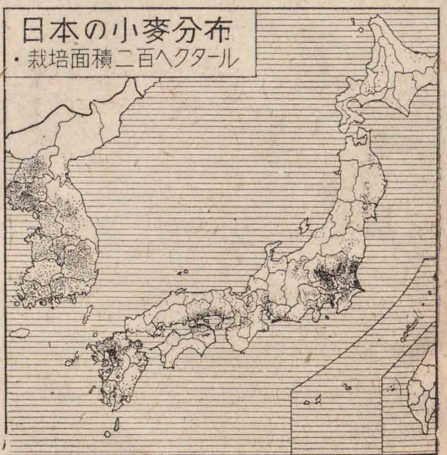
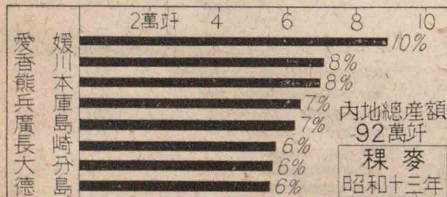
日本の水稻分布
・各點二千ヘクタール



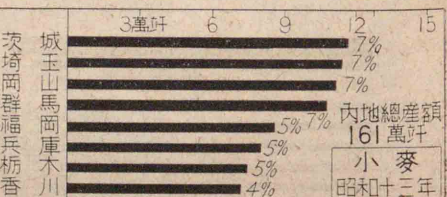
日本の大麦分布
・各點四百ヘクタール



日本の小麦分布
・各點二百ヘクタール



日本の蕎麦分布
・栽培面積二百ヘクタール



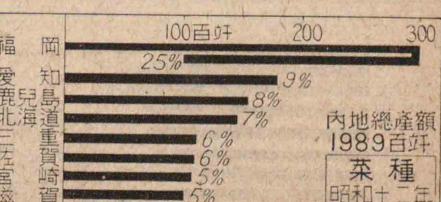
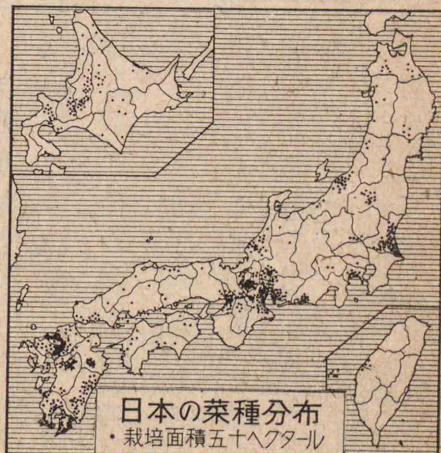
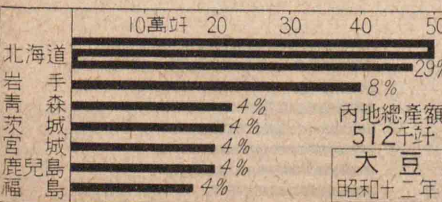
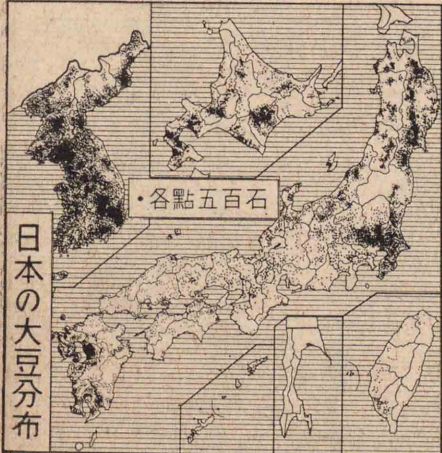
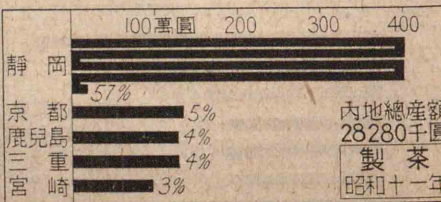
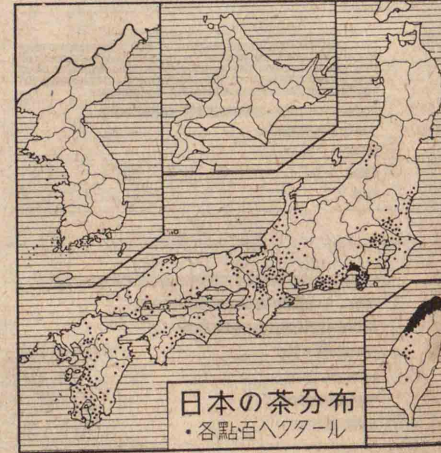
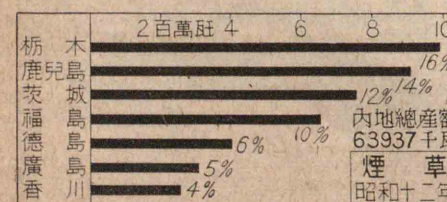
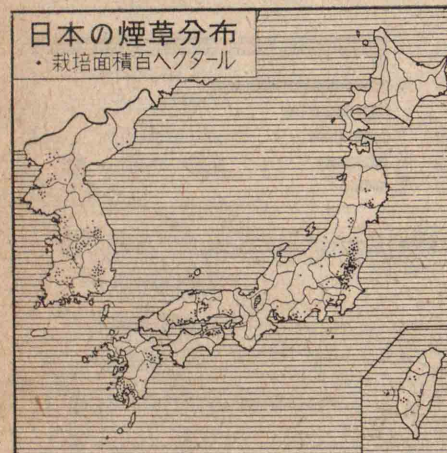
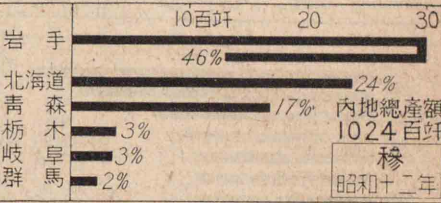
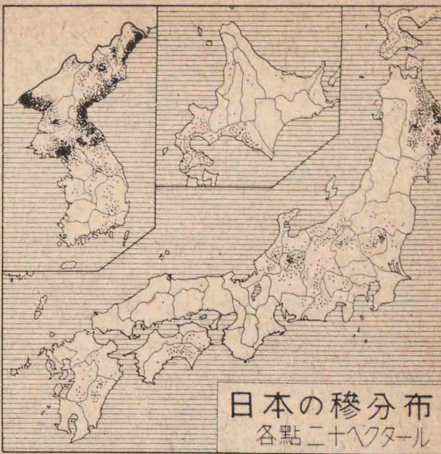
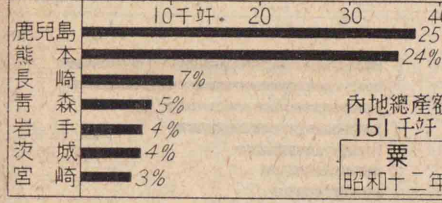
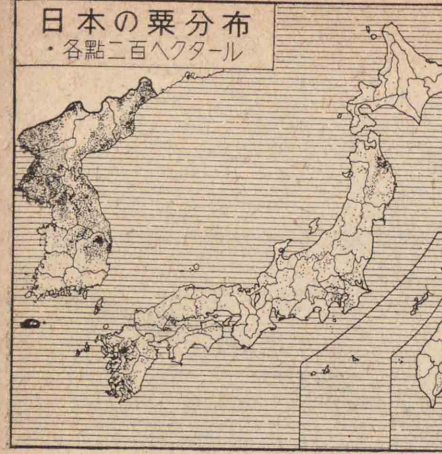
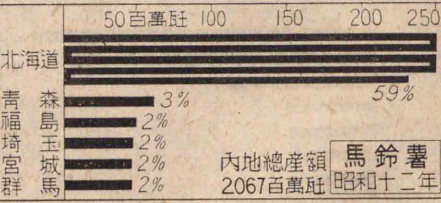
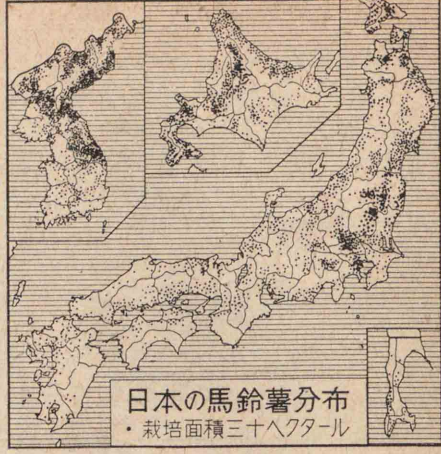
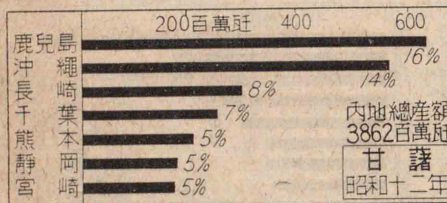
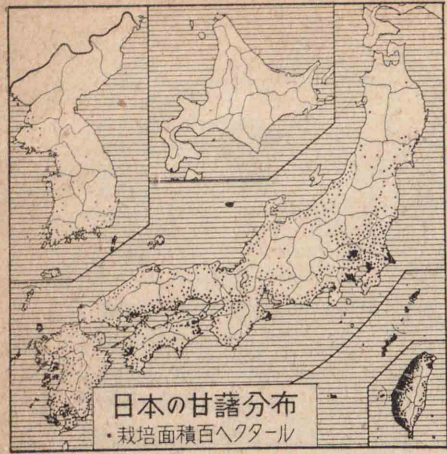
附録 日本地理統計表

郷土地理の研究

耕地面積、主要作物、肥料、灌漑用水、作物の輪轉、温室、温床、農繁期と農閑期、副業の状況等。 漁業については漁場の位置、漁船の數、漁獲の方法、主な漁獲物、水産製造の模様、販路、輸送の方法等。 工業については其の種類、従業人員、原料の産地、製品の販路、動力は何處から取寄せるか、労働者の男女年齢別、出身地、通勤方法等。 商業については其の種類、品物の仕入先、販賣先、運搬方法、同業者の數と其の分布状態、市日縁、日夜店の模様等。

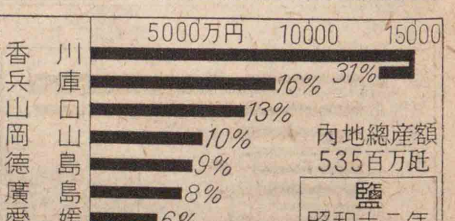
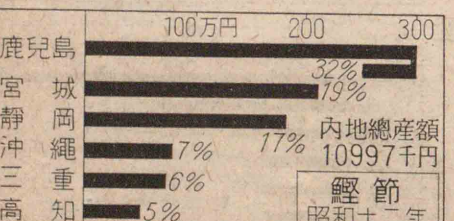
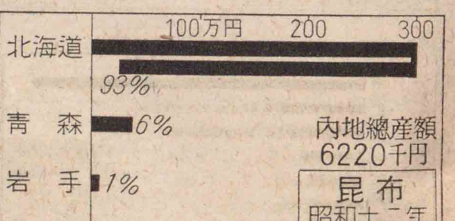
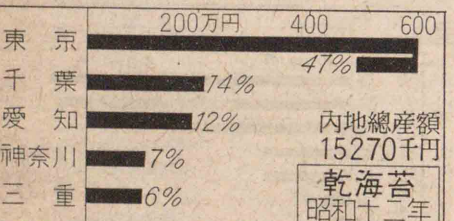
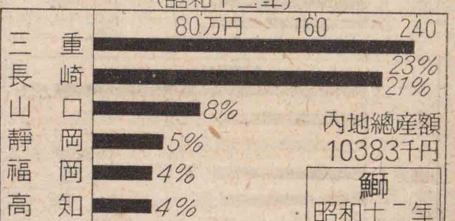
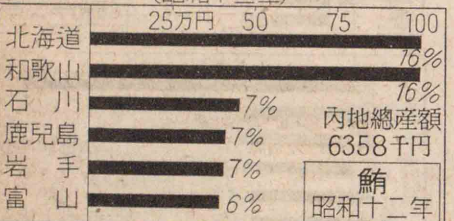
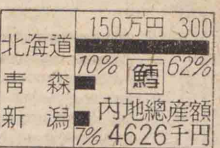
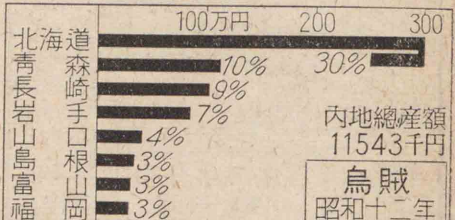
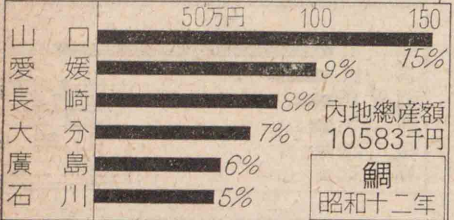
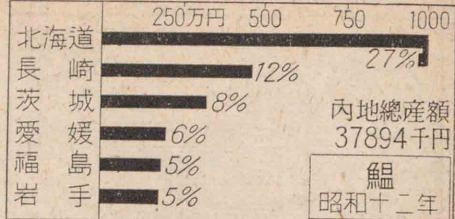
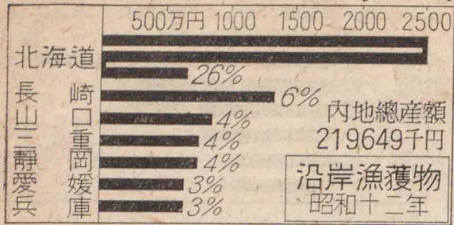
生活 衣服の材料形式、それは男女職業年齢季節等によつて如何に變化するか。 食物や住居について特異の點はないか。 水、燃料、煖房の方法、照明等。 風俗習慣。 一年中の行事を詳しく記録せよ。 宗教の種類と信者の數等。

かやうにして調査した事項を、位置、地勢、氣候、原始産業、交通、工業、商業、處誌、生活特性の順序に整理して見よ。

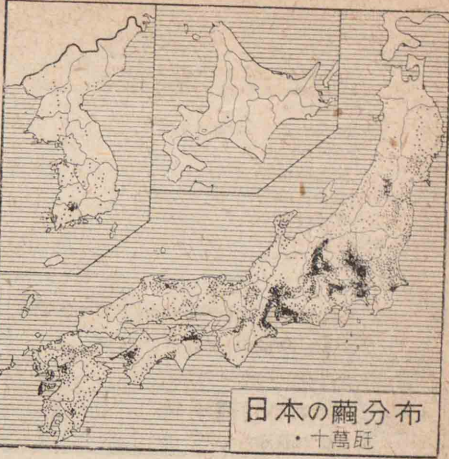
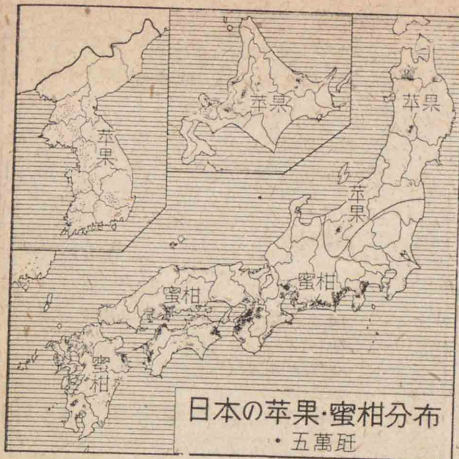


水産物

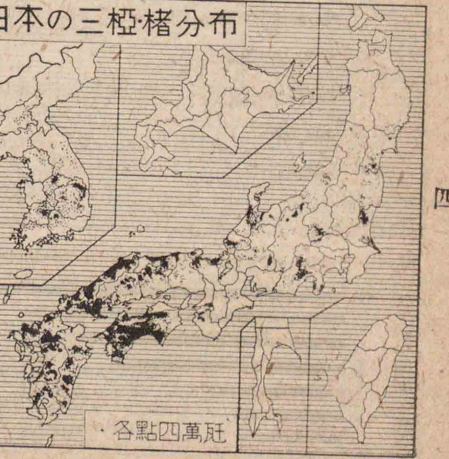
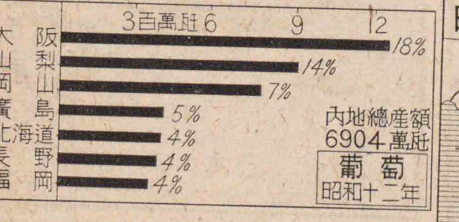
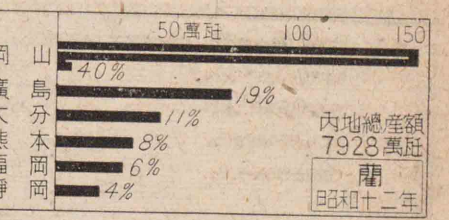
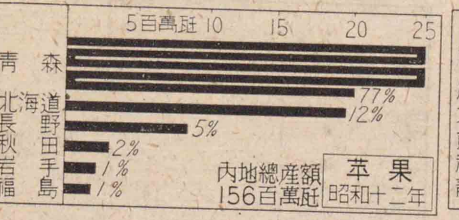
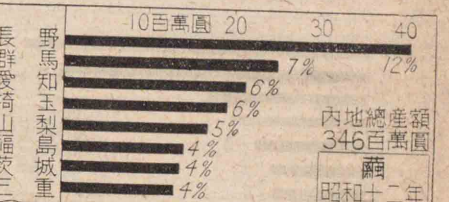
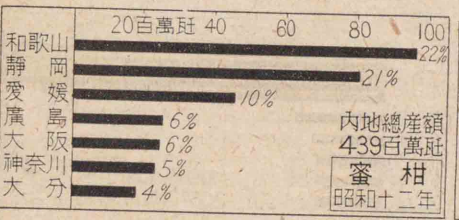
附録
日本地理統計表



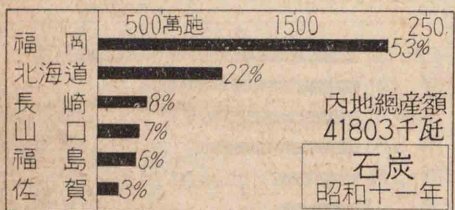
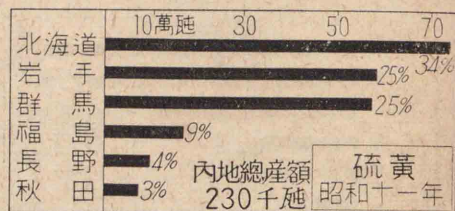
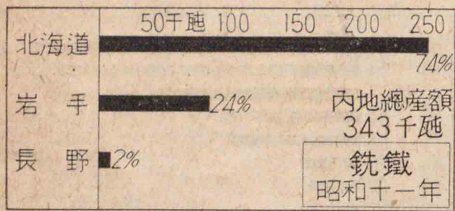
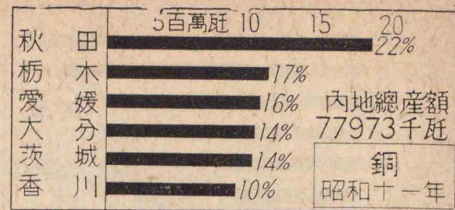
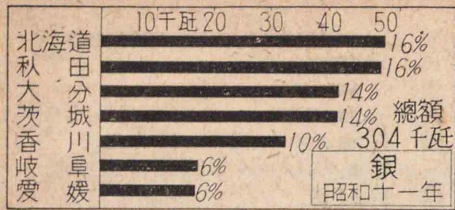
五



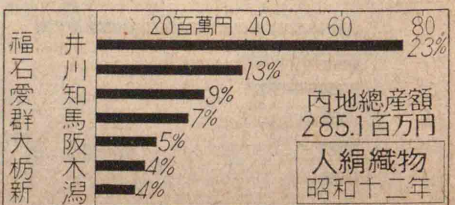
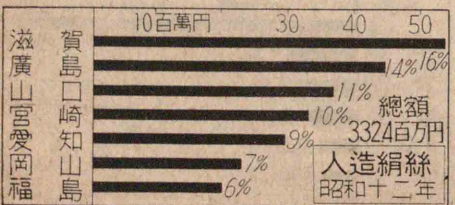
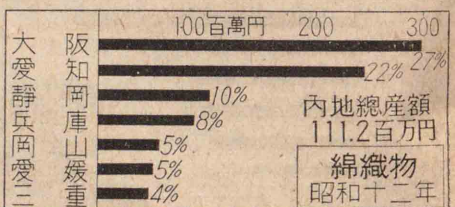
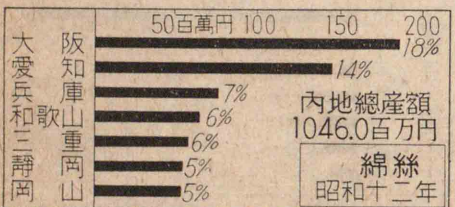
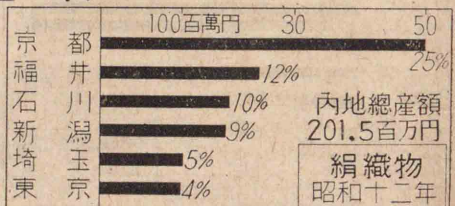
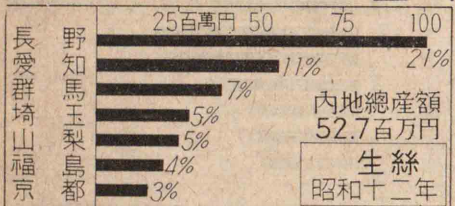
附録
日本地理統計表



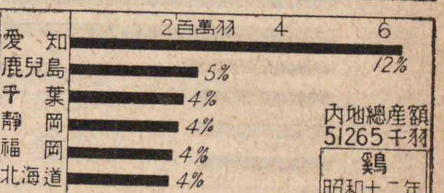
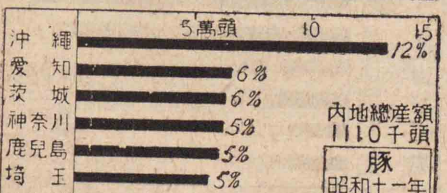
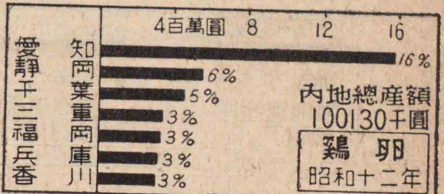
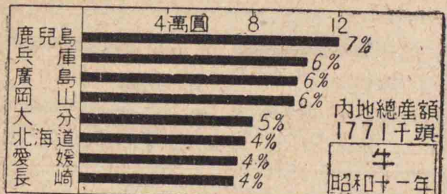
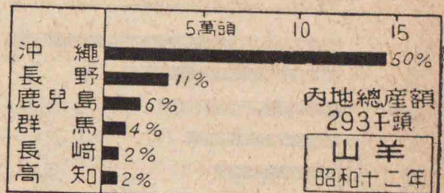
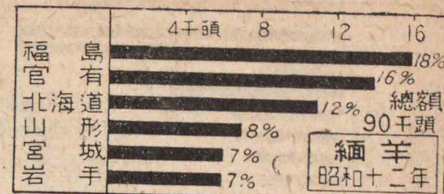
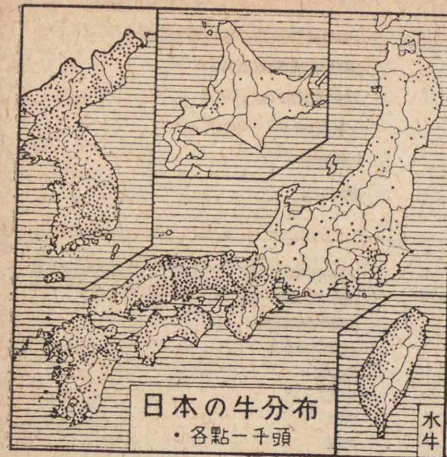
四



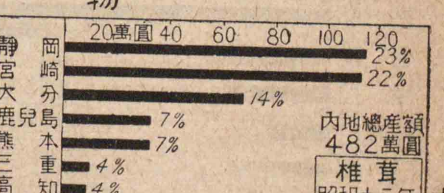
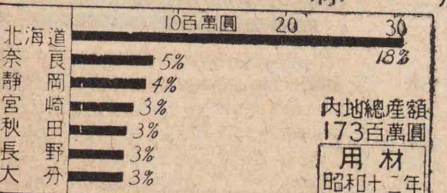
工産物



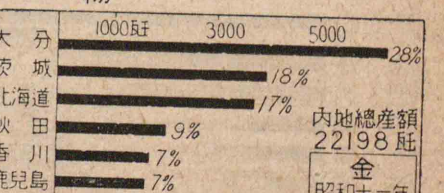
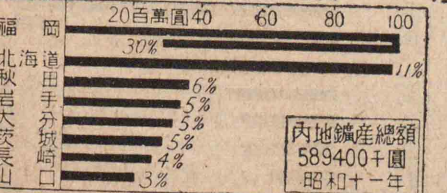
牧畜

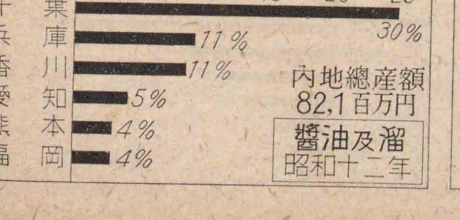
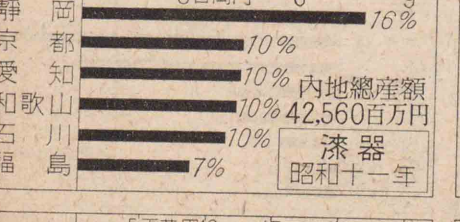
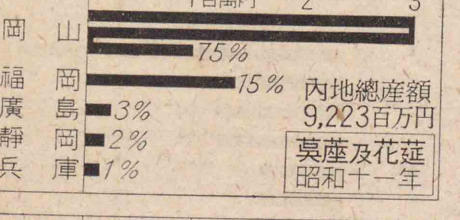
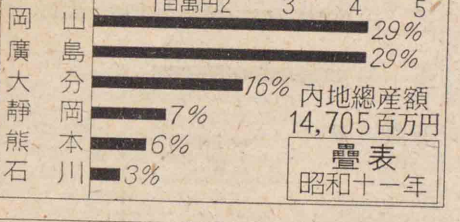
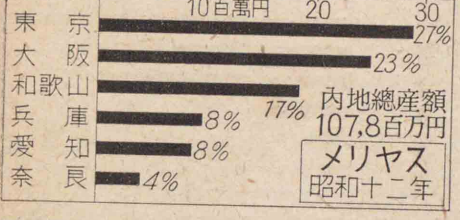
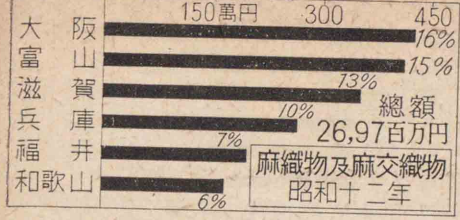
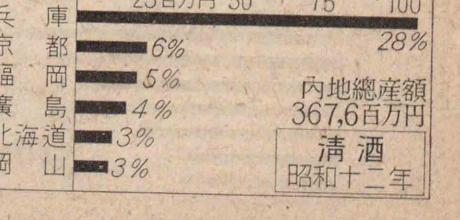
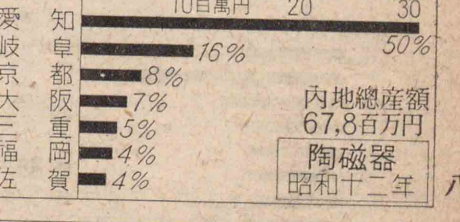
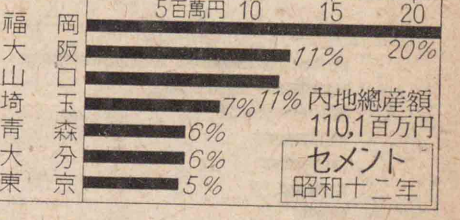
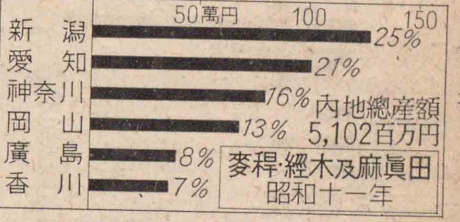
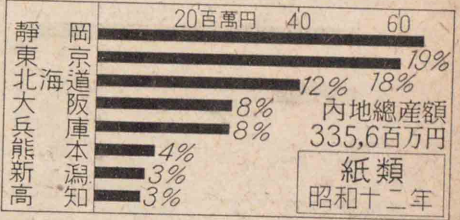
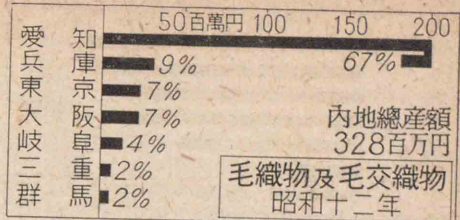


林産物



鑛産物





昭和十二年七月五日印
昭和十三年一月十五日訂正再版印刷
昭和十三年五月十五日訂正再版印刷
昭和十四年二月十五日訂正再版印刷
昭和十五年十二月十五日訂正再版印刷
昭和十六年八月十五日訂正再版印刷
昭和十七年七月八日訂正再版印刷
昭和十八年十月二十八日訂正再版印刷
昭和十九年二月八日訂正再版印刷
昭和二十年五月八日訂正再版印刷

新合 業新選地理 日本篇 修正版
準 據 合 業 新 選 地 理 日 本 篇 修 正 版
定 價 金 壹 圓



著作権所有
不許複製

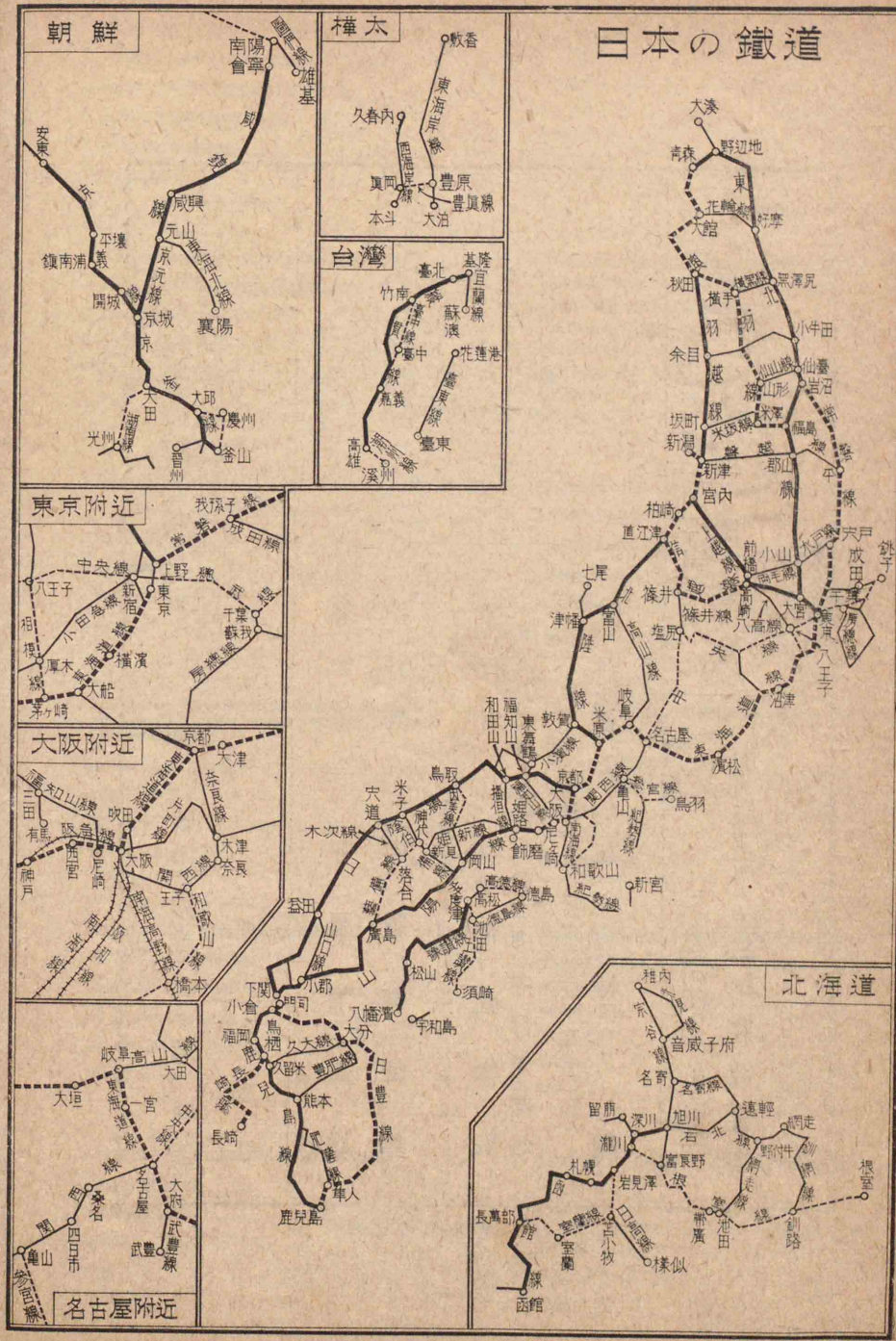
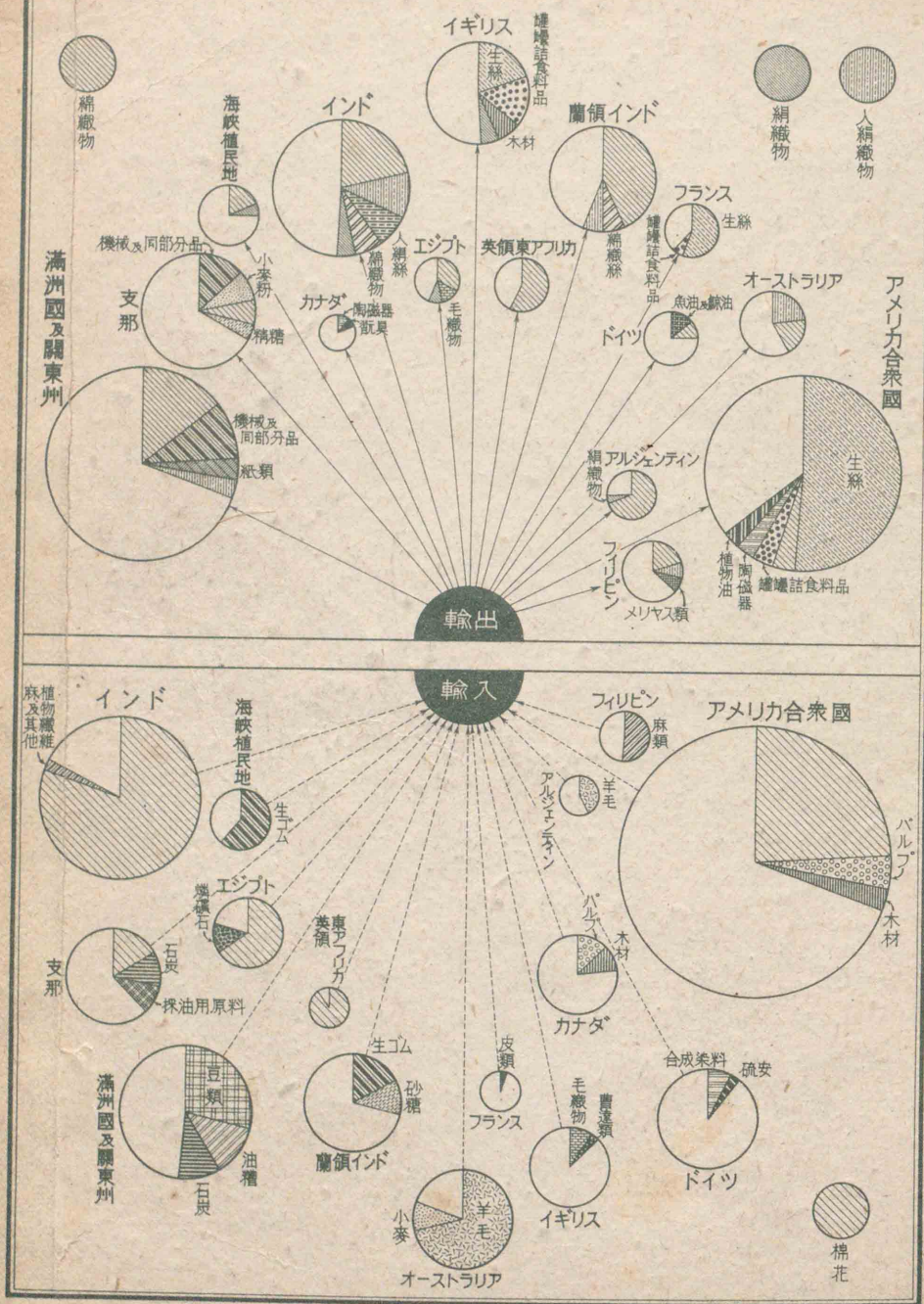
著者 守屋荒美 雄
補訂者 守屋美智雄
發行者 守屋紀美雄
印刷者 石村勲

東京市神田區西神田一丁目三番地
株式會社 帝國書院
代表者 守屋紀美雄
東京市牛込區市谷加賀町一丁目一二
石村勲

發賣所 東京市神田區西神田一丁目三番地
株式會社 帝國書院
振替口座東京六七〇一四番
電話九段(33)四二二六
四二二七
四二二九

關西販賣所 大阪市東區橫堀四丁目三番地
三宅莊藏書店
振替口座大阪六九番

本邦重要輸出入品相手國別 (昭和十二年)



茶
一
卷

広島大学図書

2000041340

